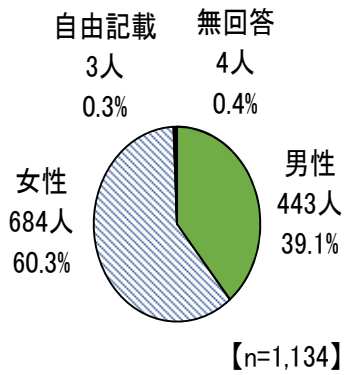
# Ⅱ　調査結果の分析

# １　あなたのことについて

## （１）性別

問１　性別をお答えください。（○は１つ）

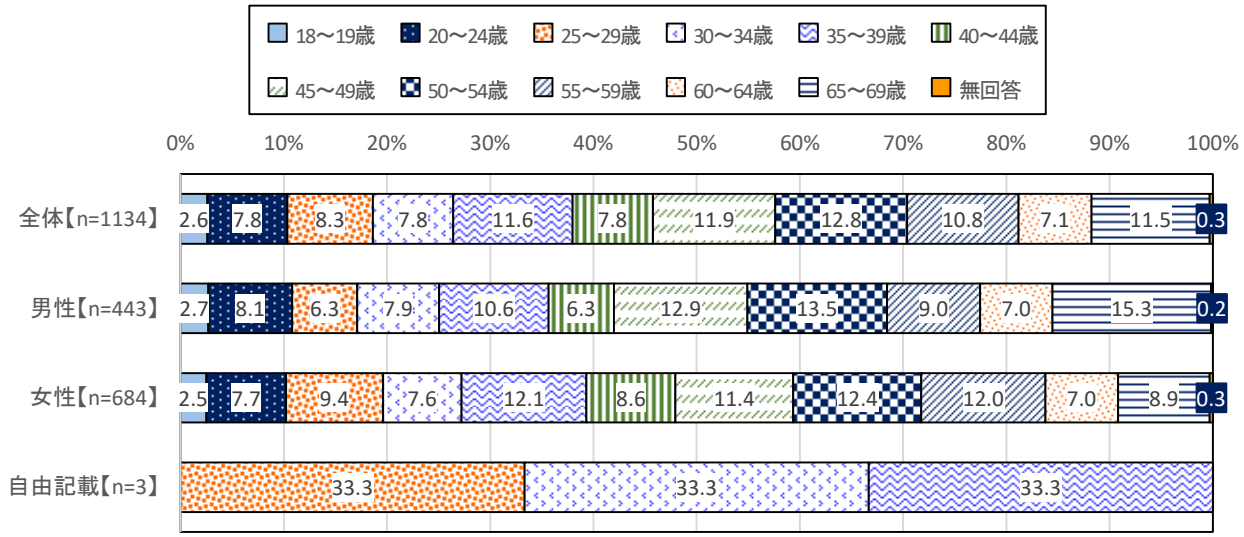



回答者の性別については、「男性」が 443 人で 39.1％、「女性」は 684 人で 60.3％となっている。

なお、「自由記載」は 3 人で 0.3％、「無回答」は 4 人で 0.4％となっている。

## （２）年齢

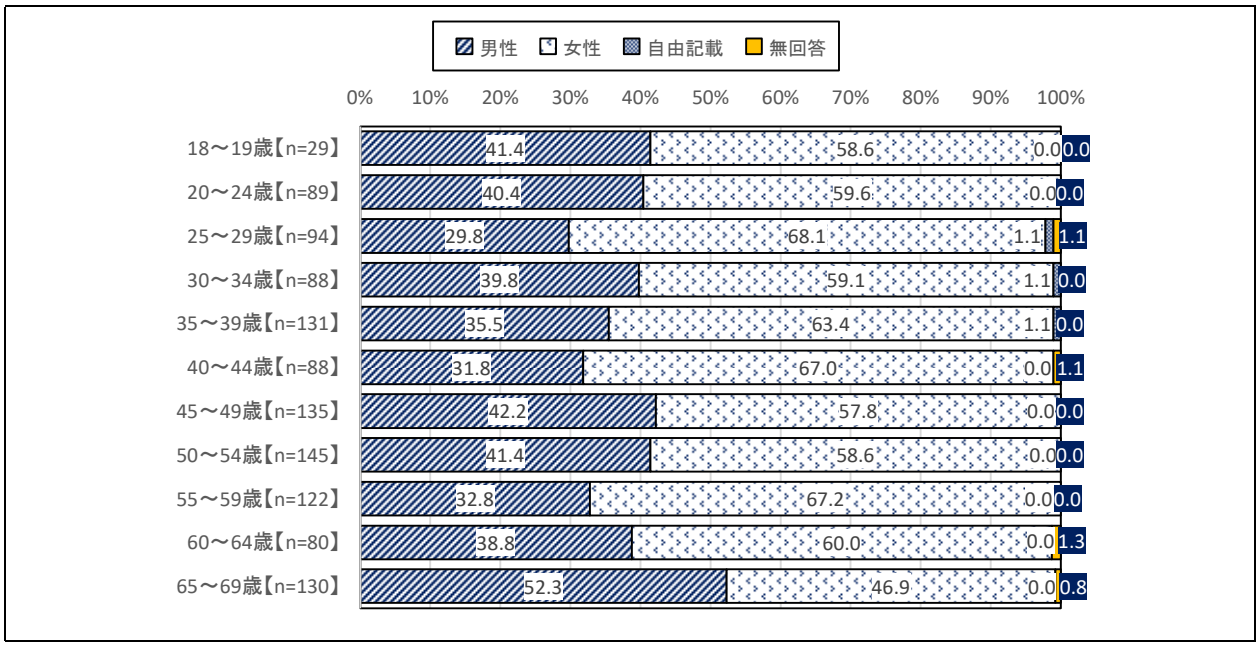
問２　年齢（令和２年１０月１日現在）をお答えください。（○は１つ）




回答者の年齢構成は、全体では「50～54 歳」（12.8％）が最も多く、以下、「45～49 歳」（11.9％）、「35～39 歳」（11.6％）、「65～69 歳」（11.5％）などと続いている。

男女別にみると、女性のほうが男性よりも若い年代の構成比が若干高くなっている。

●年代×性別クロス集計

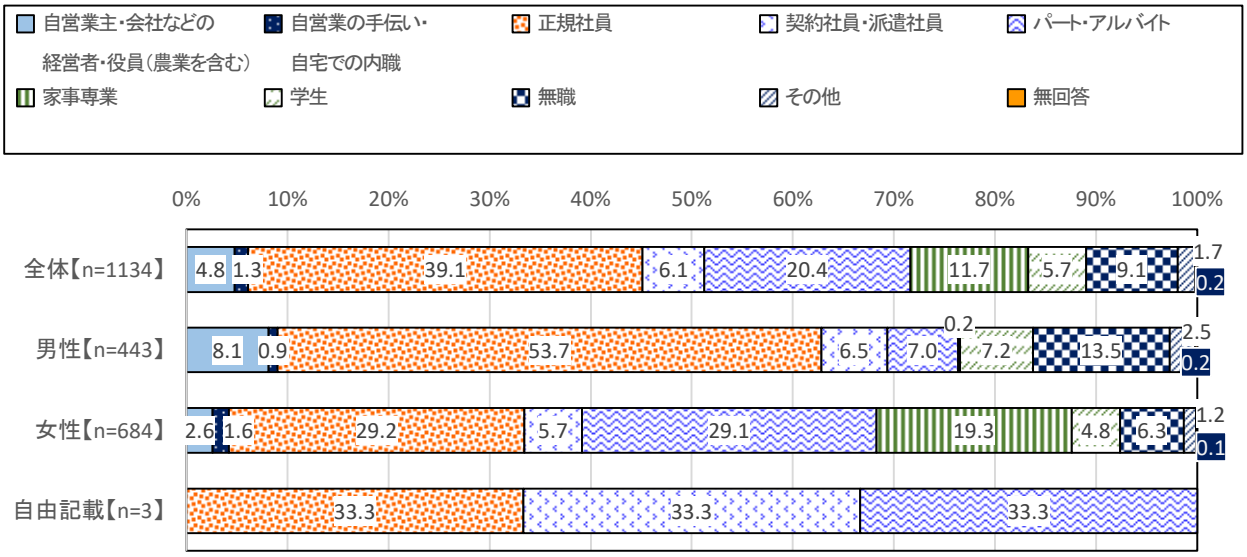



年代別に男女比をみると、多くの年齢階級で女性の比率が高くなっており、25～29 歳、55～59 歳では女性の比率が約７割を占めている。

一方、65～69 歳では唯一、男性の構成比が５割を占めるなど高くなっている。

## （３）職業

問３　職業をお答えください。（○は１つ）
（２つ以上仕事をお持ちの方は主なものを１つ）

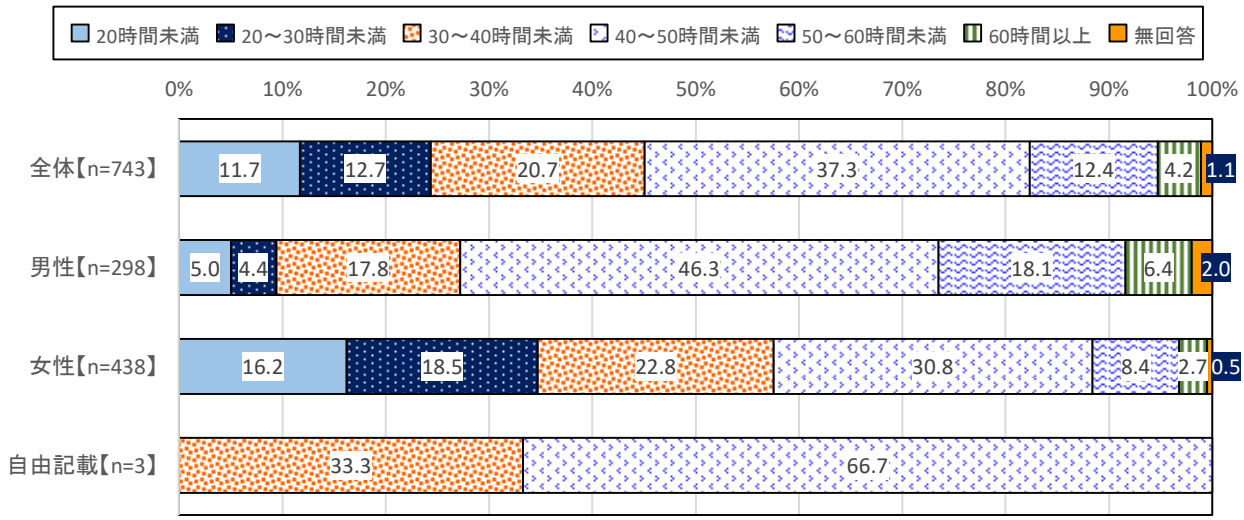



回答者の職業については、全体では「正規社員」（39.1％）が最も多く、以下、「パート・アルバイト」（20.4％）、「家業専業」（11.7％）、「無職」（9.1％）などとなった。

男女別にみると、男性、女性いずれも「正規社員」が最も多く、特に男性では「正規社員」が約５割を占めている。女性では、「正規社員」と「パート・アルバイト」がほぼ同率で上位を占めている。

## （４）週平均の勤務時間

問３－１　問３で「３．正規社員」「４．契約社員・派遣社員」「５．パート・アルバイト」とお答えいただいた方にうかがいます。
１週間で平均的におおよそ何時間くらい働いていますか（残業時間も含めます）。（○は１つ）

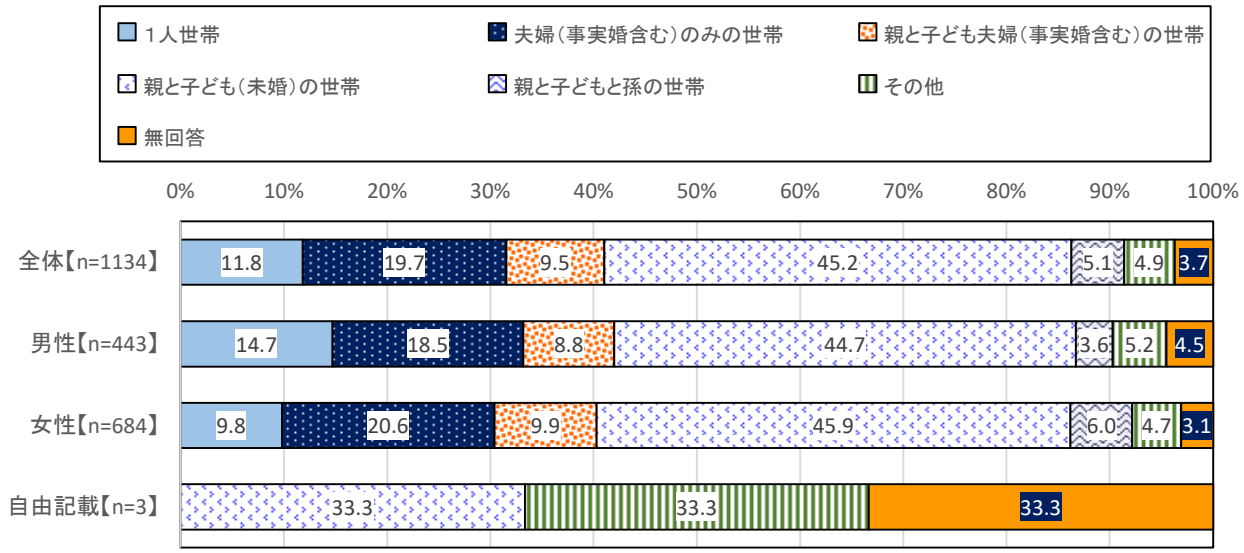



「正規社員」「非正規社員」「パート・アルバイト」で働いていると回答した人に、１か月あたりの平均的な残業時間を尋ねたところ、全体では「40～50 時間未満」（37.3%）で最も多く、以下、「30～40 時間未満」（20.7%）、「20～30 時間未満」（12.7%）などと続いている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「40～50 時間未満」が最も多かった。以下、男性では「50～60 時間未満」（18.1%）、「30～40 時間未満」（17.8%）などの順となっている。女性では「30～40 時間未満」（22.8%）、「20～30 時間未満」（18.5%）、「20 時間未満」（16.2%）などの順となった。

## （５）世帯構成

問４　現在の世帯構成は、次のどれに当たりますか。（○は１つ）

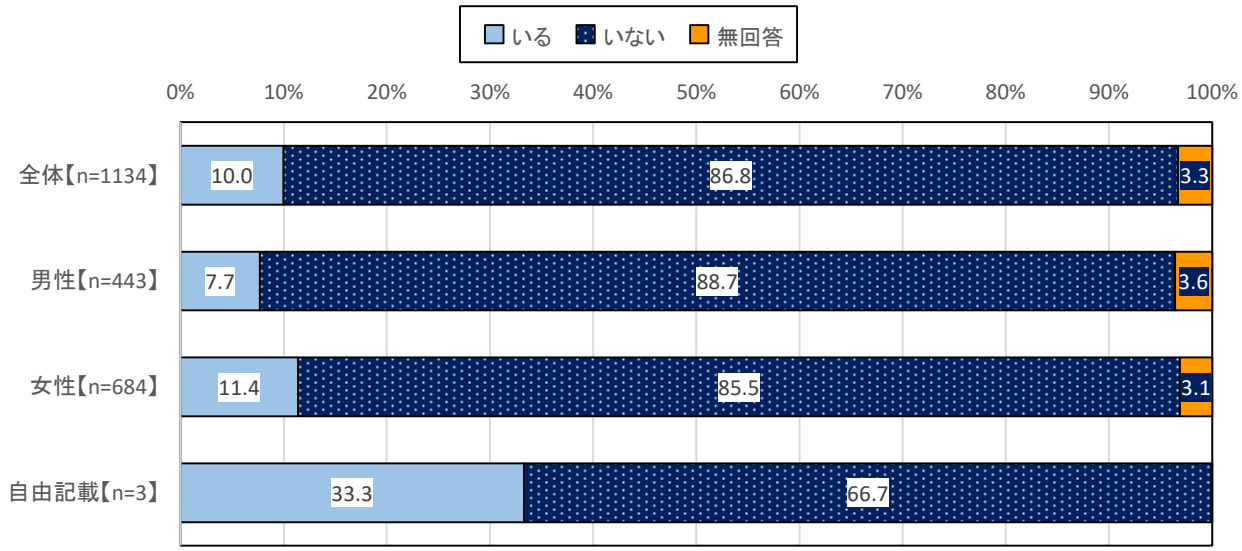



回答者の世帯構成については、「親と子ども（未婚）の世帯」（45.2％）が最も多いほか、「夫婦（事実婚含む）のみの世帯」（19.7％）、「１人世帯」（11.8％）、「親と子ども夫婦（事実婚含む）の世帯」（9.5％）などとなっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「親と子ども（未婚）の世帯」が最も多く、４割を占めている。

## （６）要介護者・看護者の有無

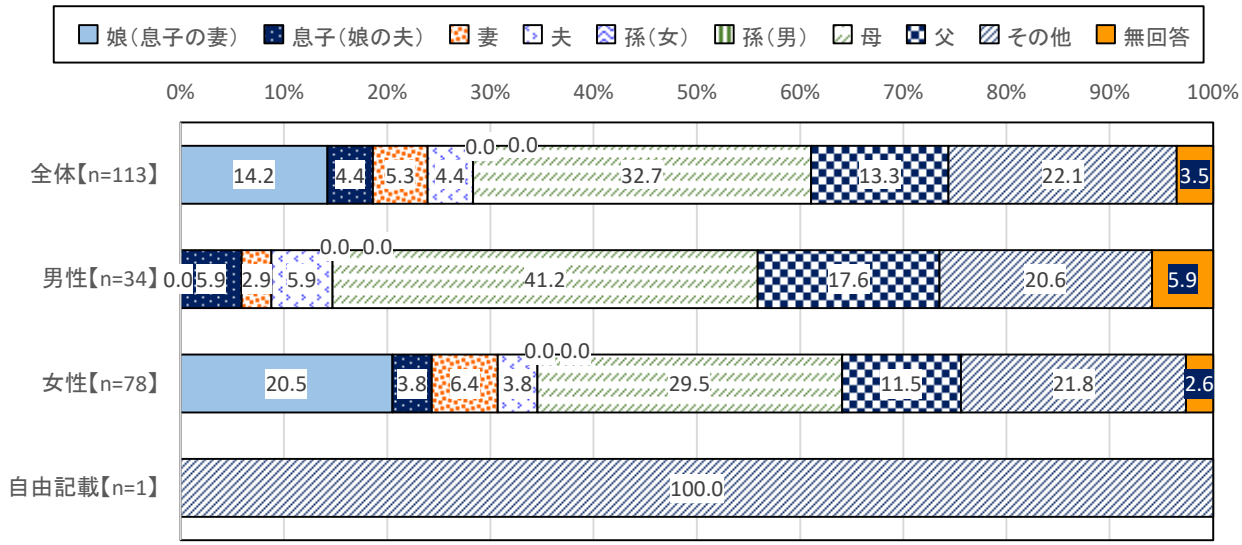
問５　あなたの家族に、現在介護や看護を必要とする方はいますか。（○は１つ）




世帯に現在介護や看護を必要とする者が「いる」割合は、全体では 10.0％となっている。男女別にみると、男性では 7.7％、女性では 11.4％となっている。

## （７）《世帯に要介護者・看護者がいる人》主な介護・看護者

主な介護・看護者はどなたですか。（介護・看護されている方から見た続柄１つに○）




世帯に現在介護や看護を必要とする者が「いる」と回答した人に、主な介護・看護者の続柄（介護・看護されている方から見た）を尋ねたところ、「母」（32.7％）、「娘（息子の妻）」（14.2％）、「父」（13.3％）、「妻」（5.3％）などが多く挙げられている。

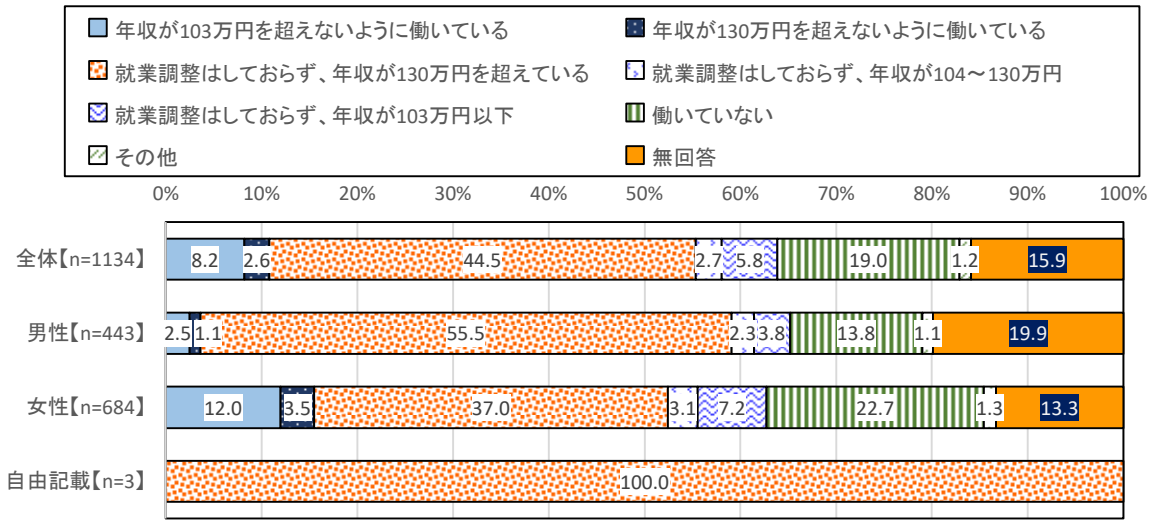
男女別にみると、男性では「母」が 41.2％で最も多くなっているが、女性では「母」の 29.5％に次いで「娘（息子の妻）」が 20.5％と多く挙げられている。

## （８）本人・配偶者による就業調整の有無

問６　あなた又はあなたの配偶者は就業調整※をしていますか。（○はそれぞれ１つ）

※用語の意味
本来ならもっと働けるが、税や社会保険料負担などを考慮して、働く時間や年収額を自主的に抑えることをいいます。

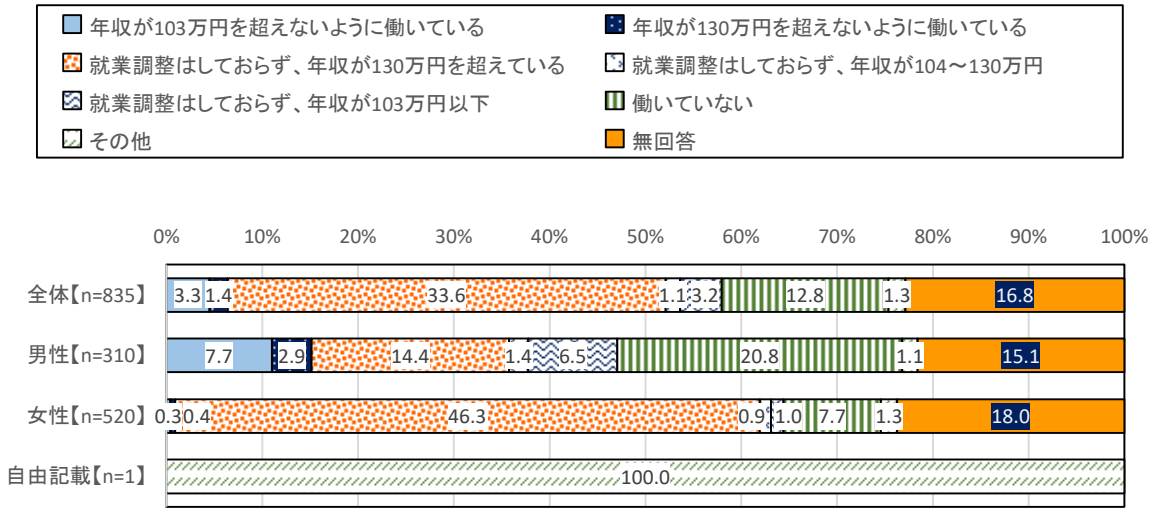
1　あなた




自分自身が就業調整をしているか尋ねたところ、全体では「就業調整はしておらず、年収が 130 万円を超えている」（44.5%）が最も多く、次いで「働いていない」（19.0%）、「年収が 103 万円を超えないように働いている」（8.2%）が続いている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「就業調整はしておらず、年収が 130 万円を超えている」が最も多い。また、女性では「年収が 103 万円を超えないように働いている」の回答割合が男性よりも多くなっている。

2　配偶者

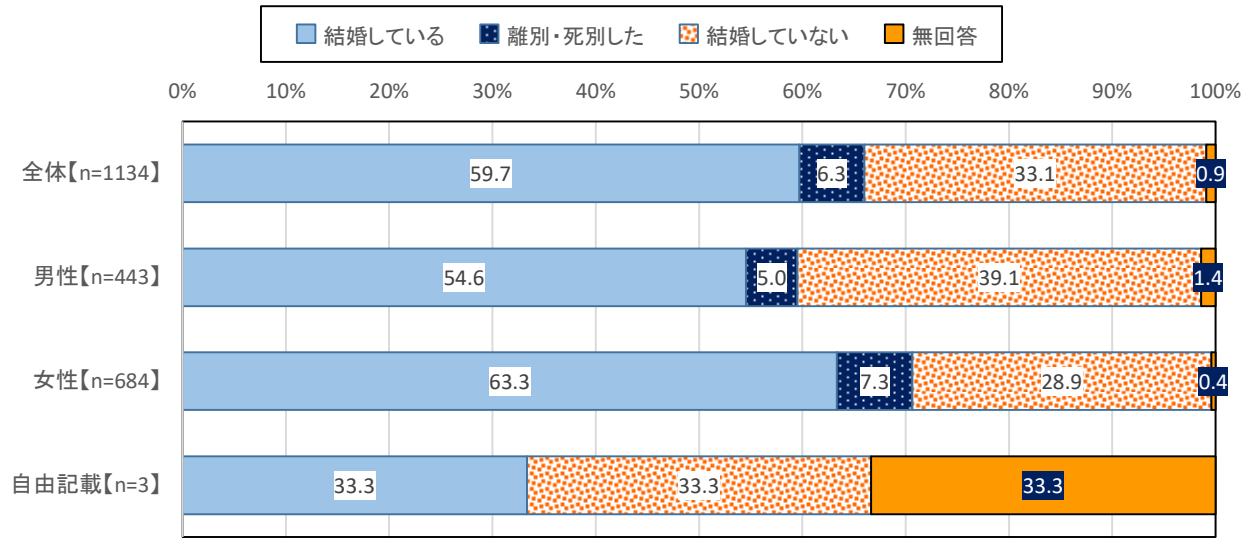



配偶者が就業調整をしているか尋ねたところ、全体では「就業調整はしておらず、年収が130万円を超えている」（33.6%）が最も多く、次いで「働いていない」（12.8%）、「年収が103万円を超えないように働いている」（3.4%）が続いている。

男女別にみると、男性（の配偶者）が「年収が103万円を超えないように働いている」（7.7%）、「就業調整はしておらず、年収が103万円以下」（14.4%）の回答割合は女性よりも多くなっている。

## （９）結婚しているか

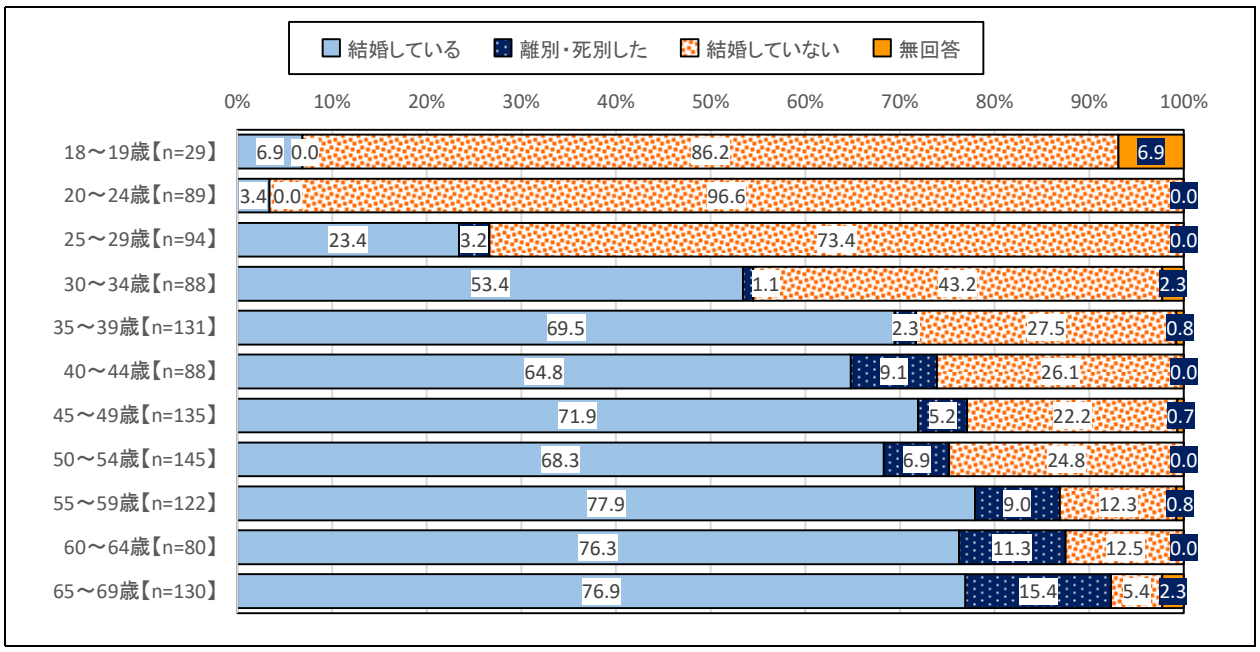
問７　結婚（事実婚を含む）されていますか。（○は１つ）




事実婚を含めた婚姻状況を尋ねたところ、全体の 59.7%が「結婚している」と回答している。

男女別に「結婚している」の回答割合をみると、男性では 54.6%、女性では 63.3%となっている。

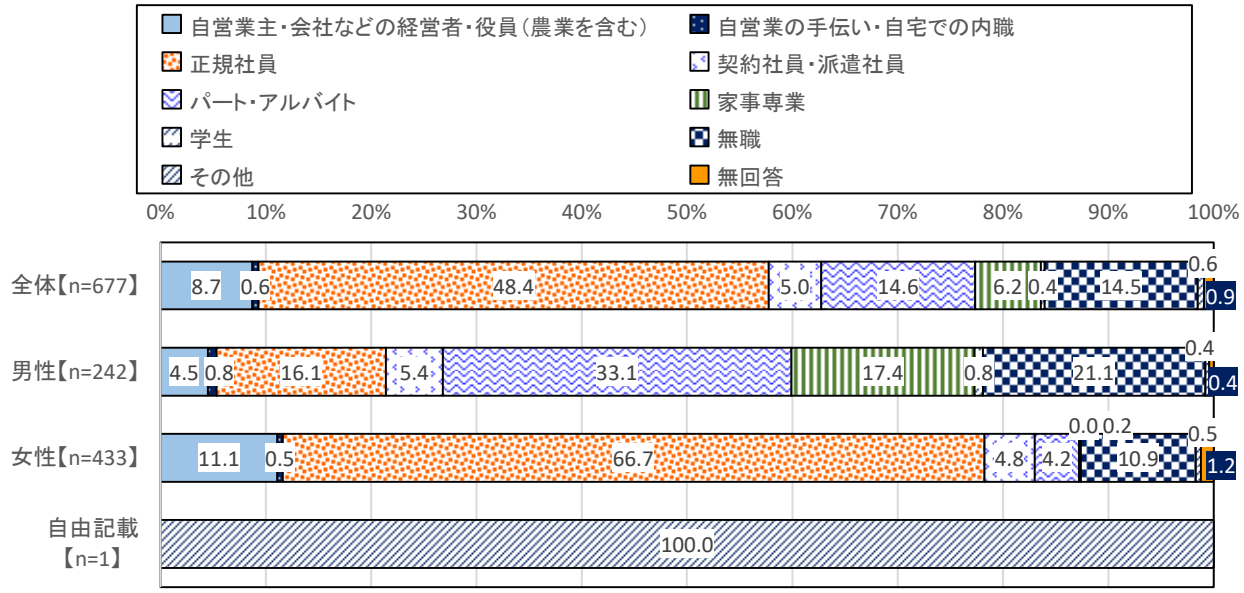
### ●年代別クロス集計




年代別にみると、「結婚している」の回答割合は「20～24 歳」を境に年齢階層が上がるごとに増加しており、「55～59 歳」では 77.9%と最も多くなっている。

## （10）《結婚している人》配偶者・パートナーの職業

問７－１　問７で「１．結婚している」とお答えいただいた方にうかがいます。
あなたの配偶者・パートナーの職業はどのような内容ですか。（○は１つ）
（２つ以上仕事をお持ちの方は主なものを１つ）



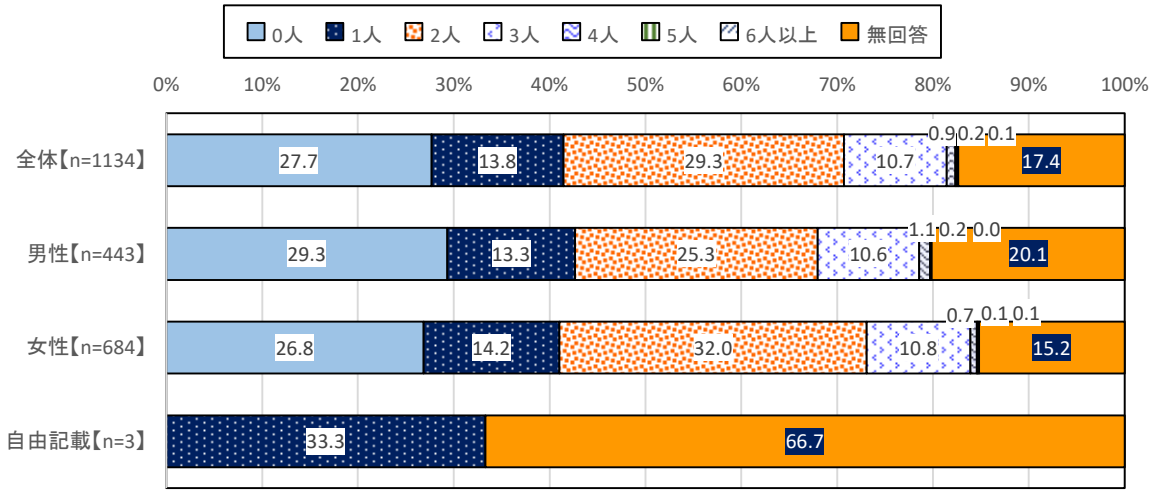

現在結婚していると回答した人に配偶者の職業を尋ねたところ、全体では「正規社員」（48.4％）が最も多く、以下、「パート・アルバイト」（14.6％）、「無職」（14.5％）、「自営業主・会社などの経営者・役員（農業を含む）」（8.7％）などとなっている。

男女別にみると、男性（の配偶者・パートナー）では「パート・アルバイト」（33.1％）が最も多く、次いで「無職」（21.1％）、「家事専業」（17.4％）、「正規社員」（16.1％）となっている。女性（の配偶者・パートナー）では「正規社員」（66.7％）が最も多くなっている。

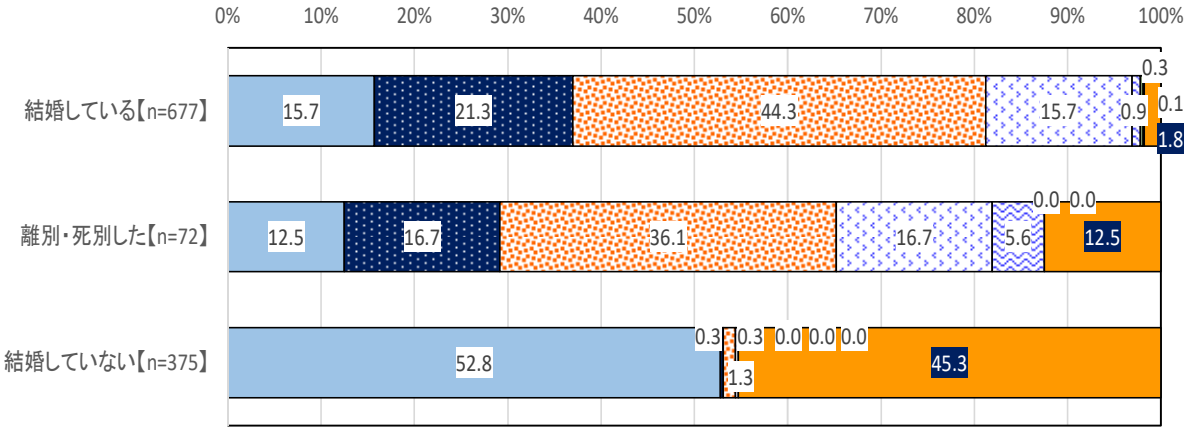
## （11）子どもの人数

問８　子どもの人数について、現実と理想をお答えください。（数字を記入）

①現実の子どもの人数




＜婚姻状況別＞




現実の子どもの人数については、全体では「２人」（29.3%）が最も多く、以下、「１人」（13.8%）、「３人」（10.7%）、「４人」（0.9%）となっている。一方、27.7%は「０人」と回答している。

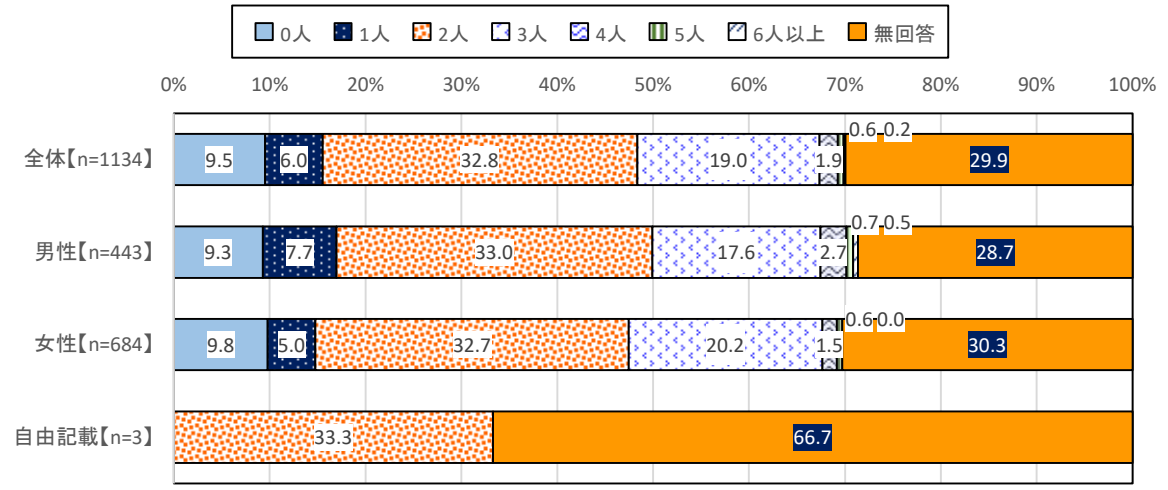
男女別にみると、「０人」以外の回答では、男性、女性いずれも「２人」が最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、「結婚している」では「２人」（44.3%）が最も多く、以下、「１人」（21.3%）、「０人」と「３人」（それぞれ 15.7%）などとなっている。

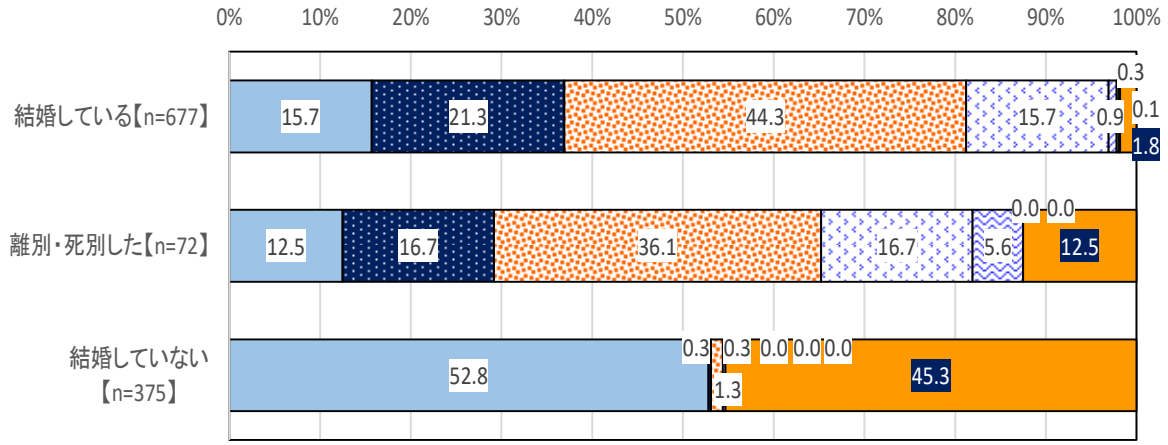
「離別・死別した」では「２人」（36.1%）が最も多く、次いで、「１人」と「３人」（それぞれ 16.7%）などとなっている。

「結婚していない」では「２人」（1.3%）が最も多く挙げられており、次いで、「１人」と「３人」（それぞれ 0.3%）となっている。また、52.8%が「０人」と回答している。

②理想の子どもの人数




＜婚姻状況別＞



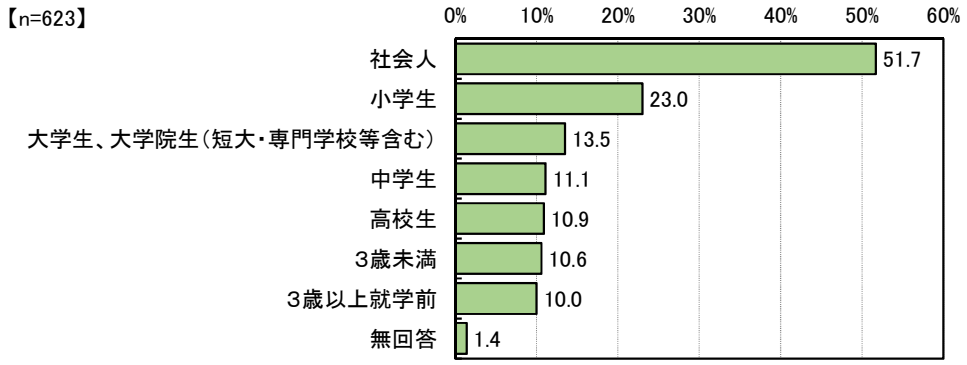

理想の子どもの人数については、全体では「２人」（32.8％）が最も多く、以下、「３人」（19.0％）、「０人」（9.5％）、「１人」（6.0％）となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「２人」が最も多くなっている。

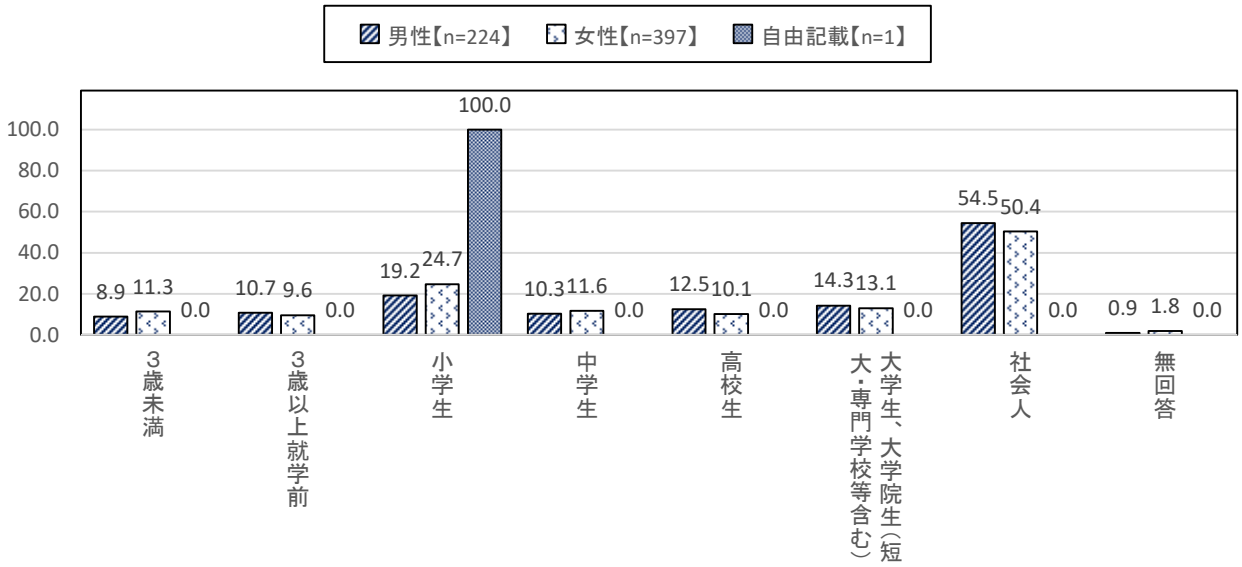
婚姻状況別にみると、「結婚している」、「離別・死別した」、「結婚していない」、いずれも「２人」が最も多くなっている。一方で、「０人」の回答が多かった「結婚していない」の 20.5％と、「０人」の回答が少なかった「結婚している」の 3.8％では５倍もの差がみられた。

## (12) 《子どもがいる人》子どもの年代

③①で子どもが１人以上いるとお答えの方にお尋ねします。
子どもの年代（○はいくつでも）




＜男女別＞

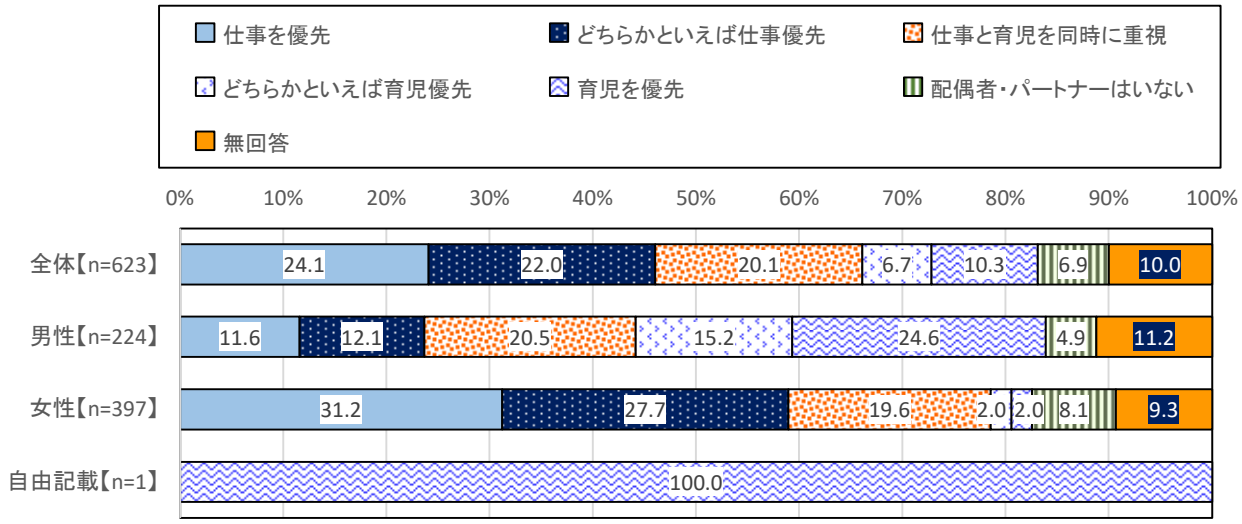



子どもが１人以上いると回答した人に子どもの年代を尋ねたところ、全体では「社会人」（51.7%）が最も多いほか、「小学生」（23.0%）、「大学生、大学院生（短大・専門学校等含む）」（13.5%）となっている。

男女別にみても、男性、女性ともに「社会人」が最も多く、次いで「小学生」、「大学生、大学院生（短大・専門学校等含む）」と上位３項目が同じであった。

## (13) 《子どもがいる人》配偶者・パートナーの働き方と子育ての状況

問８－１　問８で実際の子どもの人数が１人以上と回答した方（子どもがいる方）にうかがいます。
現在のあなたの配偶者・パートナーの働き方と子育ては次のどれに近いですか。
（○は１つ）




子どもがいると回答した人に現在の配偶者・パートナーの働き方と子育ての状況について尋ねたところ、全体では「仕事優先」（24.1%）が最も多く、以下、「どちらかといえば仕事優先」（22.0%）、「仕事と育児を同時に重視」（20.1%）、「育児を優先」（10.3%）、「どちらかといえば育児優先」（6.7%）の順となっている。

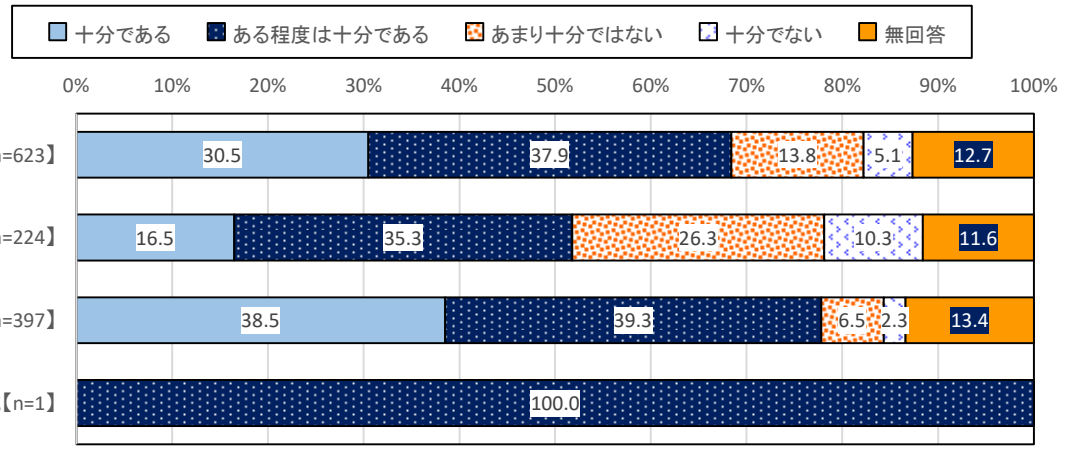
また、6.9%が「配偶者・パートナーはいない」と回答している。

男女別にみると、男性は『（配偶者・パートナーは）育児優先』（「どちらかといえば育児優先」、「育児を優先」の合計）が 39.8%、『（配偶者・パートナーは）仕事優先』（「仕事を優先」、「どちらかといえば仕事優先」の合計）が 23.7%であるのに対し、女性は『（配偶者・パートナーは）仕事優先』58.9%と半数を占め、『（配偶者・パートナーは）育児優先』は 4.0%であった。

## (14)　《子どもがいる人》子育てと家事への関わり方

問８－２　問８で実際の子どもの人数が１人以上と回答した方（子どもがいる方）にうかがいます。
あなたと配偶者・パートナーの子育て・家事への関わりは十分だと思いますか。
（①～④について、それぞれ該当する番号に○を１つ）

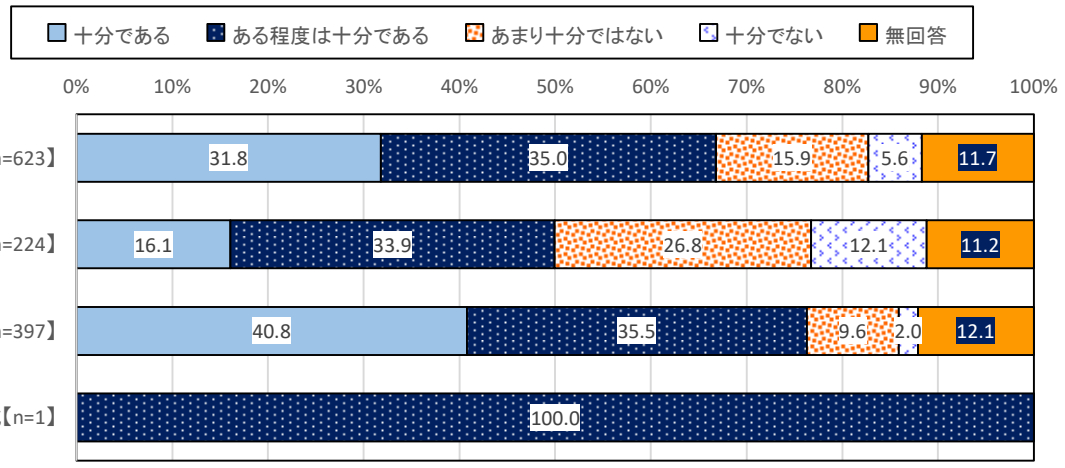
1　あなたの子育てへの関わり




回答者自身の子育てへの関わりについて尋ねたところ、全体では「ある程度は十分である」（37.9%）が最も多く、以下、「十分である」（30.5%）、「あまり十分ではない」（13.8%）、「十分でない」が（5.1%）の順となっている。

男女別にみると、男性、女性ともに「（自分は）ある程度は十分である」が最も多くなっているが、次点では、男性が「（自分は）あまり十分ではない」（26.3%）に対して女性は「（自分は）十分である」（38.5%）と違いが見られた。

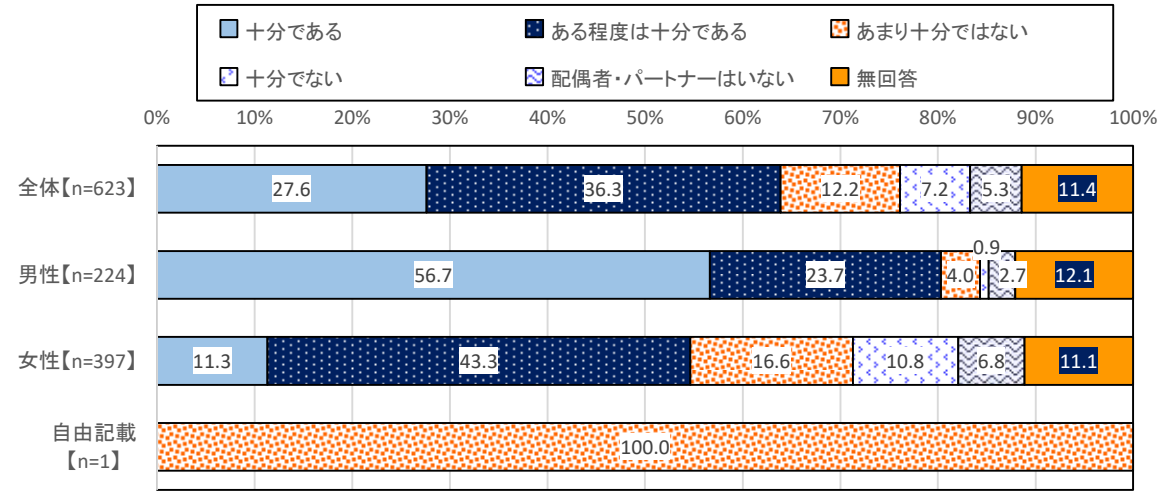
2　あなたの家事への関わり




回答者自身の家事への関わりについて尋ねたところ、全体では「ある程度は十分である」（35.0%）が最も多く、以下、「十分である」（31.8%）、「あまり十分ではない」（15.9%）、「十分でない」（5.6%）の順となっている。

男女別にみると、男性では「（自分は）ある程度十分である」（33.9%）、女性では「（自分は）十分である」（40.8%）がそれぞれ最も多くなっている。

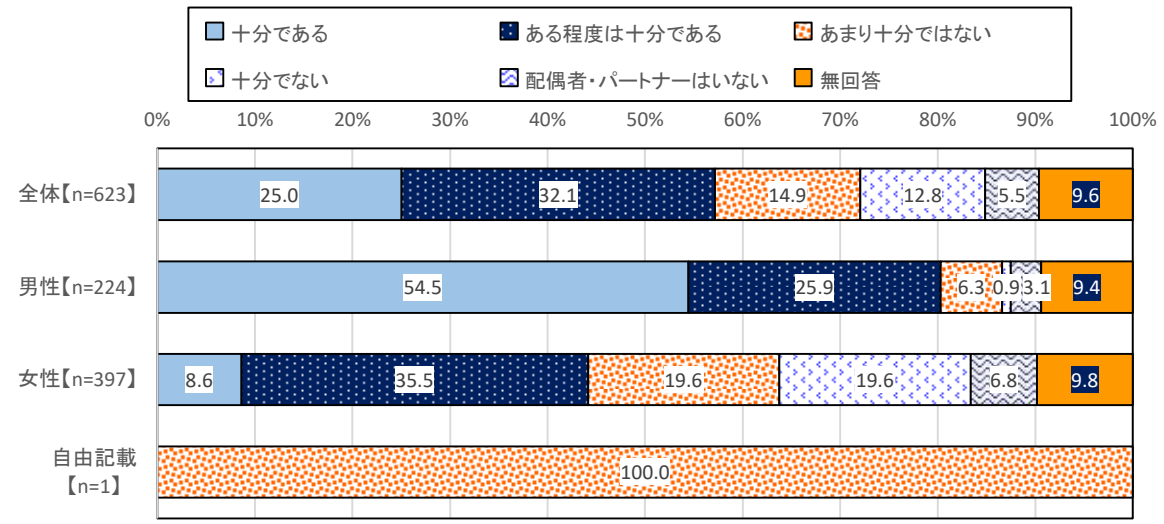
3　配偶者・パートナーの子育てへの関わり




配偶者・パートナーの子育てへの関わりについて尋ねたところ、全体では「ある程度は十分である」（36.3%）が最も多く、以下、「十分である」（27.6%）、「あまり十分ではない」（12.2%）、「十分でない」（7.2%）の順となっている。

男女別では、男性は「（配偶者・パートナーは）十分である」が 56.7%と５割を超えたが、女性は 11.3%と差がみられた。

4　配偶者・パートナーの家事への関わり




配偶者・パートナーの家事への関わりについて尋ねたところ、全体では「ある程度は十分である」（32.1%）が最も多く、以下、「十分である」（25.0%）、「あまり十分ではない」（14.9%）、「十分でない」（12.8%）の順となっている。

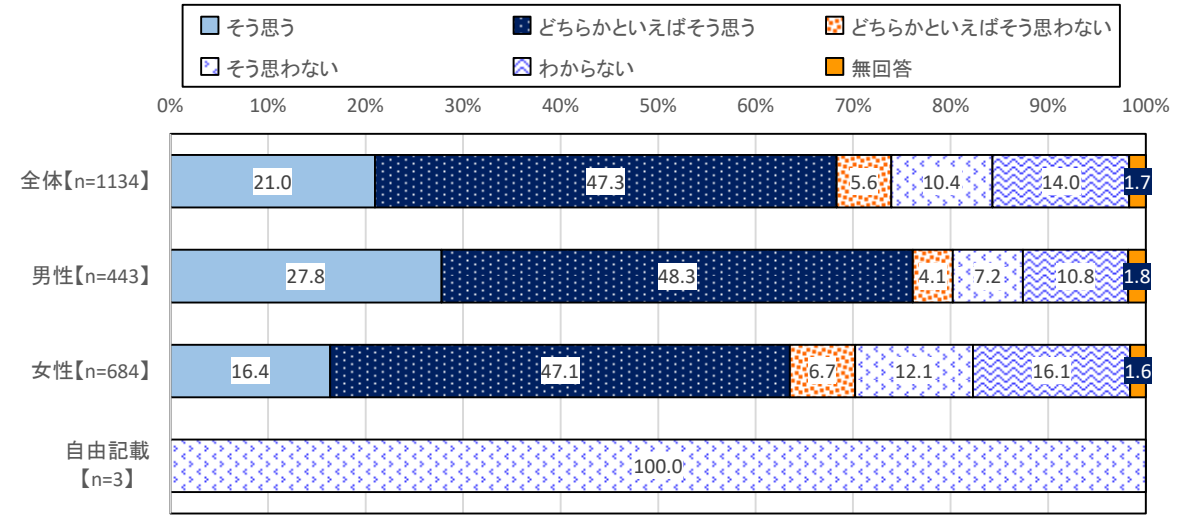
男女別では、「（配偶者・パートナーは）十分である」の回答割合について、男性は 54.5%と多く、女性は 8.6%と少ない。また、「（配偶者・パートナーは）十分でない」の回答割合では、男性は 0.9%と少なく、女性は 19.6%と多くなっている。

## 2　男女の生き方や家庭生活に関する意識について

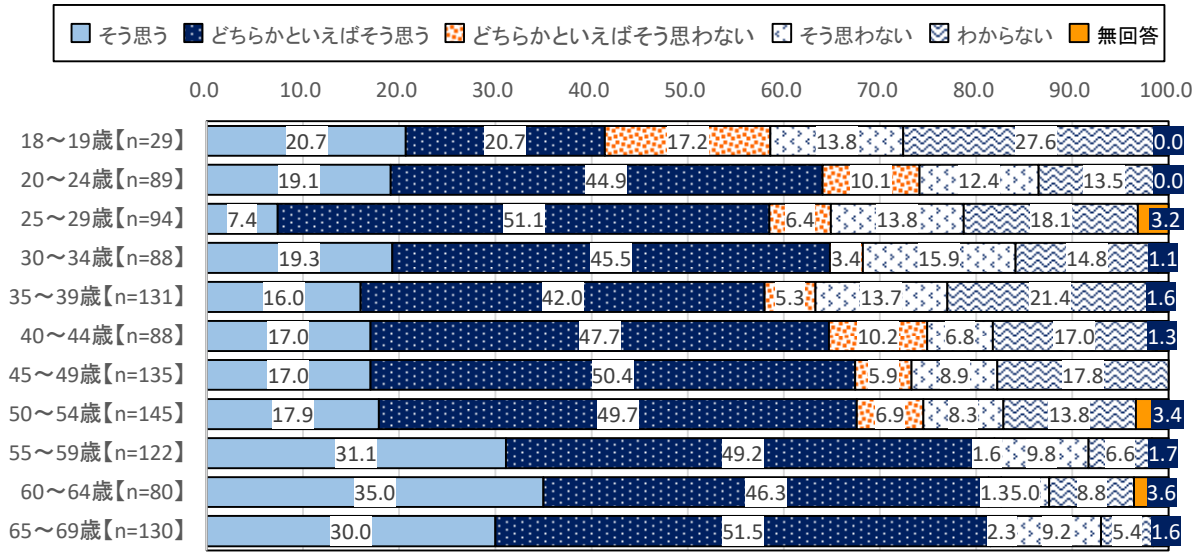
### （１）結婚や子どもを持つことに対する認識

問９　結婚や子どもをもつこと、家庭生活等についてどう思いますか。（①～⑩についてそれぞれ該当する「１～５」に○を１つ）

①人は結婚する方がよい




＜年齢別＞

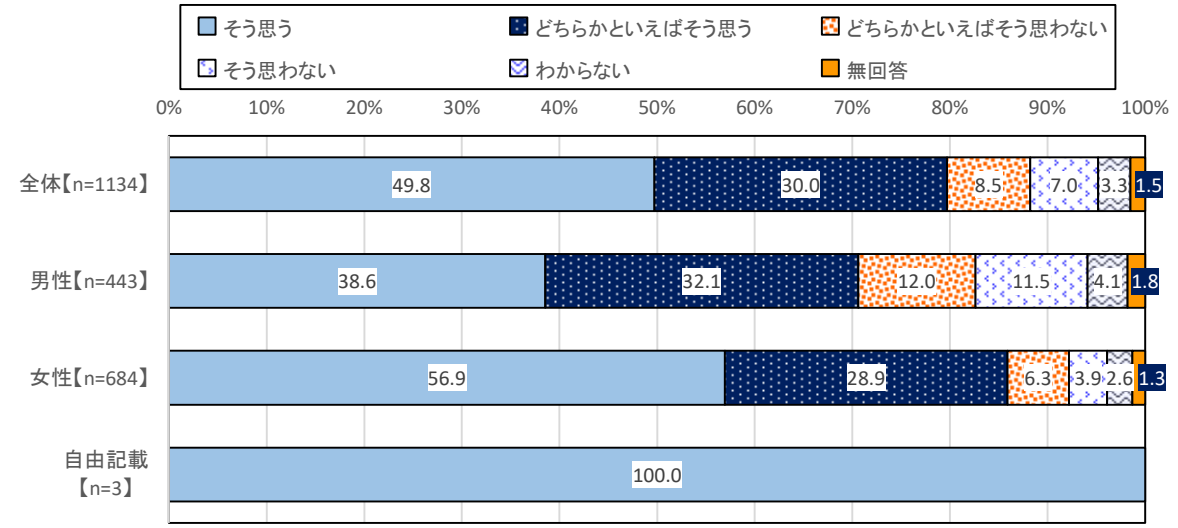



『①人は結婚する方がよい』という考えについては、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では 68.3％となっている。一方、14.0％は「わからない」と回答している。

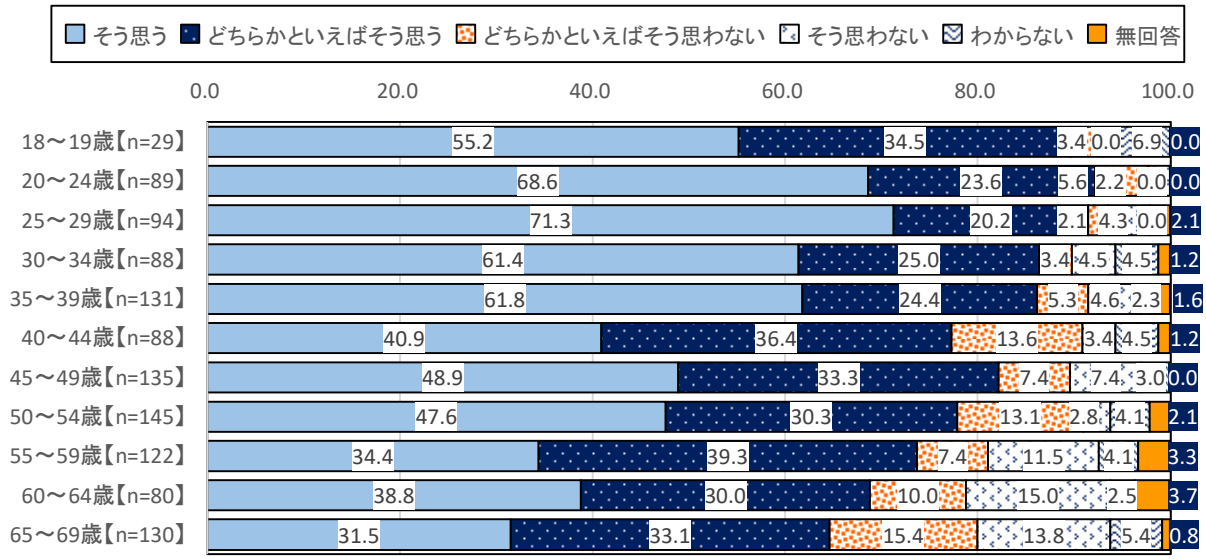
男女別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっている。

年齢別でみると、「35～39 歳」を境に「そう思わない」の回答比率が低くなっている。

②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい




＜年齢別＞

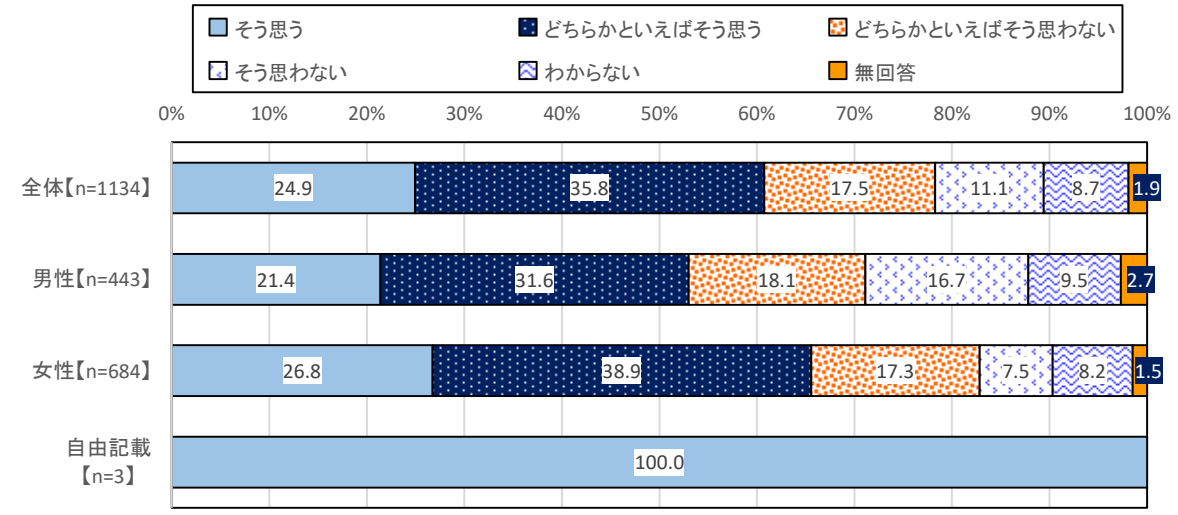



『②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では 79.8%となっている。

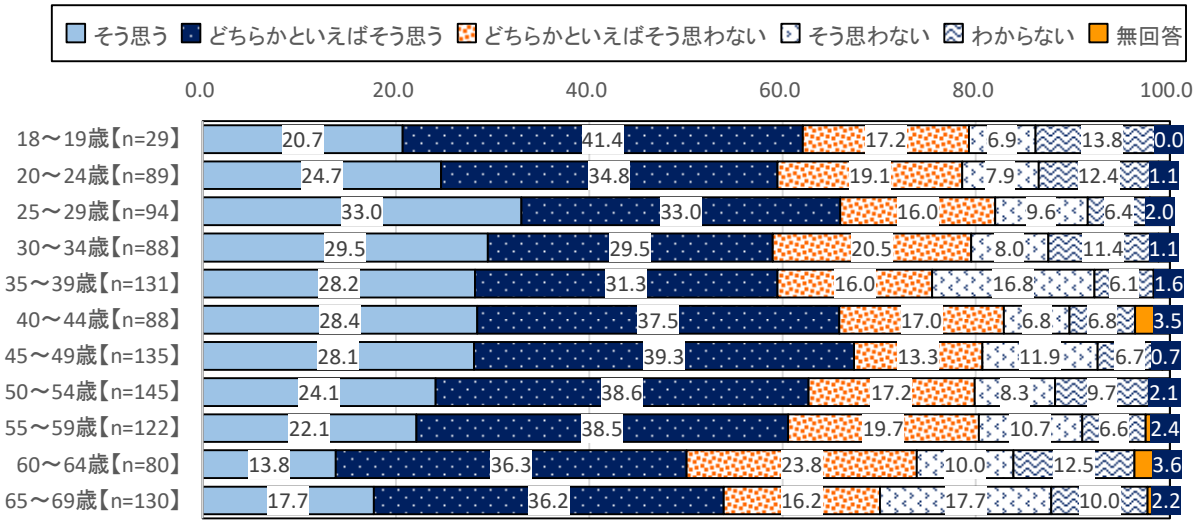
男女別に『そう思う割合』をみると、男性では 70.7%、女性では 85.8%となっている。

年齢別にみると、「35～39 歳」を境に「そう思う」の回答比率が低くなり、「どちらかといわばそう思わない」の回答割合が高くなっている。

③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



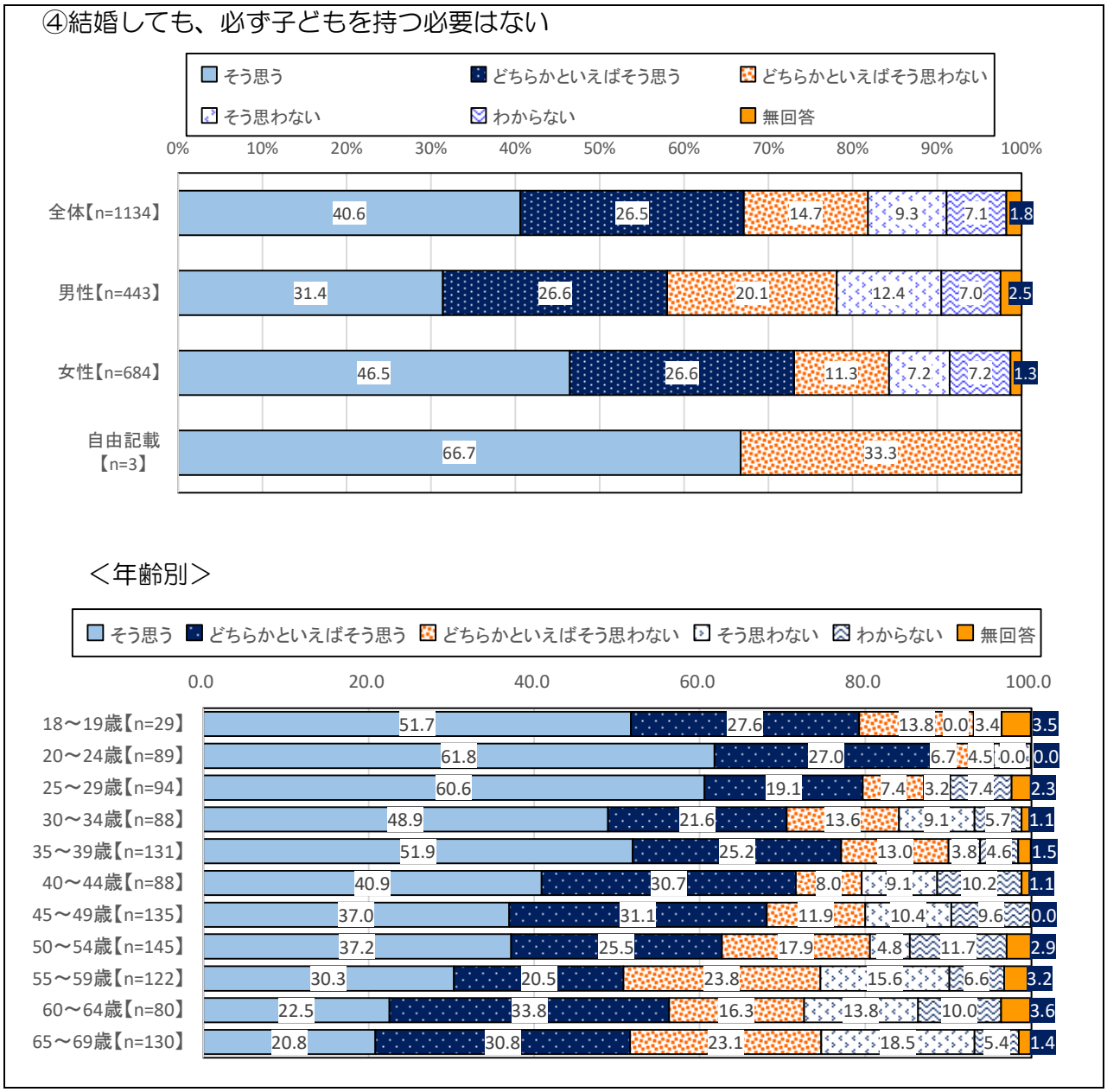

＜年齢別＞




『③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では60.7%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では53.0%、女性では65.7%となっている。

年齢別では、「そう思う」の回答割合が「25～29歳」（33.0%）を境に低くなっているが、「65～69歳」では再び高くなっている。

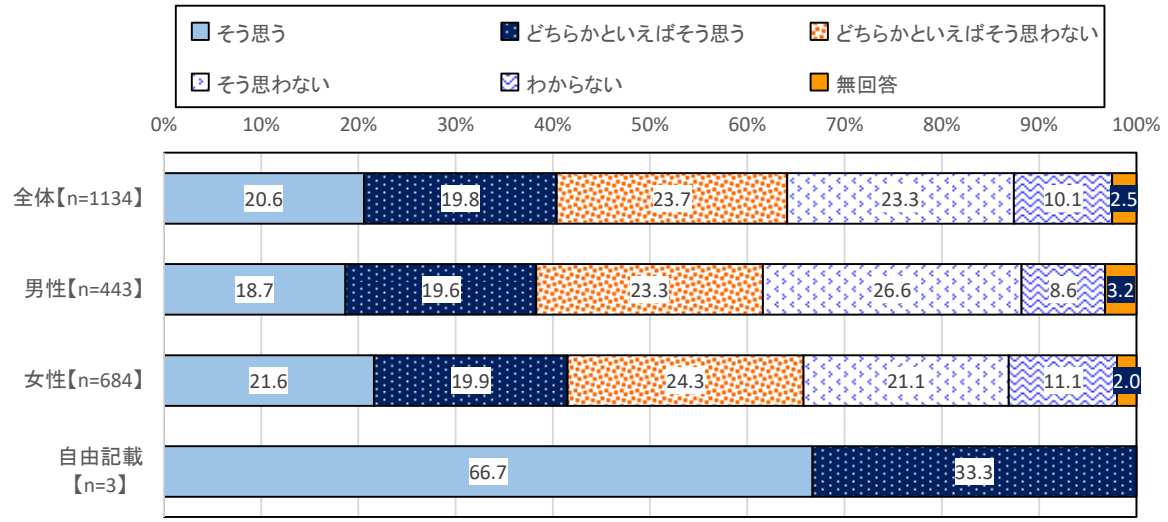



『④結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では67.1％となっている。

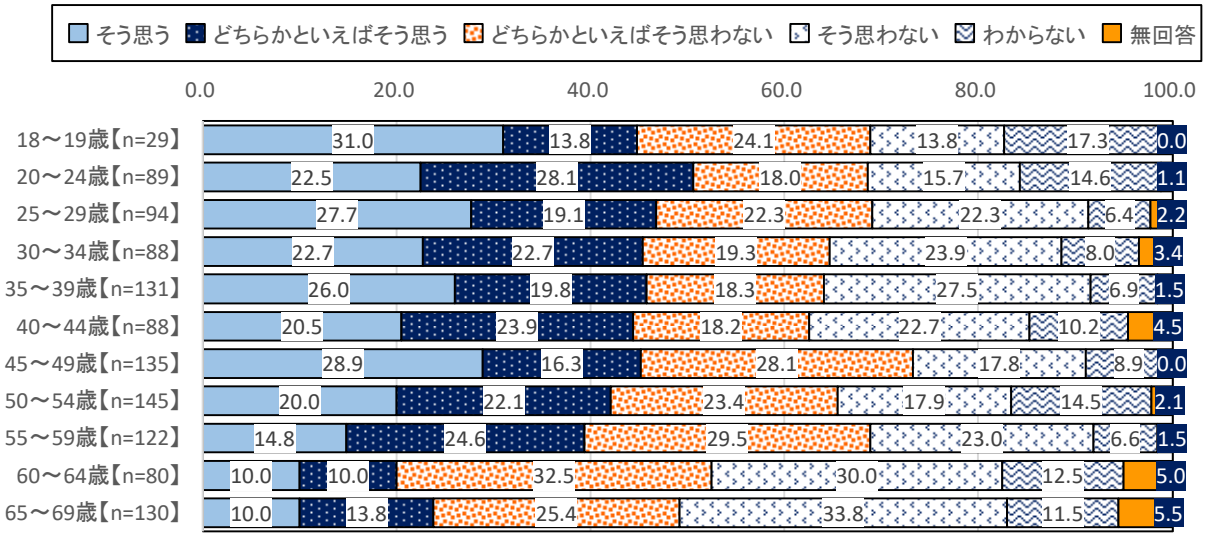
男女別に『そう思う割合』をみると、男性では58.0％、女性では73.1％となっている。

年齢別にみると、「そう思う」の回答割合は10～20歳代では半数を占めているが、40歳代以降では４割を割るなど、世代が上がるにつれて回答比率は下がっている。

⑤結婚しないで子どもを持ってもよい




＜年齢別＞

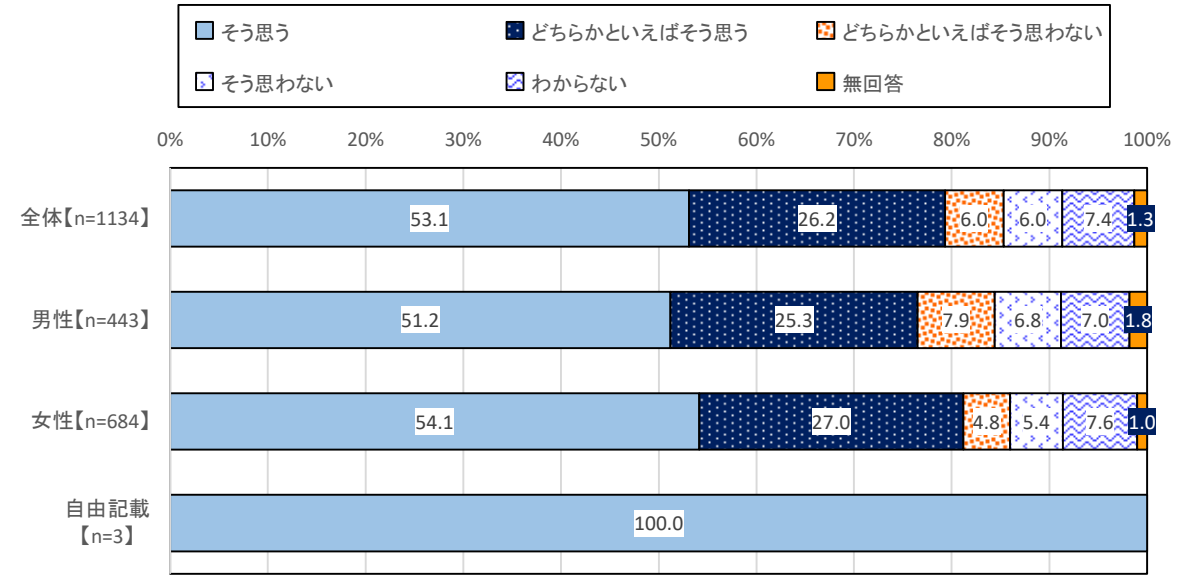



『⑤結婚しないで子どもを持ってもよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では 40.4％となっている。

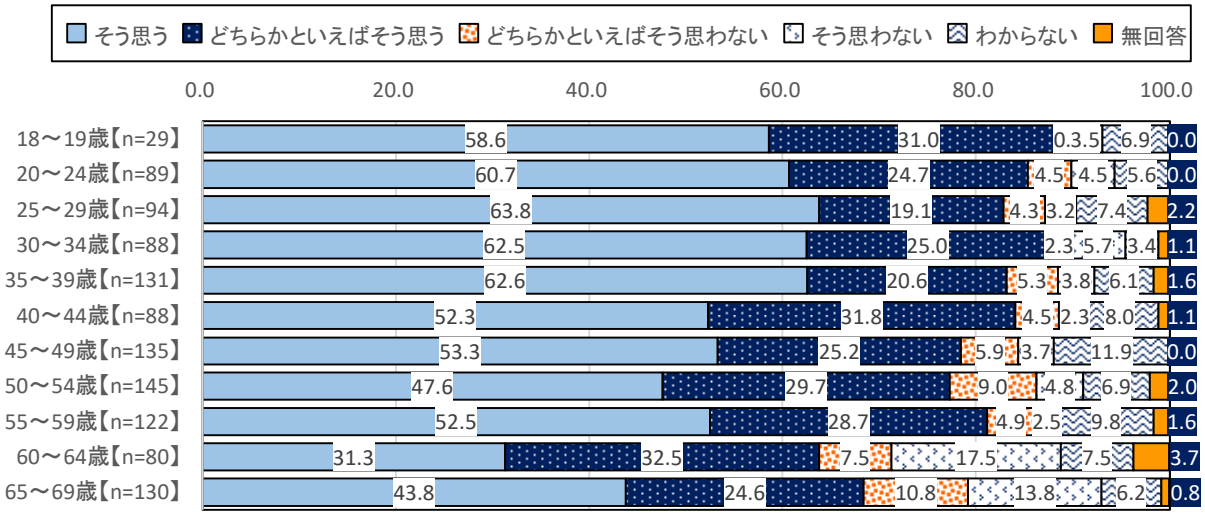
男女別に『そう思う割合』をみると、男性では 38.3％、女性では 41.5％となっている。

年齢別にみると、「45～49 歳」を境に「どちらかといえばそう思わない」の回答比率が高くなっている。

⑥結婚して名字（姓）が変わっても、働くときに旧姓を通称として使用してもよい




＜年齢別＞

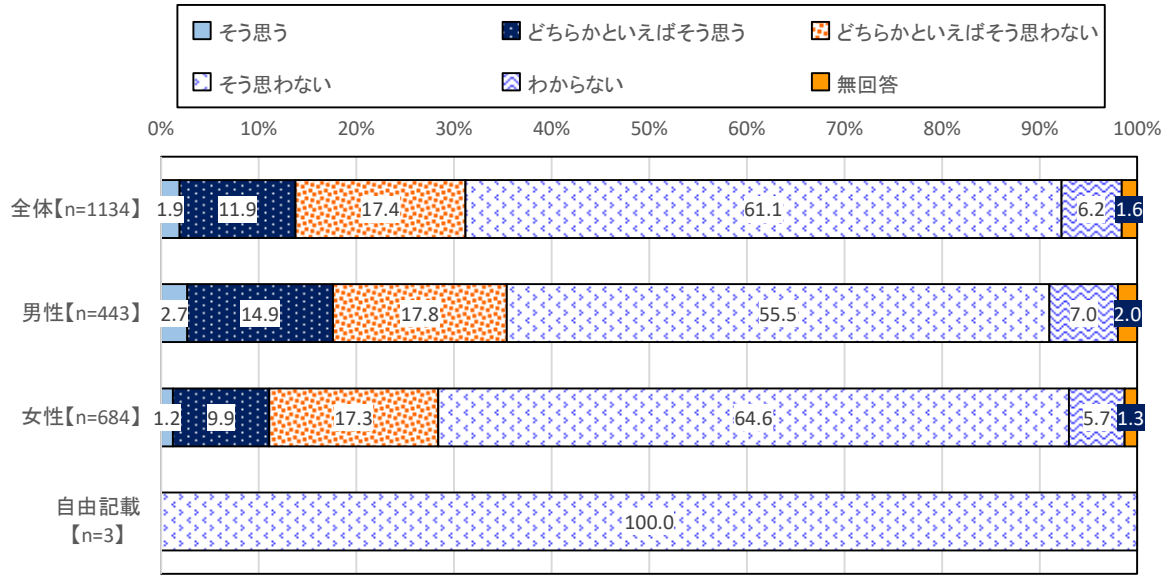



『⑥結婚して名字（姓）が変わっても、働くときに旧姓を通称として使用してもよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では 79.3％となっている。

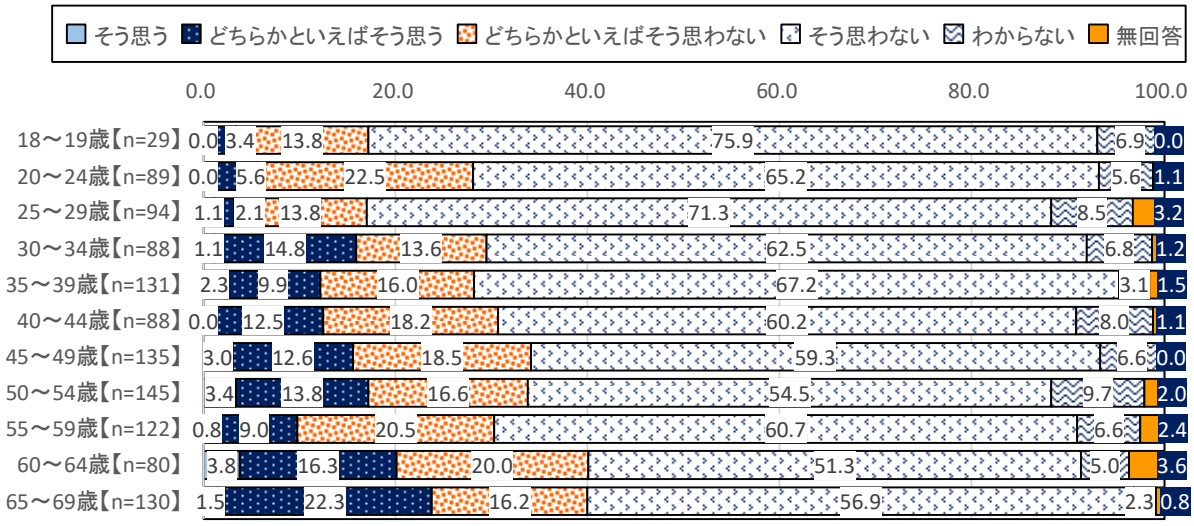
男女別に『そう思う割合』をみると、男性では 76.5％、女性では 81.1％となっている。

年齢別にみると、「60～64 歳」では、他の世代と比較して「そう思わない」の回答比率が高くなっている。

⑦男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき




＜年齢別＞

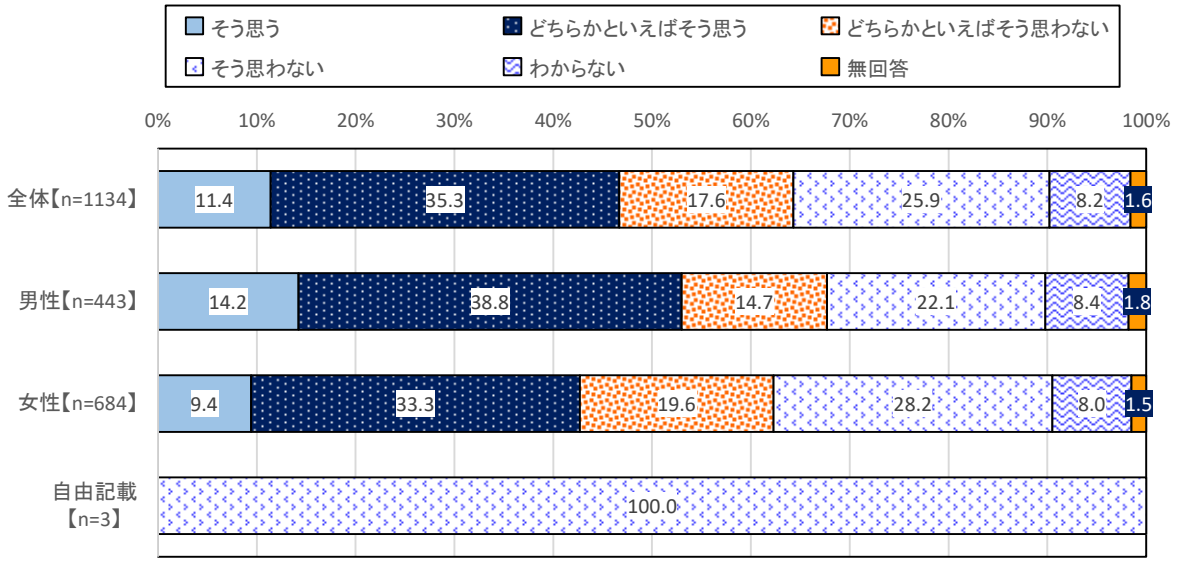



『⑦男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では 13.8％となっている。

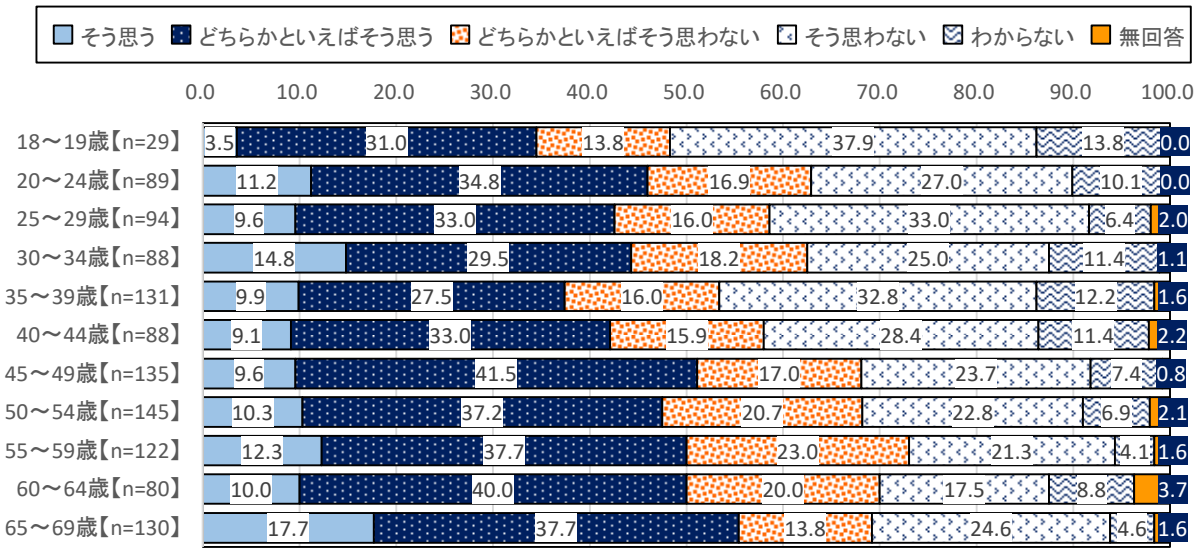
男女別に『そう思う割合』をみると、男性は 17.6％、女性では 11.1％となっている。

年齢別にみると、すべての世代で「そう思わない」の回答比率が半数以上を占めている。

⑧子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい




＜年齢別＞

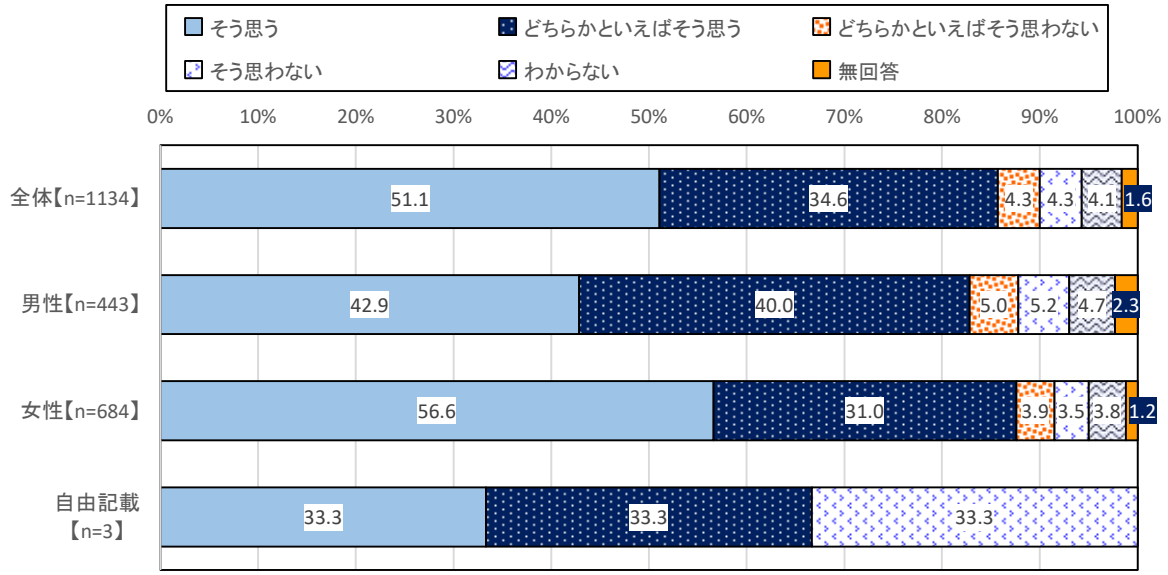



『⑧子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では46.7%となっている。

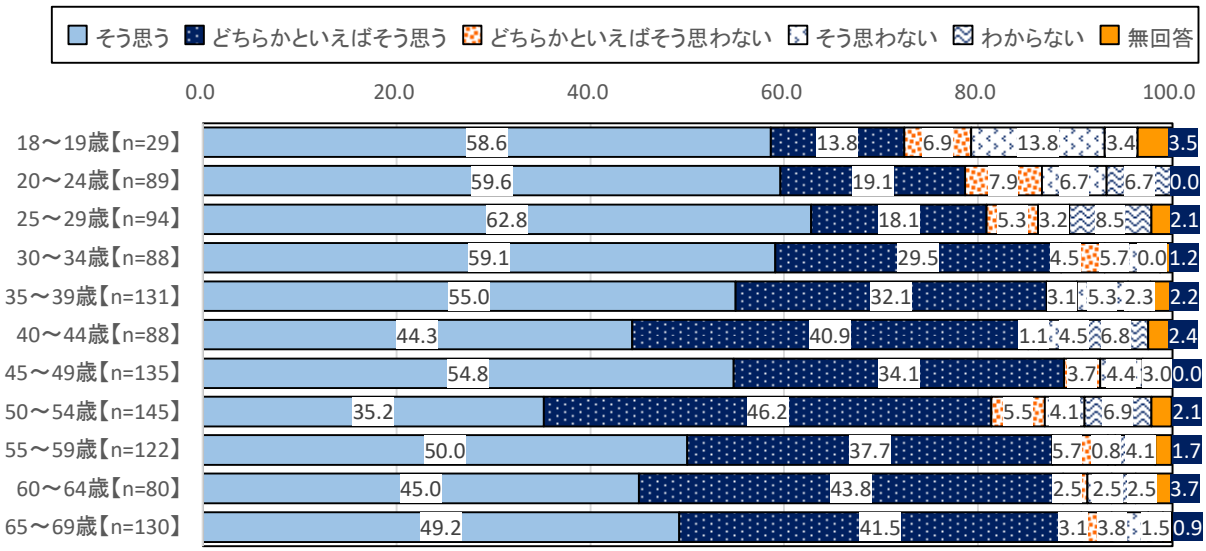
男女別に『そう思う割合』をみると、男性は53.0%、女性では42.7%となっている。

年齢別にみると、若い世代ほど「そう思わない」の回答比率が高い傾向にある。

⑨家事や育児、介護は男女で分担したほうがよい




＜年齢別＞

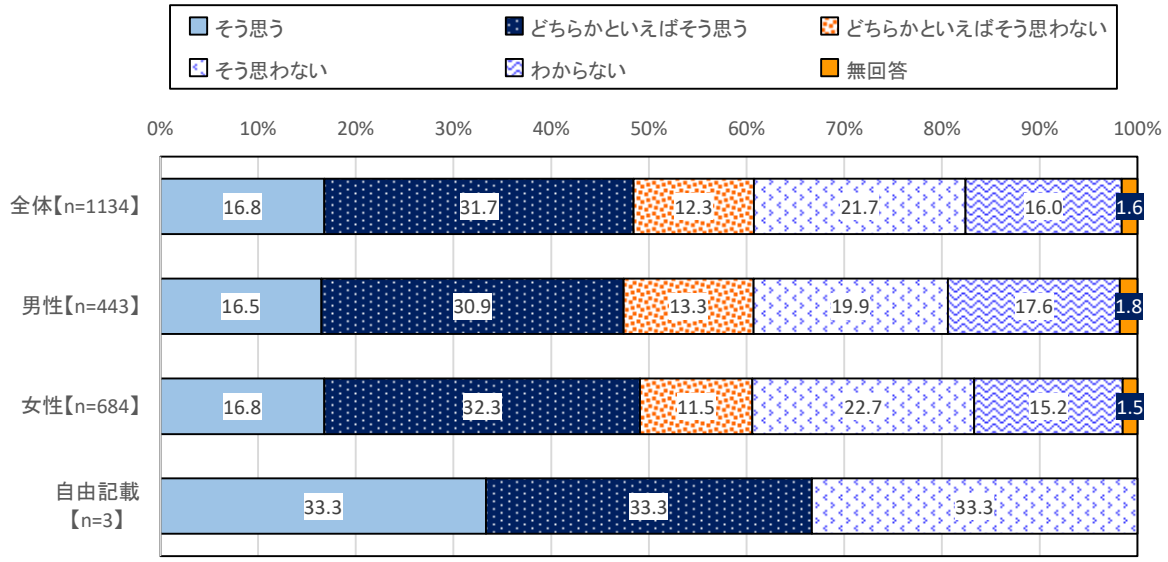



『⑨家事や育児、介護は男女で分担したほうがよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では85.7%となっている。

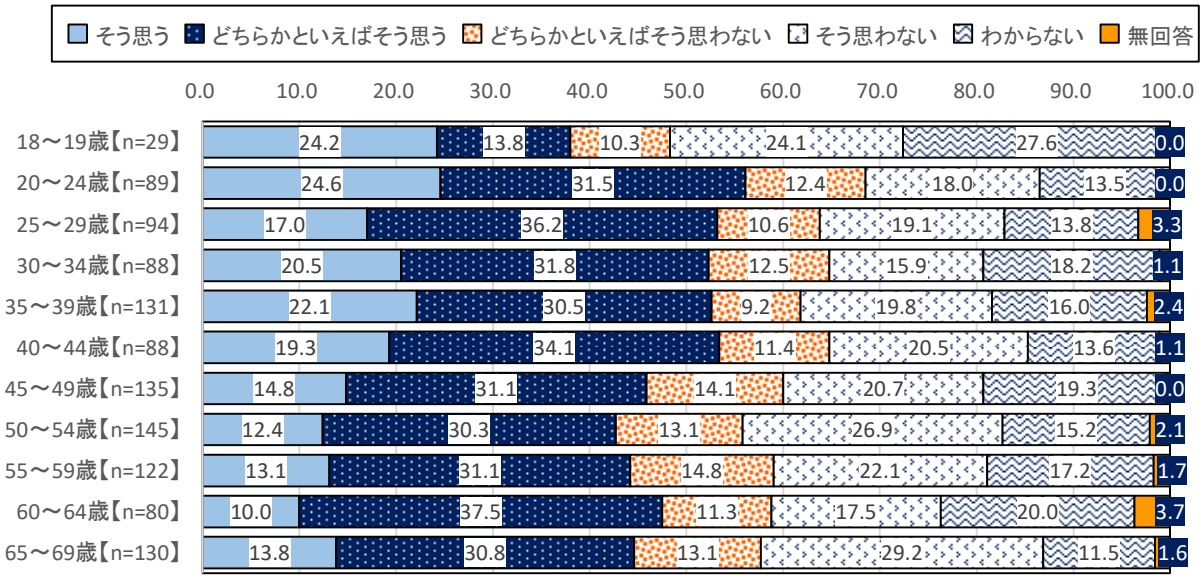
男女別に『そう思う割合』をみると、男性は82.9%、女性では87.6%となっている。

年齢別にみると、若い世代ほど「そう思う」の回答比率が高い傾向にある。

⑩話し合いを経たうえで、最終的に子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である




＜年齢別＞




『⑩話し合いを経たうえで、最終的に子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では 48.5%となっている。

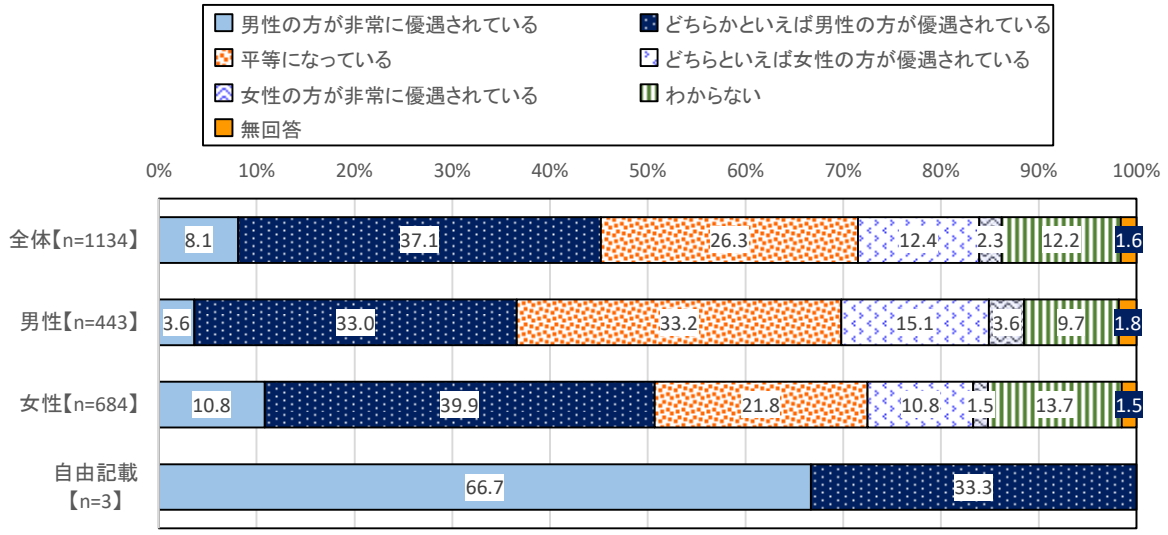
男女別に『そう思う割合』をみると、男性は 47.4%、女性では 49.1%となっている。

年齢別にみると、若い世代では「そう思う」と「そう思わない」の回答割合が近いが、世代が上がるにつれて「そう思わない」の回答割合が高くなっている。

## （２）男女の地位に対する意識

問 10　次にあげる分野において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。（①～④についてそれぞれ該当する「１～６」に○を１つ）

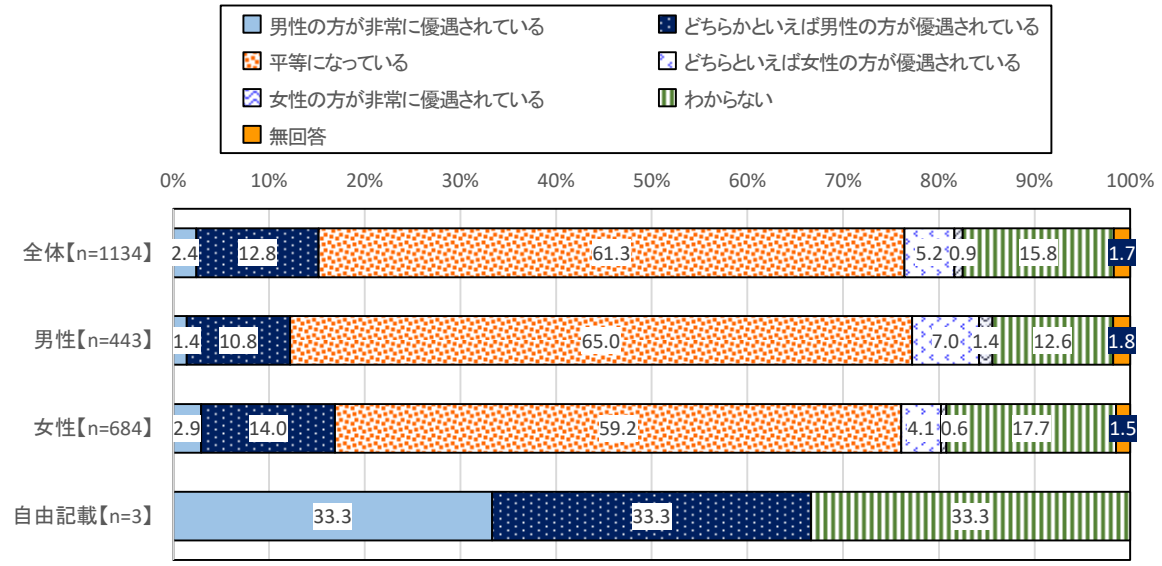
①家庭生活




『①家庭生活』における男女の地位に対する意識について、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（37.1％）が最も多く、次いで、「平等になっている」（26.3％）、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」（12.4％）、「男性の方が非常に優遇されている」（8.1％）、「女性の方が非常に優遇されている」（2.3％）となっている。一方、12.2％は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性では「平等になっている」（33.2％）が僅差で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（33.0％）を上回った。女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（39.9％）が最も多くなっている。

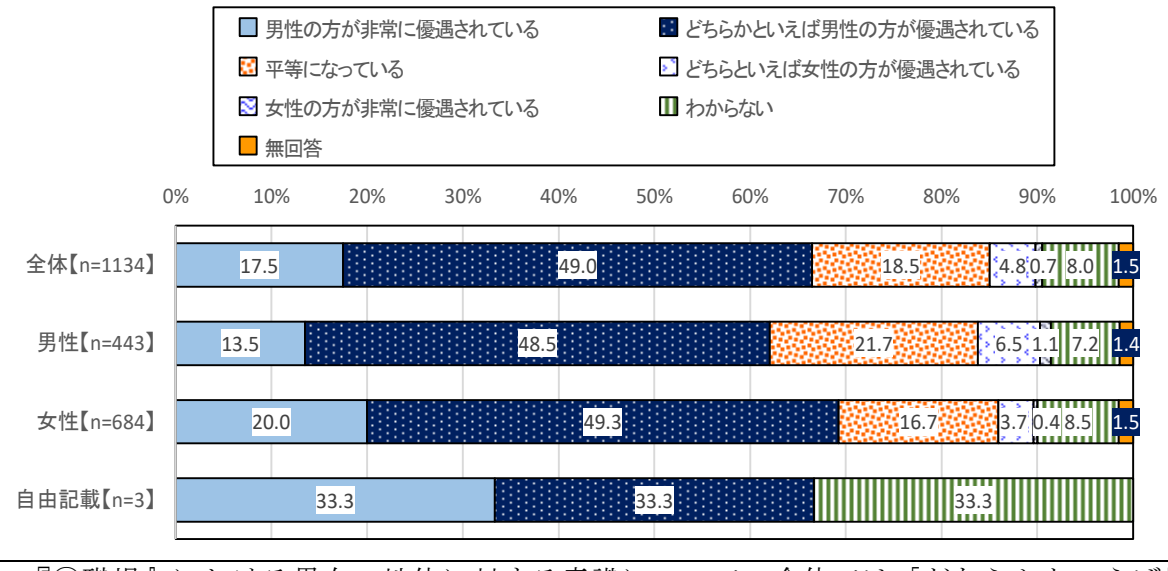
②学校教育




『②学校教育』における男女の地位に対する意識について、全体では「平等になっている」（61.3%）が半数を占めている。次いで、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（12.8%）、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」（5.2%）、「男性の方が非常に優遇されている」（2.4%）、「女性の方が非常に優遇されている」（0.9%）となっている。一方、15.8%は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性、女性ともに「平等になっている」が最も多くなっている。

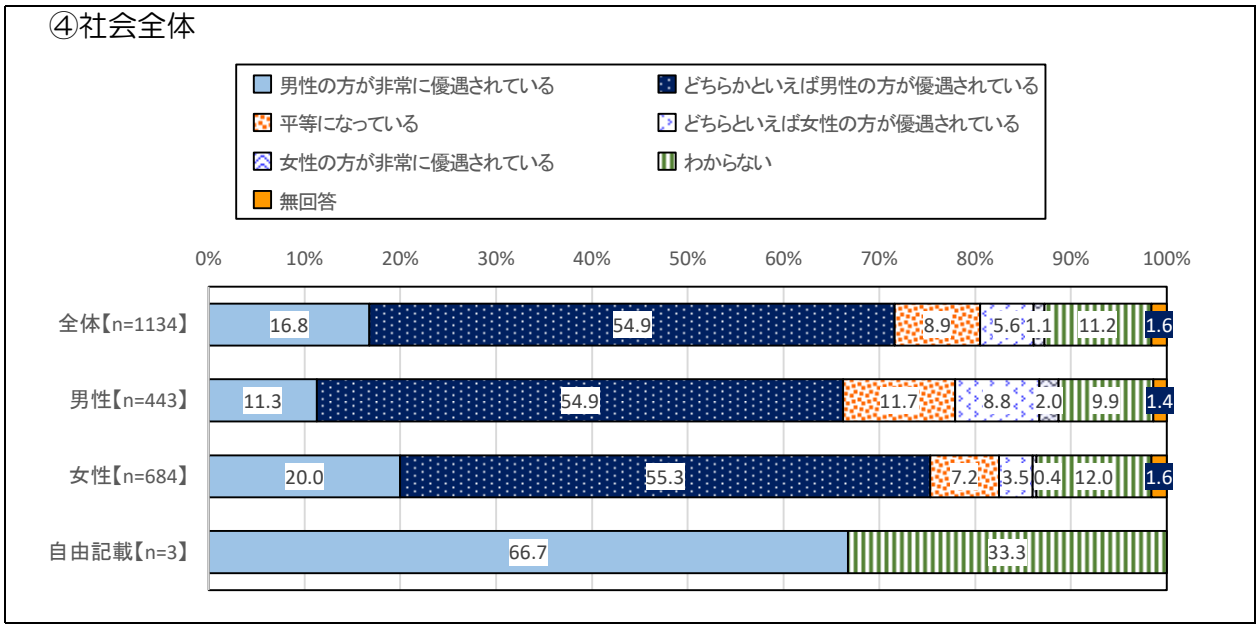
③職場




『③職場』における男女の地位に対する意識について、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（49.0%）が最も多くなっており、次いで、「平等になっている」（18.5%）、「男性の方が非常に優遇されている」（17.5%）、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」（4.8%）、「女性の方が非常に優遇されている」（0.7%）の順となっている。一方、8.0%は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最

も多くなっている。



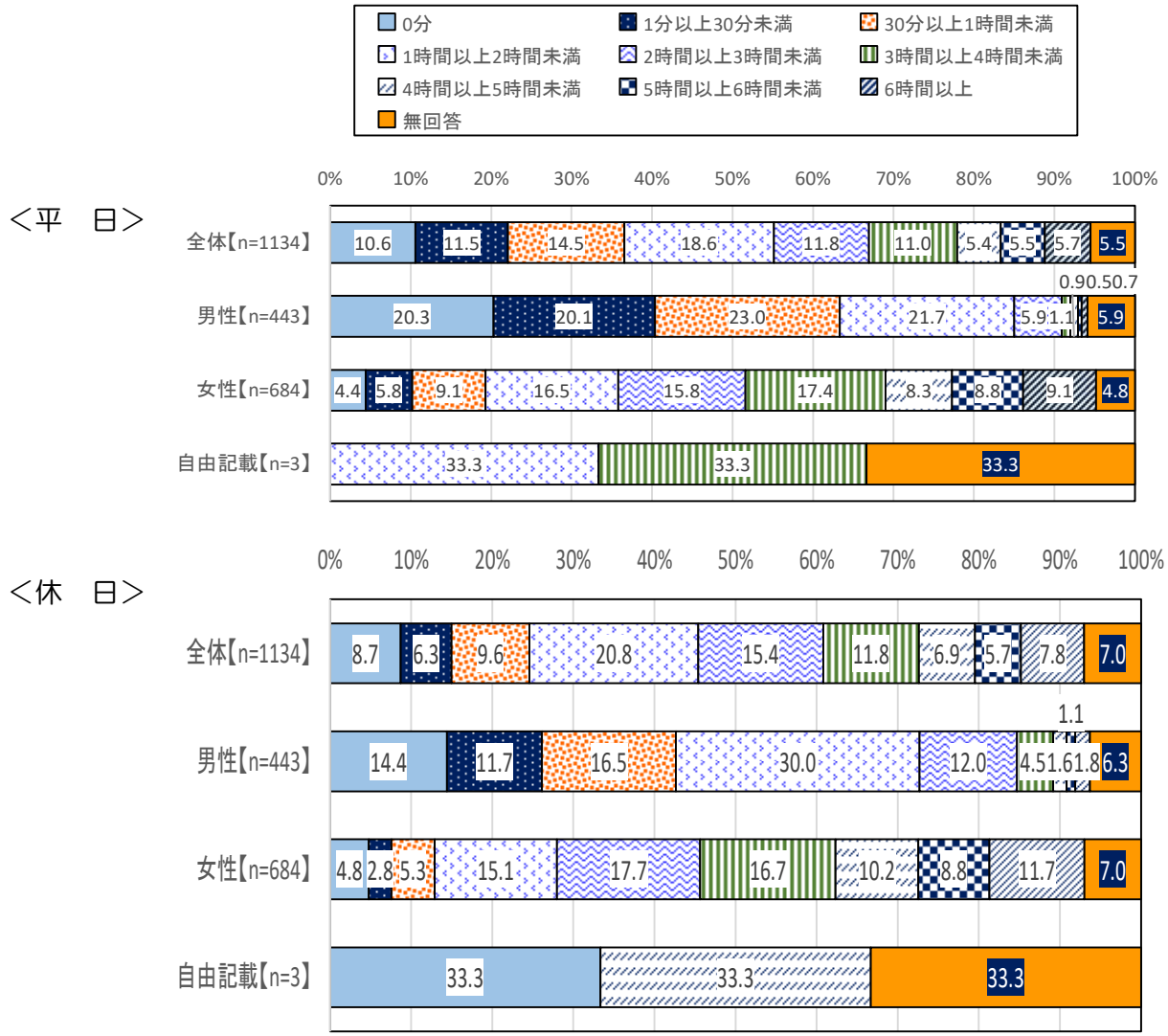

『④社会全体』における男女の地位に対する意識について、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（54.9%）が半数を占めている。次いで、「男性の方が非常に優遇されている」（16.8%）、「平等になっている」（8.9%）、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」（5.6%）、「女性の方が非常に優遇されている」（1.1%）の順となっている。一方、11.2%は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっているが、次点では、男性は「平等になっている」（11.7%）が僅差で「男性の方が非常に優遇されている」（11.3%）を上回ったが、女性は「男性の方が非常に優遇されている」（20.0%）となっている。

### （３）家事に費やしている時間

問 11　次にあげる①～③について、あなたはどれくらい時間をかけていますか。平日（月曜日～金曜日）、休日（土曜日、日曜日、祝日）それぞれの１日あたり平均時間をご記入ください。

①家事




平日に家事に費やす時間は、全体では「１時間以上２時間未満」（18.6％）が最も多く、男性では「30 分以上１時間未満」（23.0％）、女性では「３時間以上４時間未満」（17.4％）が最も多い。

休日に家事に費やす時間は、全体では「１時間以上２時間未満」（20.8％）が最も多く、男性では「１時間以上２時間未満」（30.0％）、女性では「２時間以上３時間未満」（17.7％）が最も多い。

## ●家事に費やす平均時間（１日あたり）

＜男女別＞

| | 平　日 | 休　日 |
|---|---|---|
| 全体【n=1077】 | 115.4 分（1.9 時間） | 136.8 分（2.3 時間） |
| 男性【n=421】 | 42.4 分（0.7 時間） | 67.6 分（1.1 時間） |
| 女性【n=652】 | 162.8 分（2.7 時間） | 181.8 分（3.0 時間） |
| 自由記載【n=2】 | 120.0 分（2.0 時間） | 120.0 分（2.0 時間） |

※時間数の無回答は除いて算出。
なお、性別未回答者がいるため、男性と女性の合計人数は全体人数とはならない。（下表も同じ）

家事に費やす１日あたりの平均時間は、全体では、平日が 115.4 分（1.9 時間）、休日が 136.8 分（2.3 時間）となっている。

男女別にみると、平日／休日のいずれについても、女性のほうが男性よりも家事に費やす時間は長くなっている。

### ▶既婚未婚別

《未婚者（離婚・死別を含む）》

| | 平　日 | 休　日 |
|---|---|---|
| 全体【n=420】 | 60.8 分（1.0 時間） | 80.5 分（1.3 時間） |
| 男性【n=184】 | 39.3 分（0.7 時間） | 51.1 分（0.9 時間） |
| 女性【n=235】 | 77.6 分（1.3 時間） | 103.4 分（1.7 時間） |
| 自由記載【n=1】 | 60.0 分（1.0 時間） | 0.0 分（0.0 時間） |

《既婚者（事実婚を含む）》

| | 平　日 | 休　日 |
|---|---|---|
| 全体【n=646】 | 152.0 分（2.5 時間） | 174.8 分（2.9 時間） |
| 男性【n=231】 | 44.7 分（0.7 時間） | 81.2 分（1.4 時間） |
| 女性【n=414】 | 211.9 分（3.5 時間） | 226.9 分（3.8 時間） |
| 自由記載【n=1】 | 180.0 分（3.0 時間） | 240.0 分（4.0 時間） |

平日／休日のいずれにおいても、男性、女性ともに「既婚者（事実婚を含む）」のほうが家事に費やす時間は長く、中でも女性はその傾向が顕著となっている。

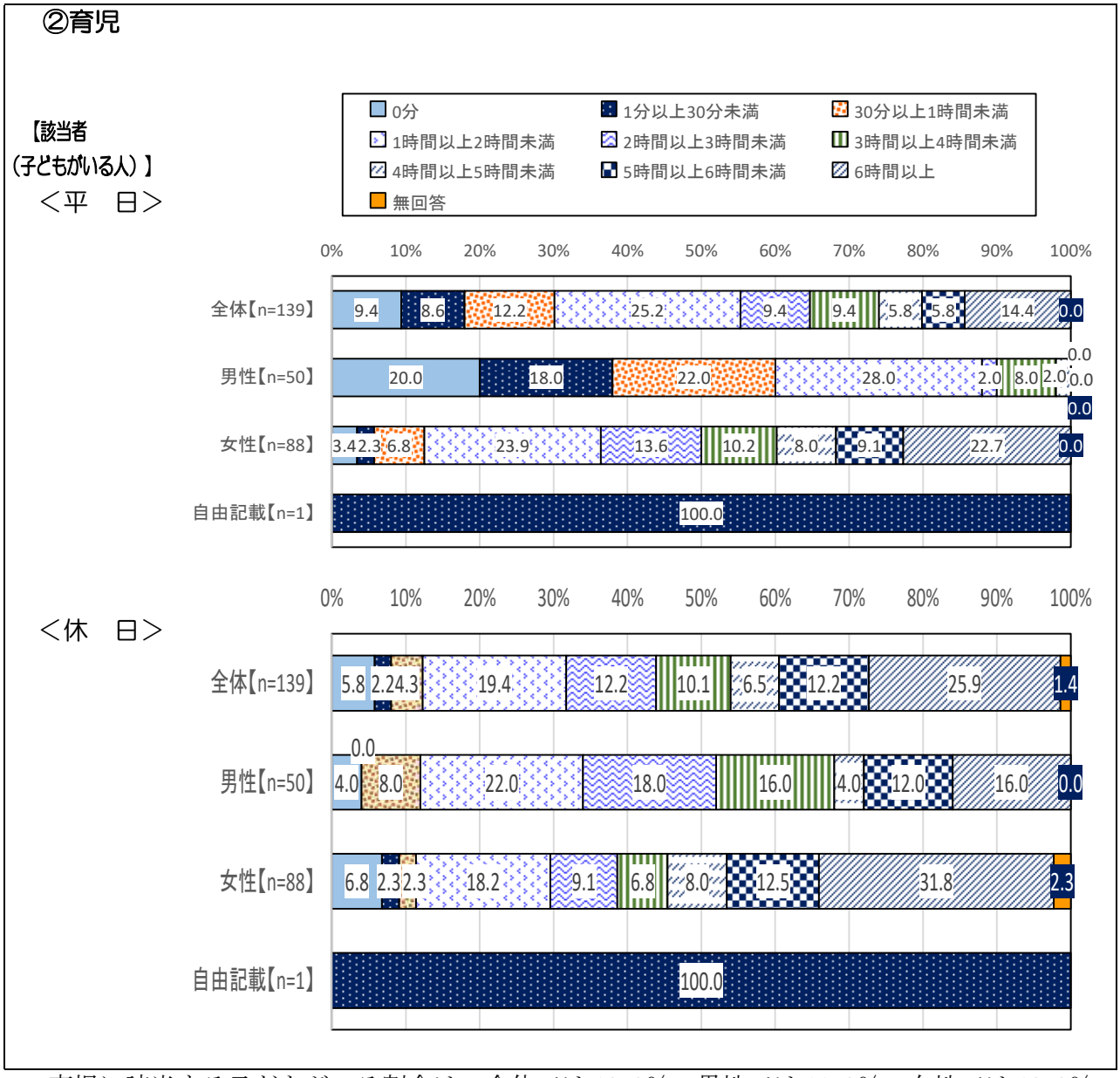
＜年代別＞

| | 平　日 | 休　日 |
|---|---|---|
| 18～19 歳【n=26】 | 39.8 分（0.7 時間） | 47.3 分（0.8 時間） |
| 20～24 歳【n=87】 | 36.6 分（0.6 時間） | 41.0 分（0.7 時間） |
| 25～29 歳【n=89】 | 76.0 分（1.3 時間） | 100.9 分（1.7 時間） |
| 30～34 歳【n=85】 | 91.5 分（1.5 時間） | 118.6 分（2.0 時間） |
| 35 ～ 39 歳【n=125】 | 129.0 分（2.2 時間） | 145.5 分（2.4 時間） |
| 40～44 歳【n=85】 | 151.7 分（2.5 時間） | 171.0 分（2.9 時間） |
| 45 ～ 49 歳【n=131】 | 120.7 分（2.0 時間） | 149.8 分（2.4 時間） |
| 50 ～ 54 歳【n=135】 | 131.7 分（2.2 時間） | 169.9 分（2.8 時間） |
| 55～59 歳【n=117】 | 132.9 分（2.2 時間） | 163.2 分（2.7 時間） |
| 60～64 歳【n=73】 | 147.5 分（2.5 時間） | 176.0 分（2.9 時間） |
| 65 ～ 69 歳【n=121】 | 134.7 分（2.2 時間） | 133.7 分（2.2 時間） |

※時間数の無回答は除いて算出。

年代別にみると、年代階層が上がるにつれて家事に費やす時間は長くなっている。

### （４）育児に費やしている時間




育児に該当する子どもがいる割合は、全体では 12.3%、男性では 11.3%、女性では 12.9%となっている。

平日に育児に費やす時間は、全体では「１時間以上２時間未満」（25.2%）が最も多くなっている。男女別でも男性、女性のいずれも「１時間以上２時間未満」が最も多くなっている。次点は、男性が「30 分以上１時間未満」（22.0%）であるのに対し、女性は「６時間以上」（22.7%）となっている。

休日に育児に費やす時間は、全体では「６時間以上」（25.9%）が最も多い。男女別では、男性は「１時間以上２時間未満」（22.0%）、女性では「６時間以上」（31.8%）が最も多い。

## ●育児に費やす平均時間（１日あたり）

＜男女別＞

| | 平　日 | 休　日 |
|---|---|---|
| 全体【n=139】 | 175.8 分（2.9 時間） | 263.5 分（4.4 時間） |
| 男性【n=50】 | 50.0 分（0.8 時間） | 212.0 分（3.5 時間） |
| 女性【n=88】 | 249.1 分（4.2 時間） | 295.6 分（4.9 時間） |
| 自由記載【n=1】 | 10.0 分（0.2 時間） | 10.0 分（0.2 時間） |

※時間数の無回答は除いて算出。
　なお、性別未回答者がいるため、男性と女性の合計人数は全体人数とはならない。

育児に費やす１日あたりの平均時間は、全体では、平日が 175.8 分（2.9 時間）、休日が 263.5 分（4.4 時間）となっている。

男女別にみると、平日／休日のいずれについても、女性のほうが男性よりも育児に費やす時間は長くなっている。

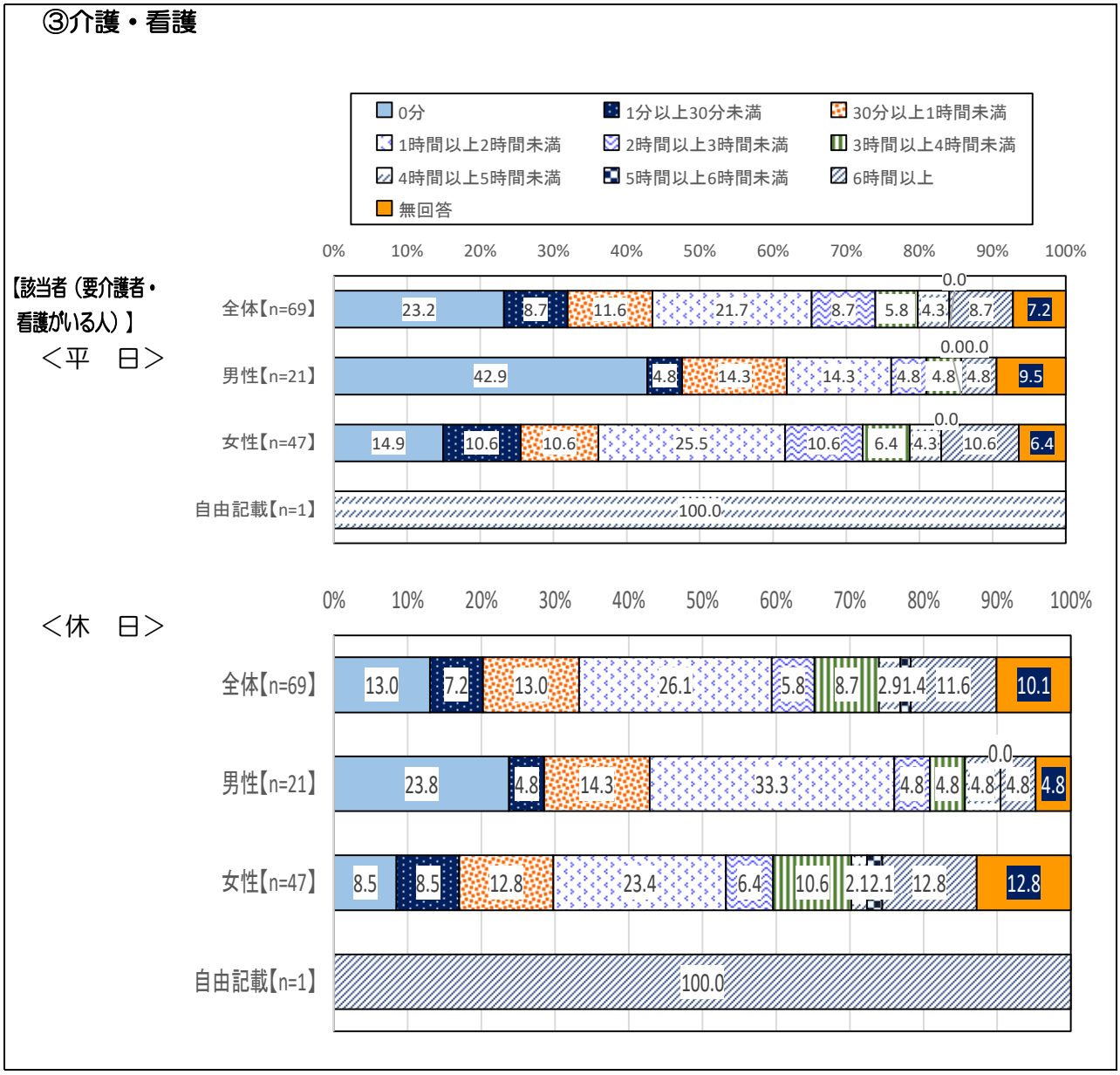
＜年代別＞

| | 平　日 | 休　日 |
|---|---|---|
| 18～19 歳【n=1】 | 150.0 分（2.5 時間） | 150.0 分（2.5 時間） |
| 20～24 歳【n=0】 | ― | ― |
| 25～29 歳【n=10】 | 407.0 分（6.8 時間） | 573.2 分（9.6 時間） |
| 30～34 歳【n=18】 | 261.3 分（4.4 時間） | 351.3 分（5.9 時間） |
| 35～39 歳【n=45】 | 214.3 分（3.6 時間） | 271.6 分（4.5 時間） |
| 40～44 歳【n=28】 | 117.9 分（2.0 時間） | 218.6 分（3.6 時間） |
| 45～49 歳【n=23】 | 71.5 分（1.2 時間） | 201.7 分（3.4 時間） |
| 50～54 歳【n=12】 | 64.2 分（1.1 時間） | 112.5 分（1.9 時間） |
| 55～59 歳【n=1】 | 90.0 分（1.5 時間） | 90.0 分（1.5 時間） |
| 60～64 歳【n=1】 | 60.0 分（1.0 時間） | 0.0 分（0.0 時間） |
| 65～69 歳【n=0】 | ― | ― |

※時間数の無回答は除いて算出。

年代別にみると、平日／休日ともに「25～29 歳」において、育児に費やす時間は最も長くなっている。

## （５）介護・看護に費やしている時間




介護・看護に該当する家族がいる割合は、全体では 6.1％、男性では 4.7％、女性では 6.9％となっている。

平日に介護・看護に費やす時間は、全体では「０分」（23.2％）が最も多い。男女別でみると、男性は「０分」（42.9％）、女性では「１時間以上２時間未満」（25.5％）が最も多い。

休日に介護・看護に費やす時間は、全体では「１時間以上２時間未満」（26.1％）が最も多い。男女別では、男性、女性いずれも「１時間以上２時間未満」が最も多い。

## ●介護・看護に費やす平均時間（１日あたり）

＜男女別＞

| | 平　日 | 休　日 |
|---|---|---|
| 全体【n=67】 | 108.9 分（1.8 時間） | 146.6 分（2.4 時間） |
| 男性【n=20】 | 49.5 分（0.8 時間） | 74.5 分（1.2 時間） |
| 女性【n=46】 | 131.8 分（2.2 時間） | 173.2 分（2.9 時間） |
| 自由記載【n=1】 | 240.0 分（4.0 時間） | 360.0 分（6.0 時間） |

※時間数の無回答は除いて算出。
なお、性別未回答者がいるため、男性と女性の合計人数は全体人数とはならない。

介護・看護に費やす１日あたりの平均時間は、全体では、平日が 108.9 分（1.8 時間）、休日が 146.6 分（2.4 時間）となっている。

男女別にみると、平日／休日のいずれにおいても、女性のほうが男性よりも介護・看護に費やす時間は長くなっている。

＜年代別＞

| | 平　日 | 休　日 |
|---|---|---|
| 18～19 歳【n=1】 | 0.0 分（0.0 時間） | 0.0 分（0.0 時間） |
| 20～24 歳【n=1】 | 10.0 分（0.2 時間） | 10.0 分（0.2 時間） |
| 25～29 歳【n=7】 | 33.6 分（0.6 時間） | 44.3 分（0.7 時間） |
| 30～34 歳【n=1】 | 240.0 分（4.0 時間） | 360.0 分（6.0 時間） |
| 35～39 歳【n=2】 | 60.0 分（1.0 時間） | 90.0 分（1.5 時間） |
| 40～44 歳【n=7】 | 32.9 分（0.5 時間） | 34.3 分（0.6 時間） |
| 45～49 歳【n=7】 | 98.6 分（1.6 時間） | 62.7 分（1.0 時間） |
| 50～54 歳【n=11】 | 90.0 分（1.5 時間） | 125.5 分（2.1 時間） |
| 55～59 歳【n=13】 | 98.4 分（1.6 時間） | 135.4 分（2.3 時間） |
| 60～64 歳【n=8】 | 252.5 分（4.2 時間） | 297.5 分（5.0 時間） |
| 65～69 歳【n=9】 | 168.9 分（2.8 時間） | 306.7 分（5.1 時間） |

※時間数の無回答は除いて算出。

年代別にみると、年齢階層が上がるにつれて、介護・看護に費やす時間も長くなっている。

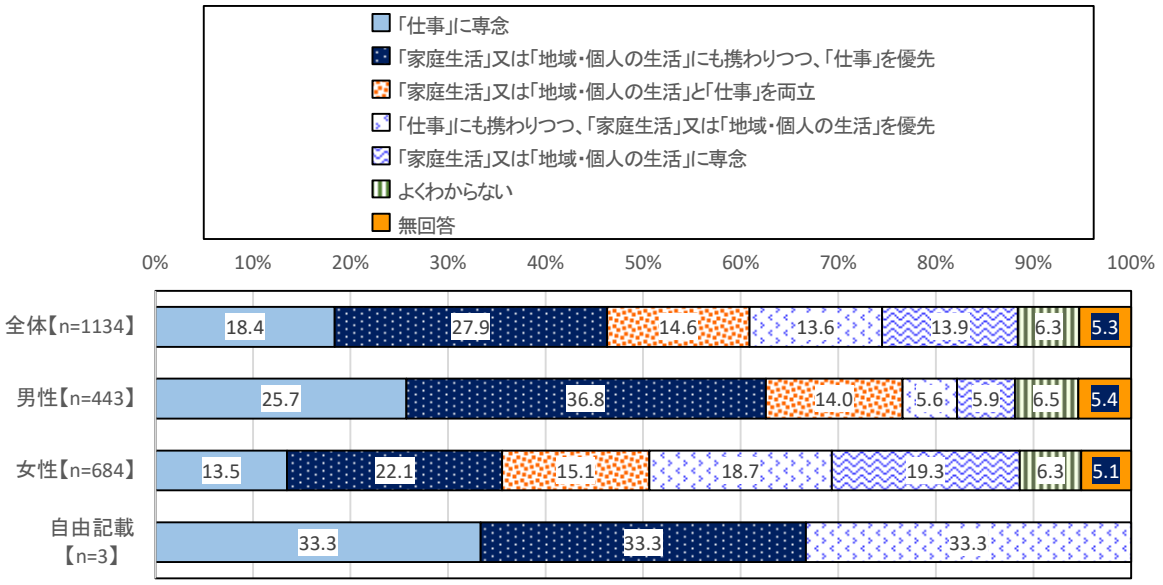
# 3　仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

## （1）ワーク・ライフ・バランスの理想と現実

問 12　あなたの「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」※の状況について、現実（現状）に最も近いもの、理想（希望）に最も近いものを選んでください。（現在、仕事をしていない方は今後のお考えをお答えください）（理想と現実それぞれに番号を１つだけ記入）

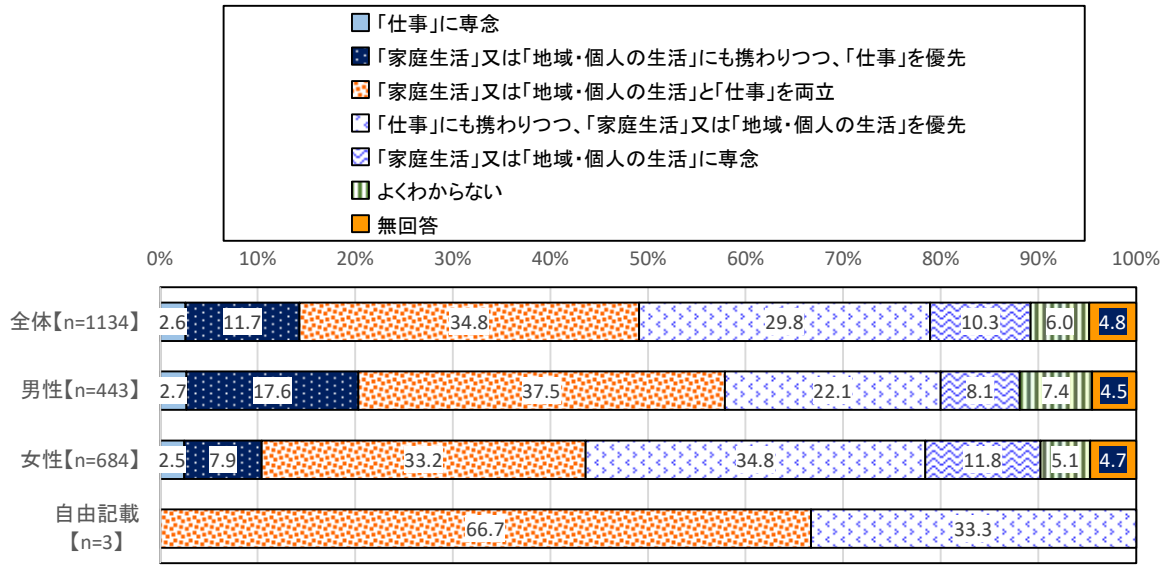
※用語の意味
- 「仕　　事」　…自営業主（農林漁業を含む）、家族従業、雇用者として週１時間以上働いていること。常勤、ﾊﾟｰﾄ、ｱﾙﾊﾞｲﾄなどを問いません。
- 「家 庭 生 活」　…家族と過ごすこと、家事、育児、介護・看護など。
- 「地域・個人の生活」　…地域活動（ボランティア活動，交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなど。

①現実




「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」について、①現実としては「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先」（27.9%）が最も多く、男女別にみても、男性、女性いずれも「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先」が最も多くなっている。

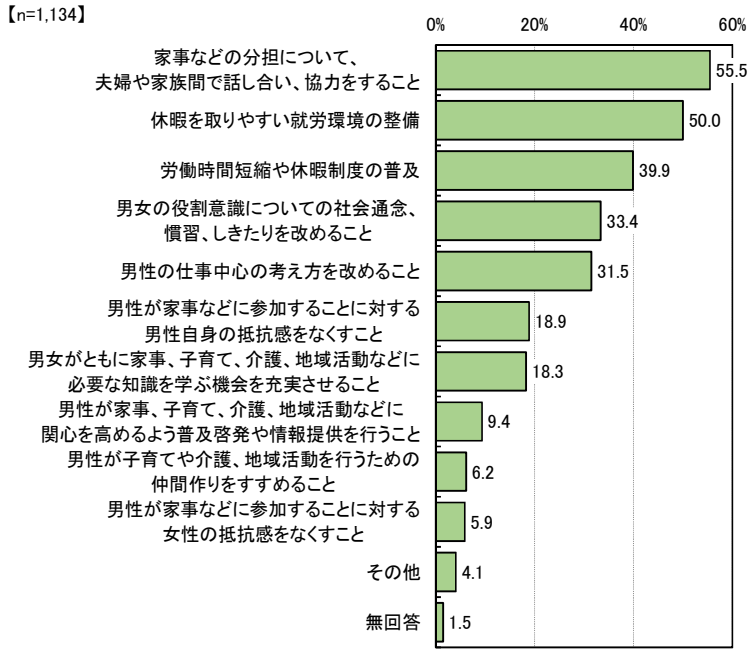
②理想



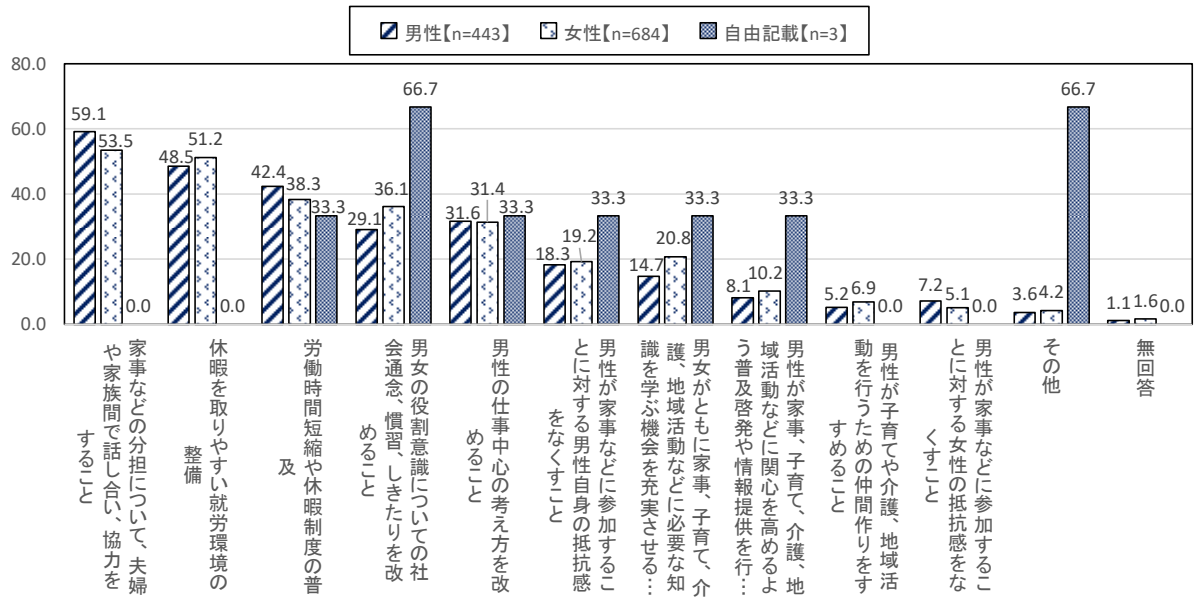

②理想としては、「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立」（34.8%）が最も多い。男女別にみると、男性は「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立」が、女性は「『仕事』にも携わりつつ、『家庭生活』は『地域・個人の生活』を優先」が最も多くなっている。

### （２）男女がともに家事・育児・介護・地域活動等に参加していくために必要なこと

問 13　2020 年版『内閣府男女共同参画白書』では、夫婦共働き世帯が増えているにもかかわらず、家事・子育てにあてる時間が女性は男性の２倍を超えていると報告しています。男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）




＜男女別＞



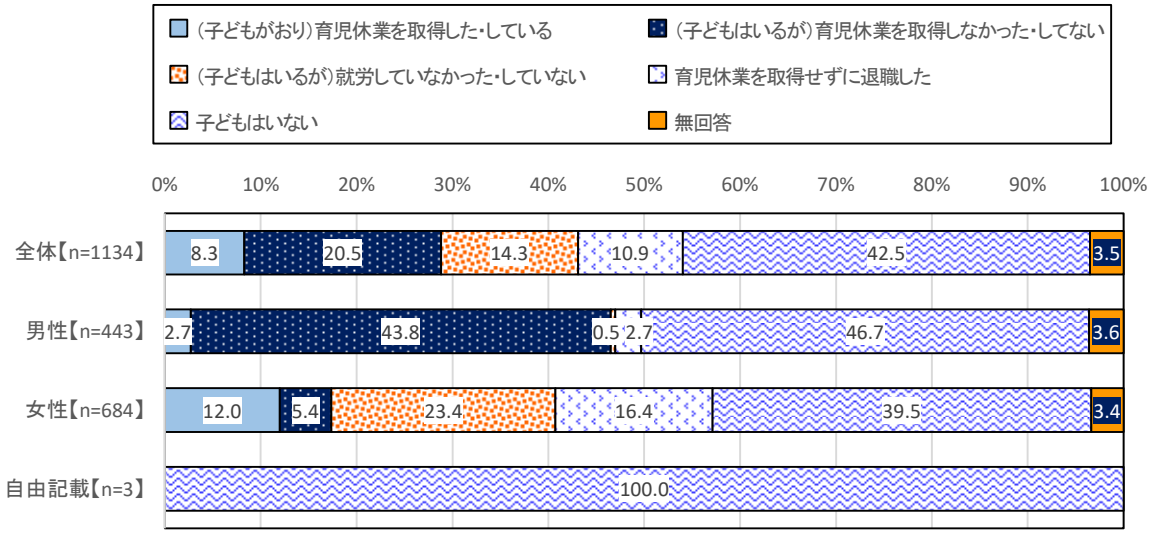

男性と女性がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことを尋ねたところ、「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力をすること」（55.5％）、「休暇を取りやすい就労環境の整備」（50.0％）が特に多く挙げられている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力をすること」が１位、「休暇を取りやすい就労環境の整備」が２位、「労働時間短縮や休暇制度の普及」が３位となるなど、就労環境・制度に関するテーマが上位に挙げられ

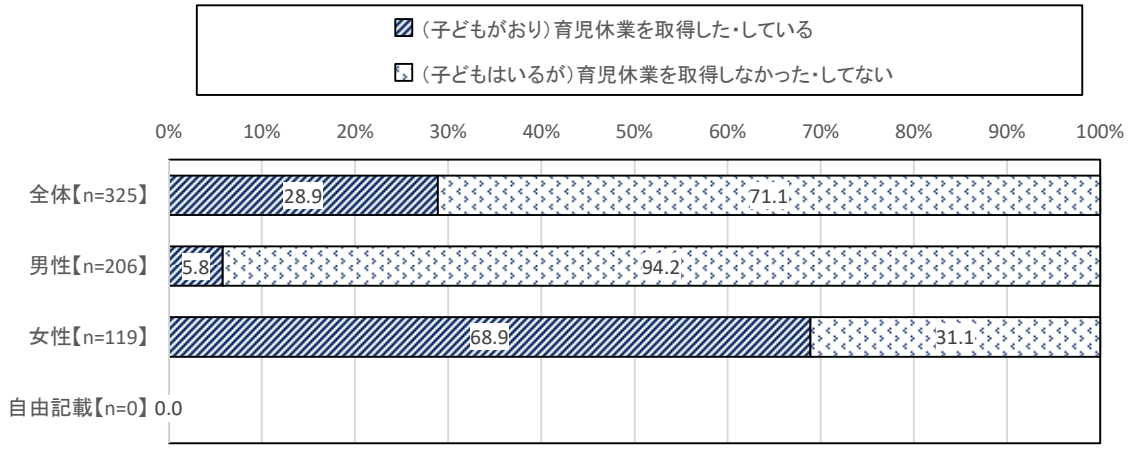
ている。

### （３）育児休業取得の有無

問 14　子どもが生まれた時、あなたは育児休業を取得しましたか。（○は１つ）




＜子どもがいて就労している人のみの回答（無回答も除く）＞




子どもが生まれた時に育児休業を取得したか尋ねたところ、「（子どもがおり）育児休業を取得した・している」が 8.3％となっている。

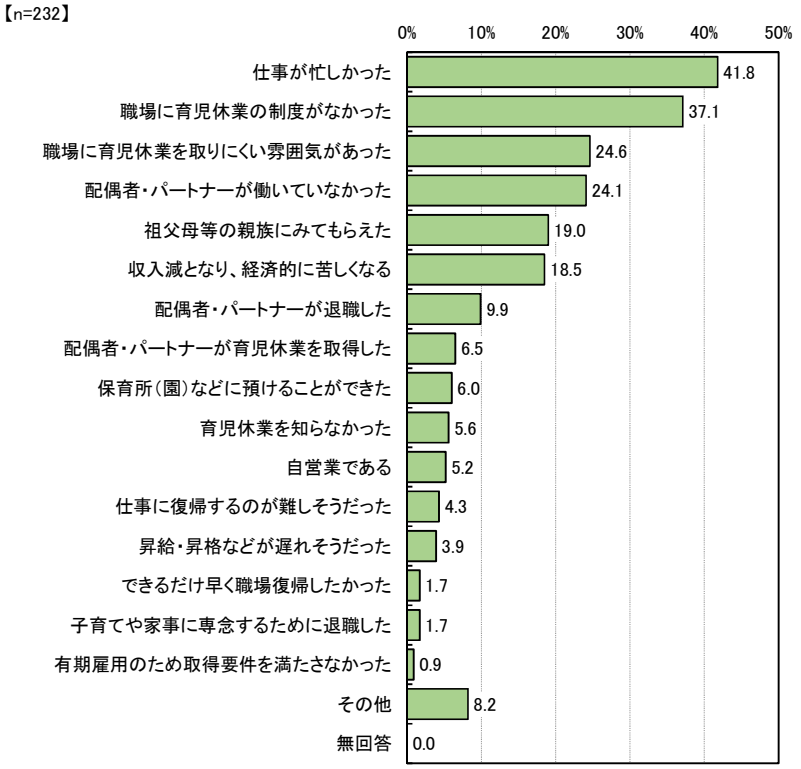
男女別にみると、「（子どもがおり）育児休業を取得した・している」の回答割合は、男性が 2.7％、女性では 12.0％となっている。

なお、「子どもがいて就労している（いた）人」に限ると、育児休業の取得割合は、全体では 28.9％、男性では 5.8％、女性では 68.9％となる。

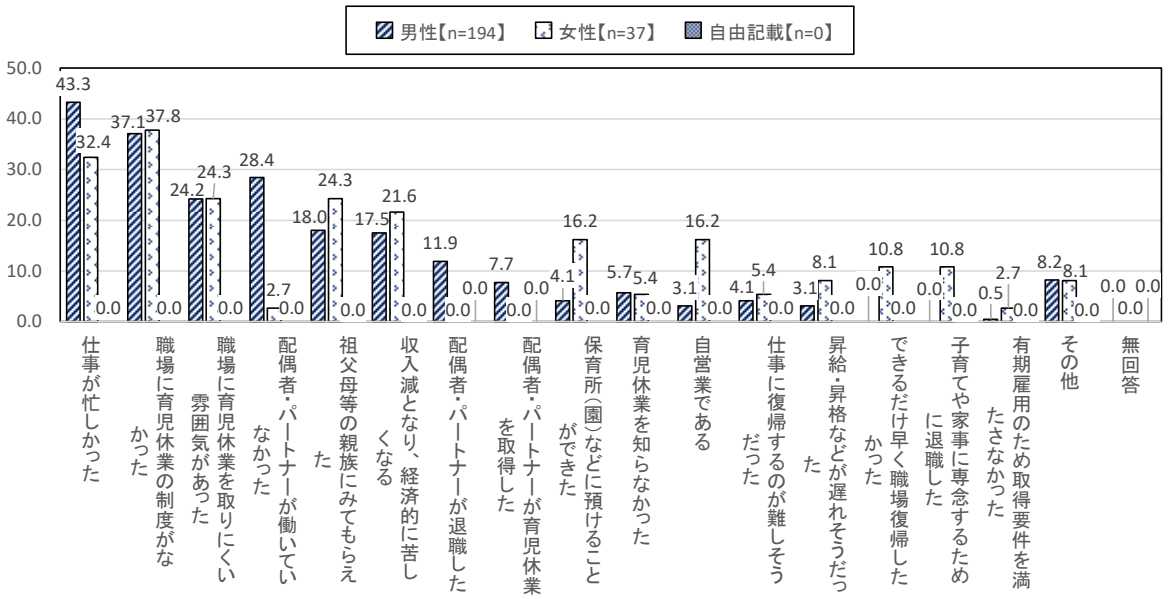
## （４）育児休業を取得しなかった理由

問 14-１　問 14 で「２．（子どもはいるが）育児休業を取得しなかった・してない」とお答えいただいた方にうかがいます。

育児休業を取得しなかった、取得していない理由は何ですか。（○はいくつでも）




＜男女別＞

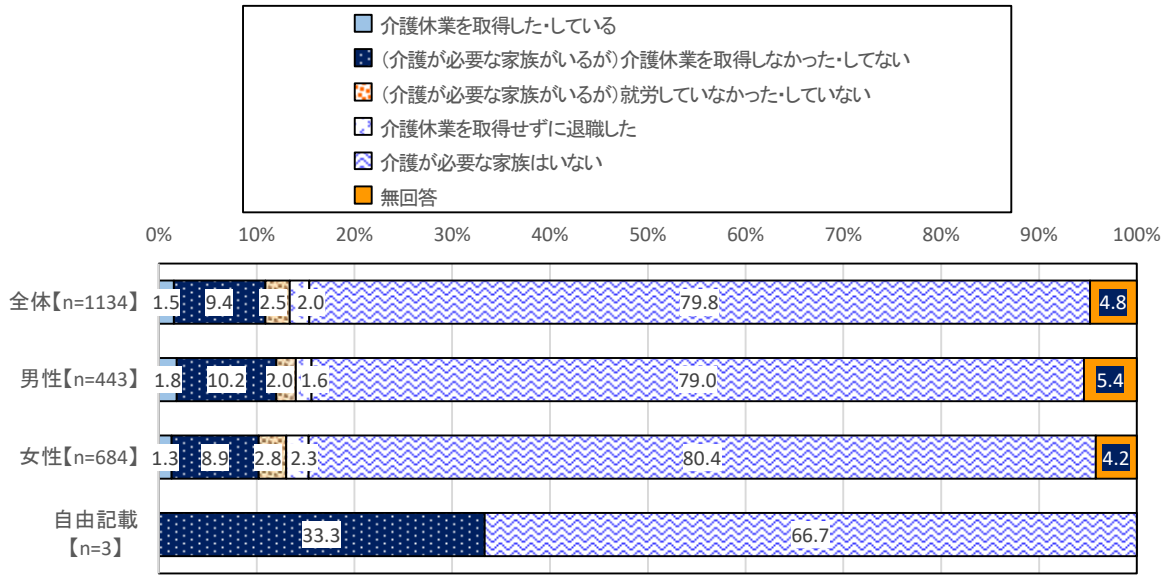



子どもはいるが育児休業を取得しなかった・していないと回答した人に、その理由を尋ねたところ、「仕事が忙しかった」（41.8％）、「職場に育児休業の制度がなかった」（37.1％）、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（24.6％）、「配偶者・パートナーが働いていなかった」（24.1％）などが比較的多く挙げられている。

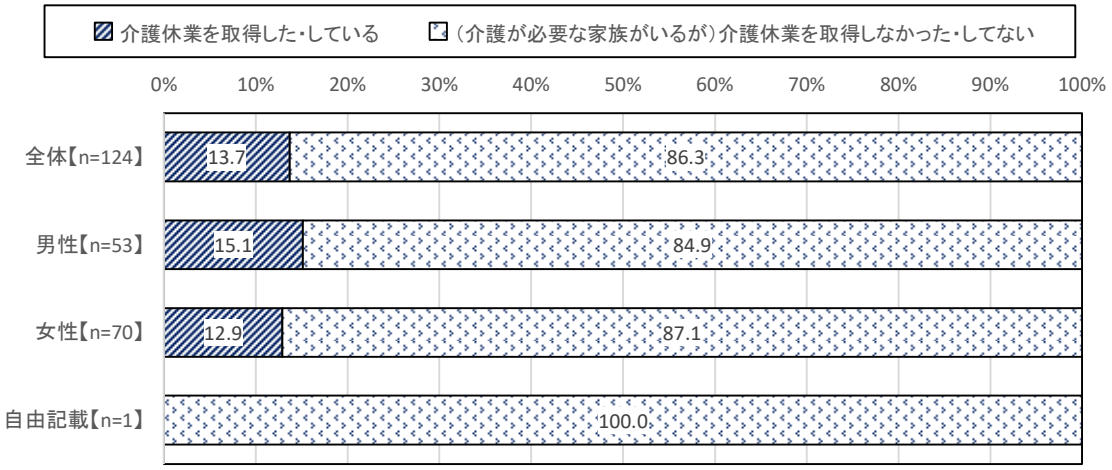
男女別にみると、男性では「仕事が忙しかった」、女性では「職場に育児休業の制度がなかった」が最も多いことをはじめ、男性と女性では取得しなかった理由が異なる。

### （５）介護休業取得の有無

問 15　あなたは介護休業を取得したことはありますか。（○は１つ）




＜介護が必要な家族はいるが就労している人のみの回答（無回答も除く）＞



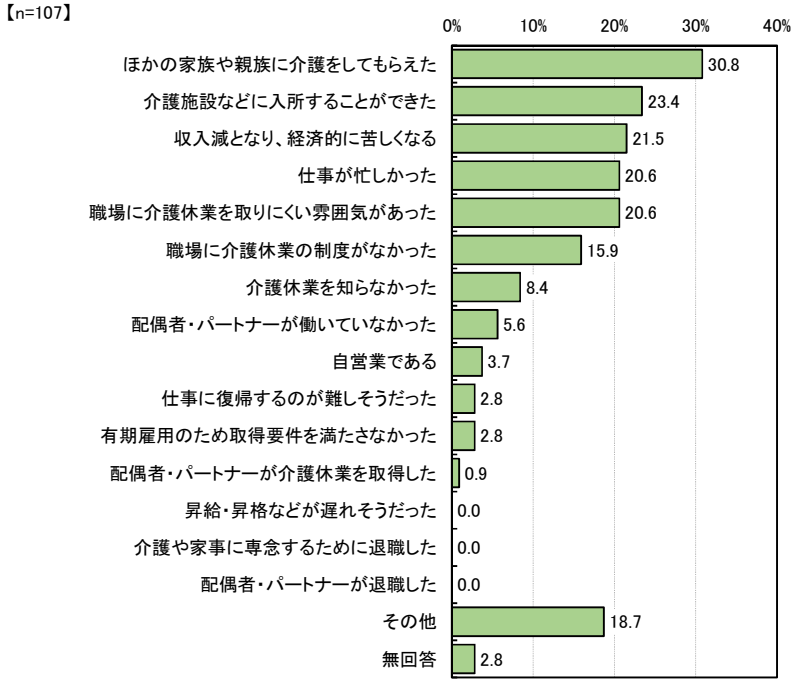

介護が必要な家族がいる・いた時に介護休業を取得したか尋ねたところ、「介護休業を取得した・している」が 1.5%となっている。

男女別にみると、「介護休業を取得した・している」割合をみると、男性では 1.8%、女性では 1.3%となっている。

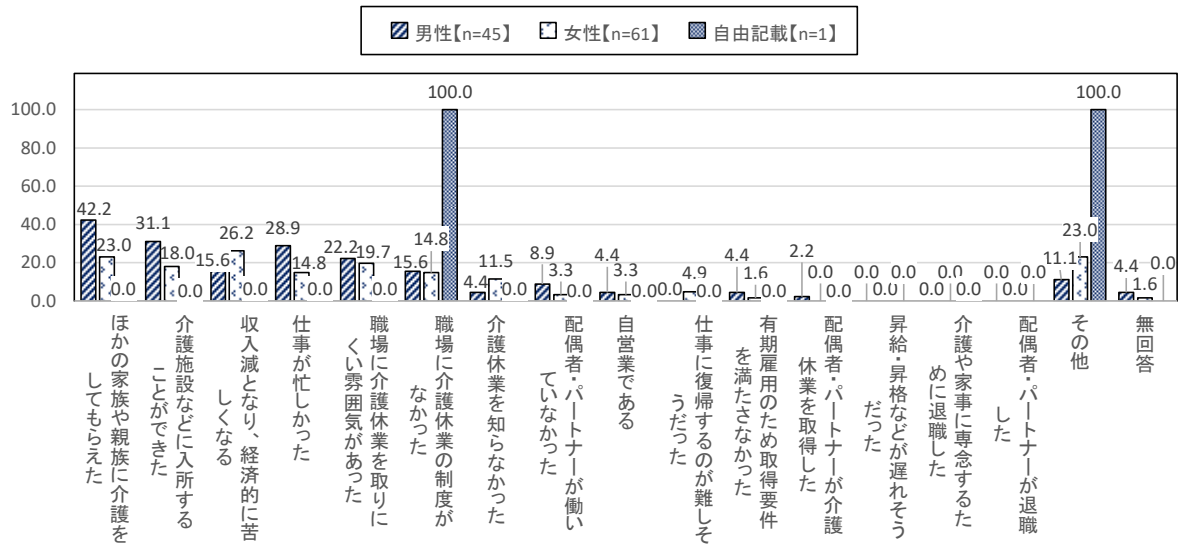
なお、「介護が必要な家族はいるが就労している（いた）人」に限ると、介護休業の取得割合は、全体では 13.7%、男性では 15.1%、女性では 12.9%となる。

## （６）介護休業を取得しなかった理由

問 15-１　問 15 で「２．（介護が必要な家族がいるが）介護休業を取得しなかった・してない」とお答えいただいた方にうかがいます。
介護休業を取得しなかった、取得していない理由は何ですか。（○はいくつでも）




＜男女別＞

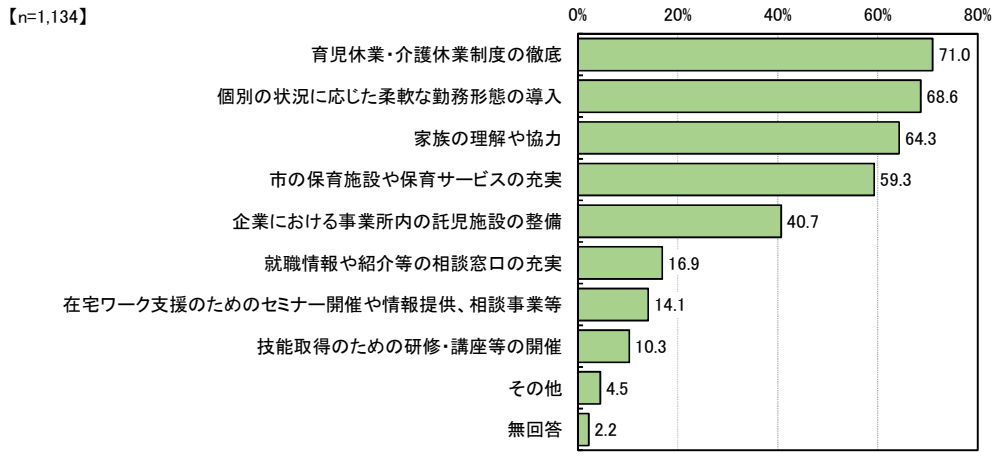



介護や看護が必要な家族がいるが介護休業を取得しなかった・していないと回答した人に、その理由を尋ねたところ、「ほかの家族や親族に介護をしてもらえた」（30.8%）、「介護施設などに入所することができた」（23.4%）、「収入減となり、経済的に苦しくなる」（21.5%）、「仕事が忙しかった」、「職場に介護休業を取りにくい雰囲気があった」（ともに 20.6%）などが比較的多く挙げられている。

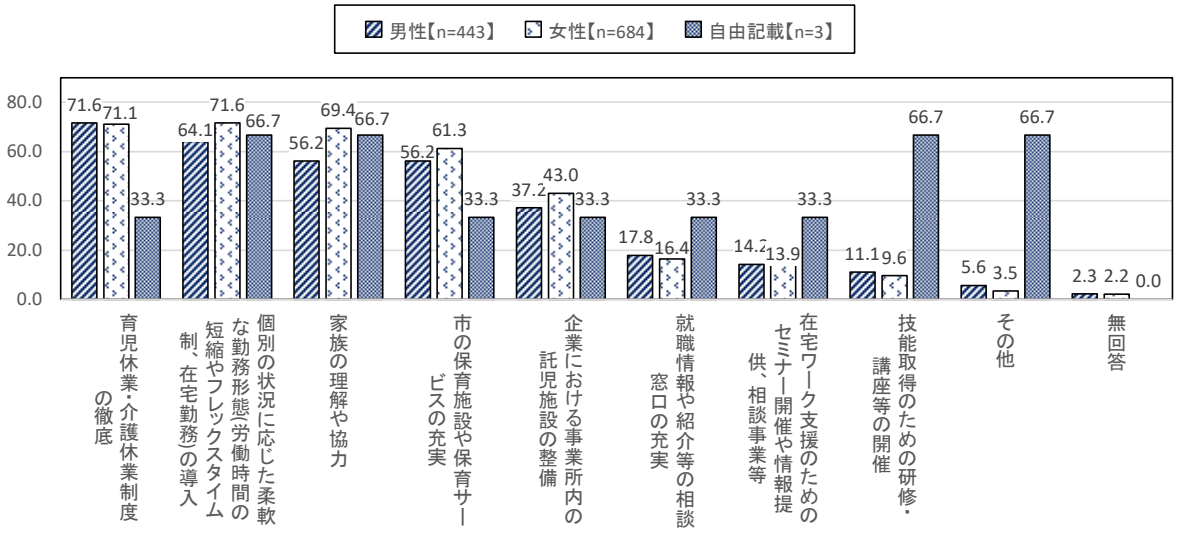
男女別にみると、男性では「ほかの家族や親族に介護をしてもらえた」、女性では「収入減となり、経済的に苦しくなる」が最も多いことをはじめ、男性と女性では取得しなかった理由が異なっている。

## （７）女性が結婚・妊娠・介護を続けながら働くために必要なこと

問 16　女性が結婚・出産や介護などを続けながら働くため、または再就職するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）




＜男女別＞

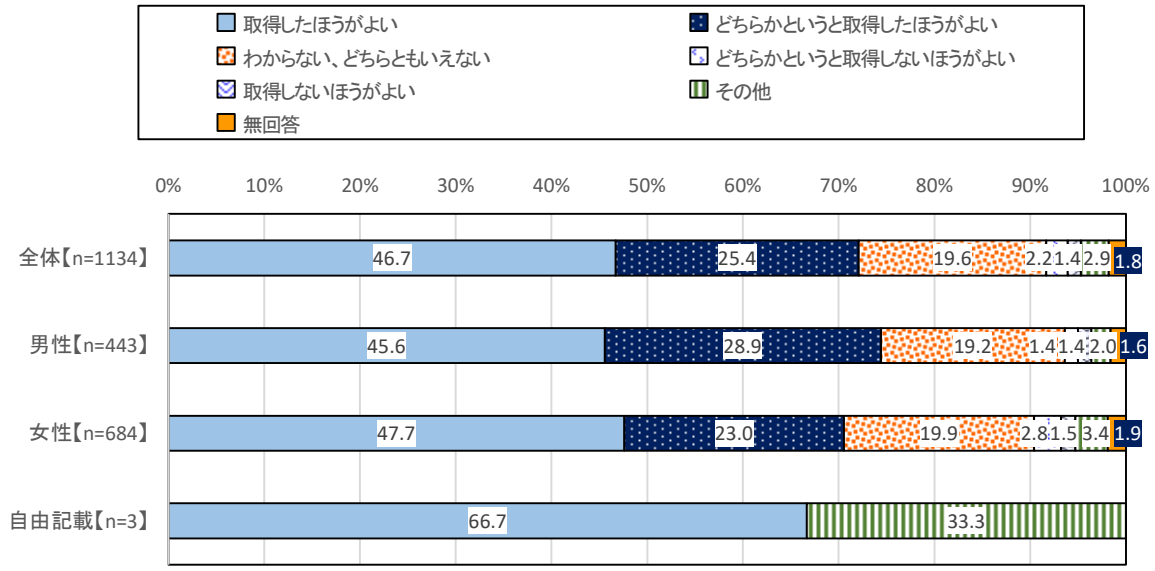



女性が結婚・出産や介護などを続けながら働く、または再就職するために必要なことを尋ねたところ、「育児休業・介護休業制度の徹底」（71.0%）、「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務）の導入」（68.6%）、「家族の理解や協力」（64.3%）、「市の保育施設や保育サービスの充実」（59.3%）などが比較的多く挙げられている。

男女別にみると、男性では「育児休業・介護休業制度の徹底」、女性では「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態（労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務）の導入」が最も多くなっている。

## （８）男性の育児休業・介護休業の取得について

問 17　育児休業や介護休業は男女ともに取得することができます。そのなかで、国は男性の育児休業取得を推進中で、2020 年までに取得率を 13％とする目標を掲げていますが、厚生労働省による 2019 年調査では 7.48％とまだ取得が進んでいません。男性が育児休業や介護休業を取得することについてどう思いますか。（○は１つ）



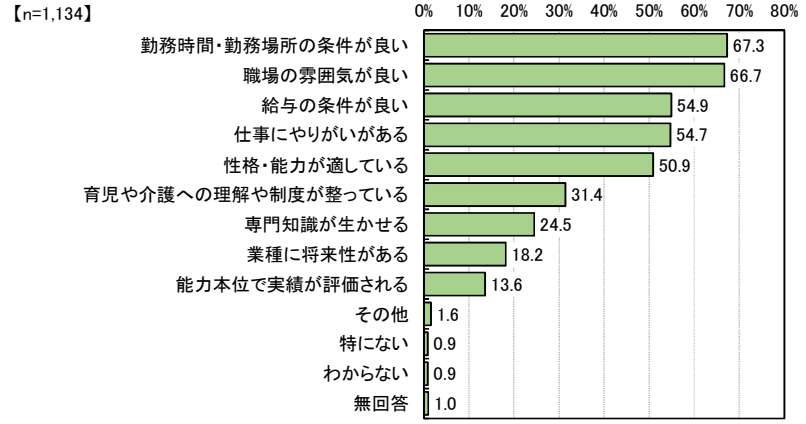

男性が育児休業や介護休業を取得することについて、大別すると、『取得したほうがよい』（「取得したほうがよい」と「どちらかというと取得したほうがよい」の合計）は、全体では 72.1％となっている。『取得しないほうがよい』（「取得しないほうがよい」と「どちらかというと取得しないほうがよい」の合計）は 3.6％、「わからない、どちらともいえない」は 19.6％となっている。

男女別に『取得したほうがよい』の回答割合をみると、男性では 74.5％、女性では 70.7％となっている。

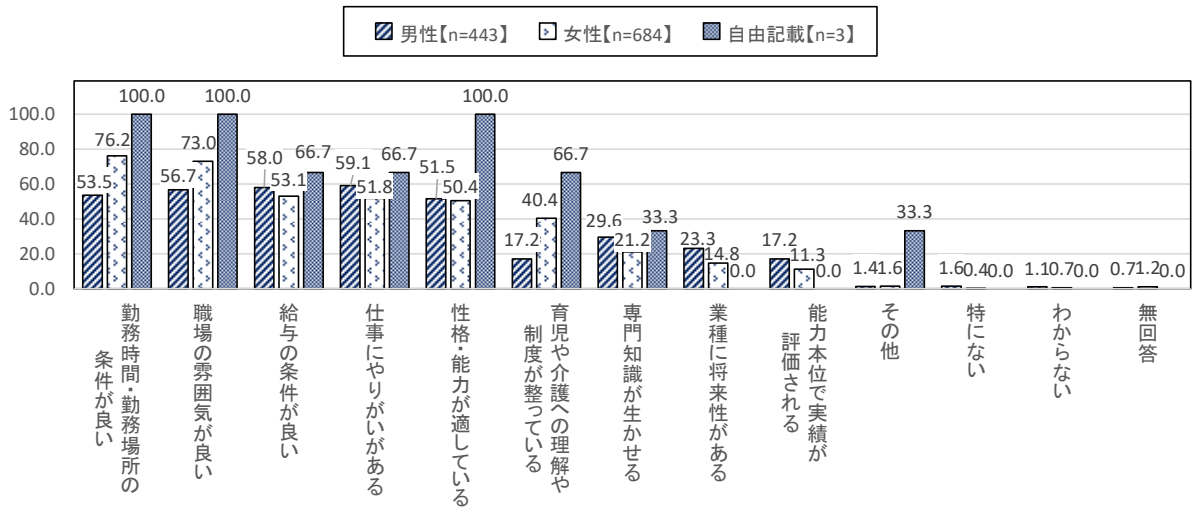
# 4　就業について

## （1）仕事を選ぶ際に重視すること

問 18　あなたが仕事を選ぶ際に、重視すること、またはしたいことは何ですか。
（○はいくつでも）




＜男女別＞

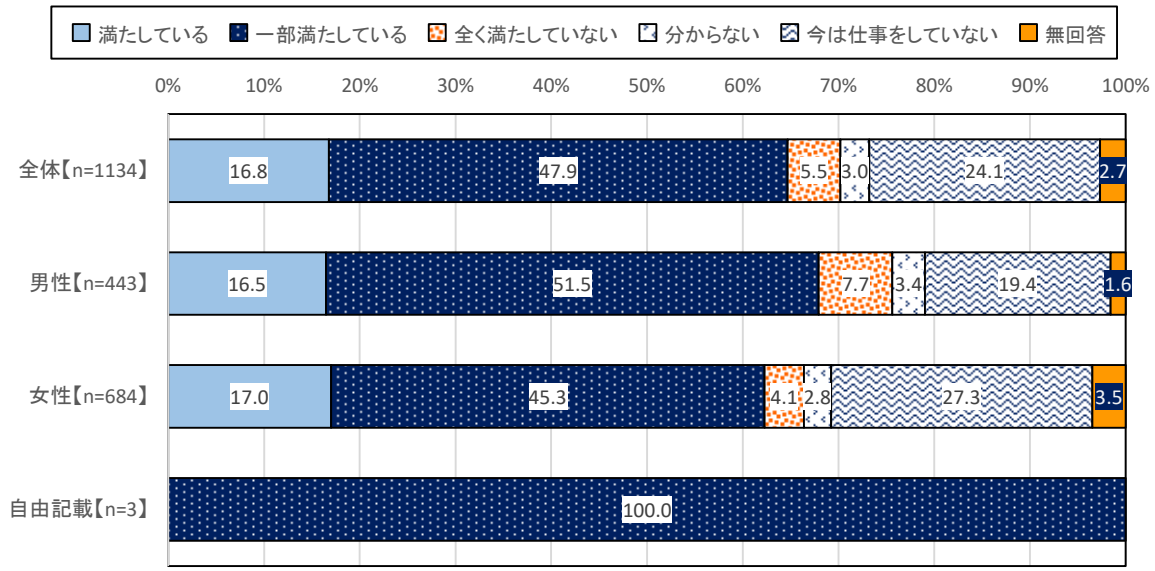



仕事を選ぶ際に重視すること・したいことを尋ねたところ、「勤務時間・勤務場所の条件が良い」（67.3％）、「職場の雰囲気が良い」（66.7％）、「給与の条件が良い」（54.9％）、「仕事にやりがいがある」（54.7％）、「性格・能力が適している」（50.9％）などが多く挙げられている。

男女別にみると、男性では「仕事にやりがいがある」、「給与の条件が良い」、女性では「勤務時間・勤務場所の条件が良い」、「職場の雰囲気が良い」が上位を占めており、男性と女性では仕事を選ぶ際に重視する点が異なる。

### （２）実際に就いている仕事は仕事選びの要件を満たしているか

問 19　現在、あなたが実際に就いている仕事は、問 18 で回答した仕事を選ぶ際の要件（重視すること、したいこと）を満たしていますか（○は１つ）

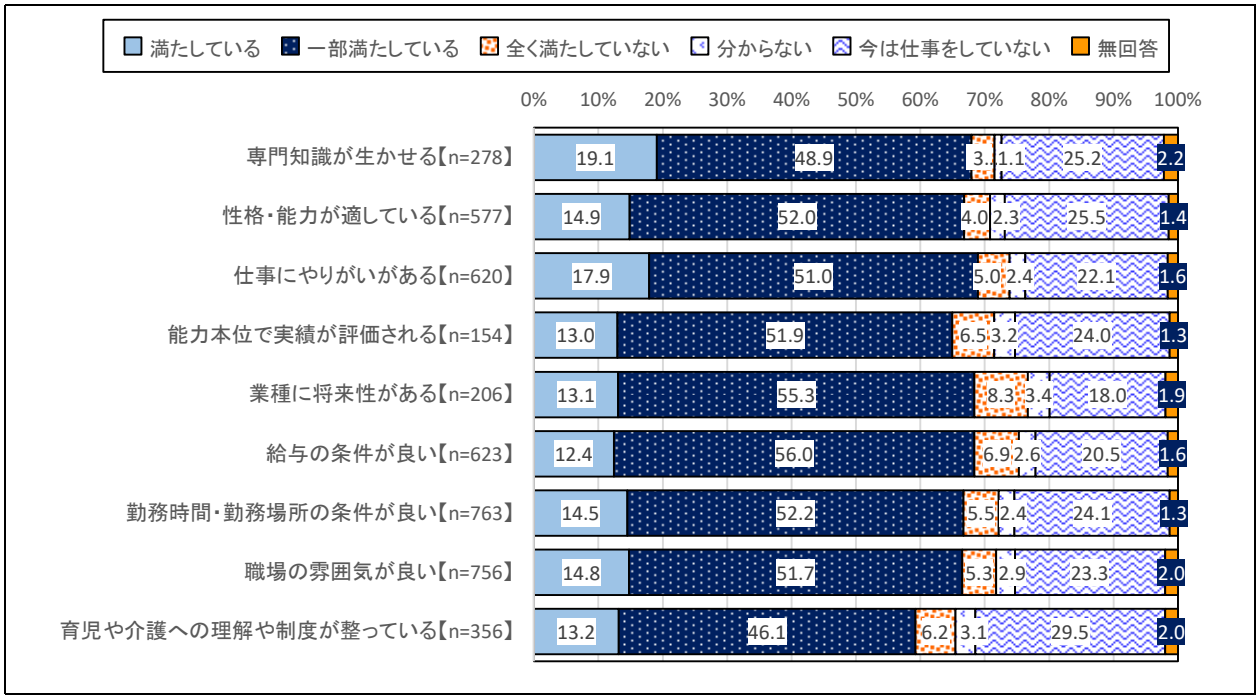



現在、あなたが実際に就いている仕事は、仕事を選ぶ際の要件（重視すること、したいこと）を満たしているか尋ねたところ、全体では「一部満たしている」（47.9%）が最も多く、以下、「満たしている」（16.8%）、「全く満たしていない」（5.5%）となっている。

一方、3.0%は「わからない」、24.1%は「今は仕事をしていない」と回答している。

男女別にみると、男性、女性いずれも、「一部満たしている」が最も多くなっている。

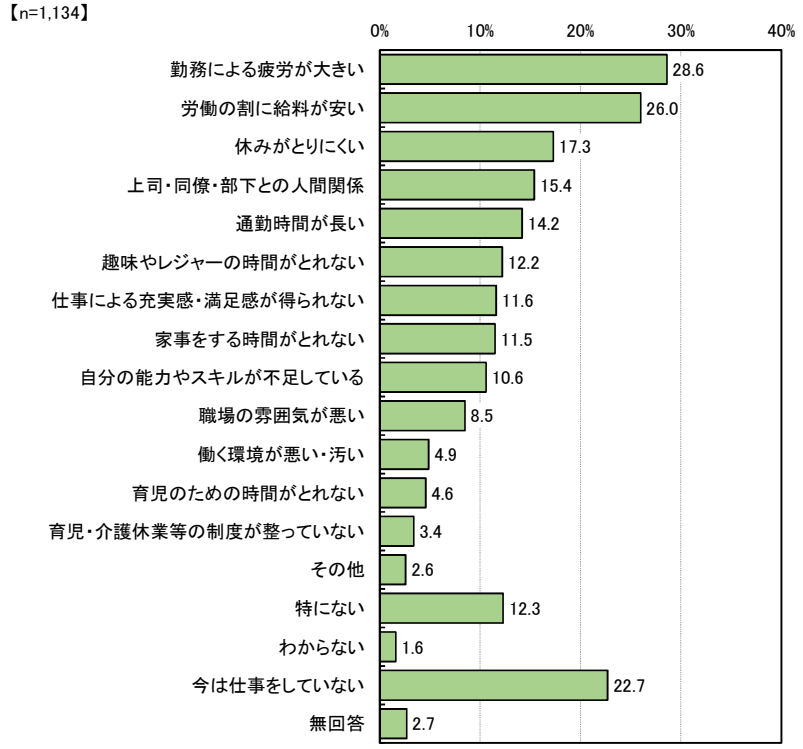
＜仕事を選ぶ際に重視すること（問 19）別クロス集計＞



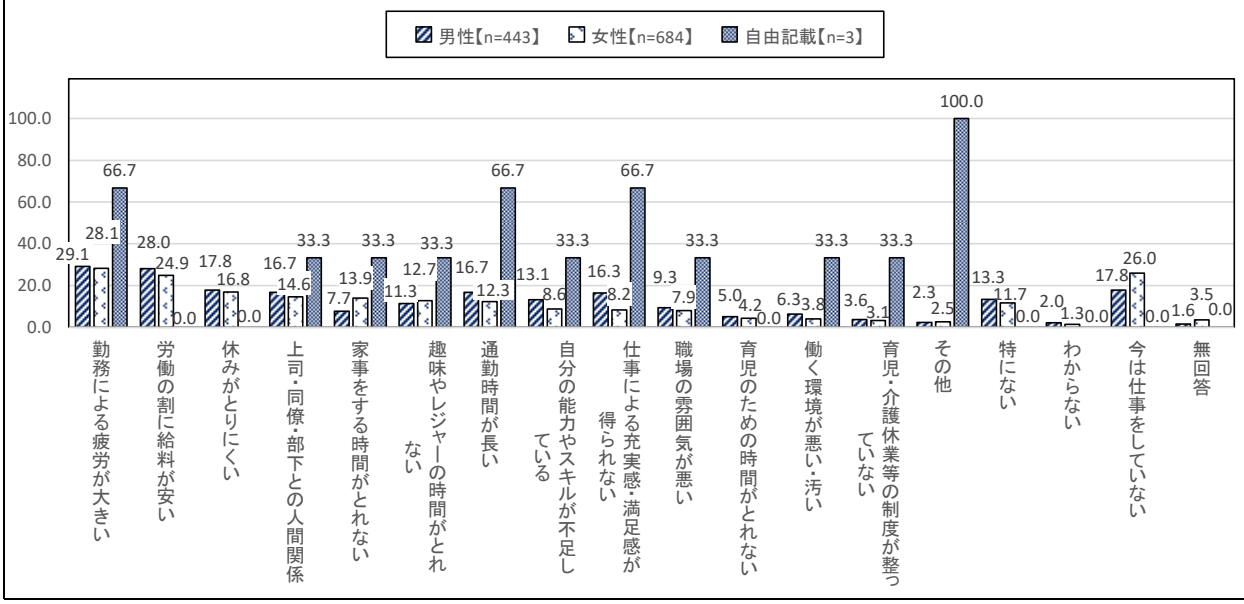

仕事を選ぶ際の要件別にみると、いずれの要件についても「一部満たしている」割合は40％以上を占めている。その中でも、「仕事にやりがいある」、「専門知識が生かせる」については「満たしている」の回答割合が相対的に高くなっている。一方、「業種に将来性がある」については「全く満たしてない」の回答割合が相対的に高くなっている。

## （３）仕事をする上での問題

問 20　あなたにとって仕事をする中で困っていることや大変だと感じていることは何ですか。（○はいくつでも）




＜男女別＞

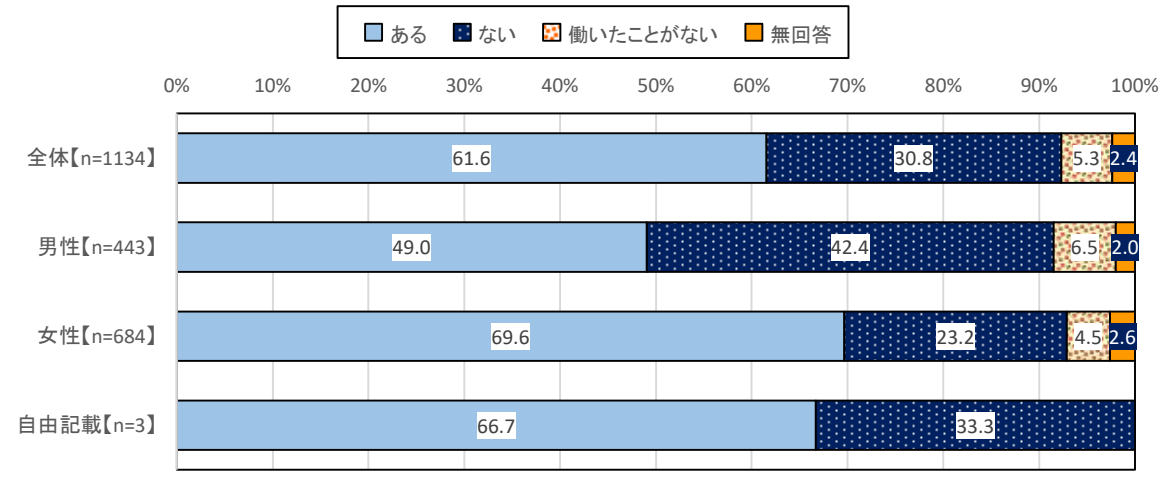



仕事をする中で、自分にとって問題と感じていることを尋ねたところ、「勤務による疲労が大きい」（28.6%）、「労働の割に給料が安い」（26.0%）が特に多く、以下、「休みがとりにくい」（17.3%）、「上司・同僚・部下との人間関係」（15.4%）、「通勤時間が長い」（14.2%）、「趣味やレジャーの時間がとれない」（12.2%）などの順となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「勤務による疲労が大きい」が１位、「労働の割に給料が安い」が２位となっている。

### （４）仕事を辞めた経験の有無

問 21　あなたは中途で仕事を辞めた経験がありますか。（○は１つ）

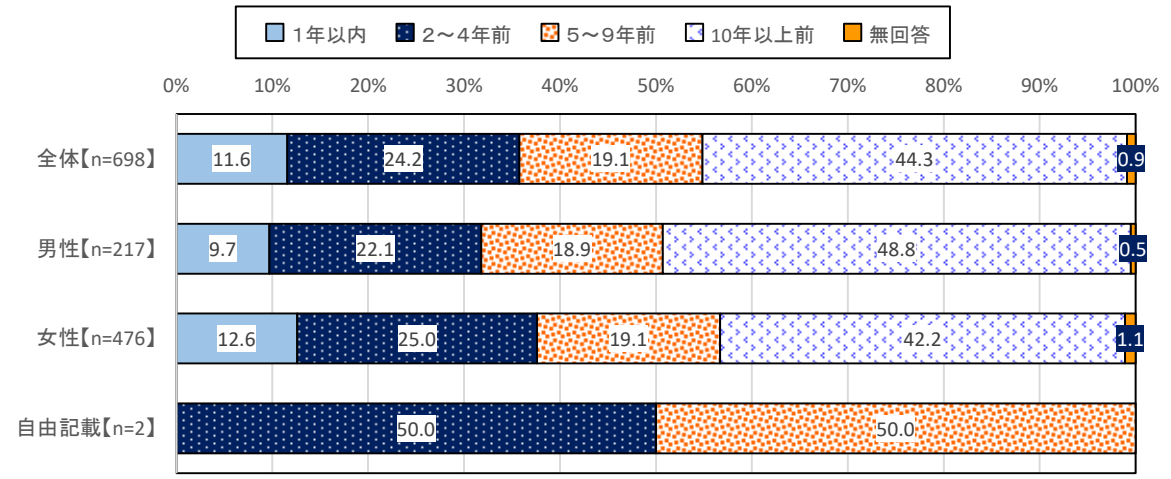



仕事を中途で辞めた経験については、全体では 61.6%が「ある」と回答している。

男女別に「ある」の回答割合をみると、男性では 49.0%、女性では 69.6%となっている。

### （５）《仕事を辞めた経験がある人》仕事を辞めた時期と理由

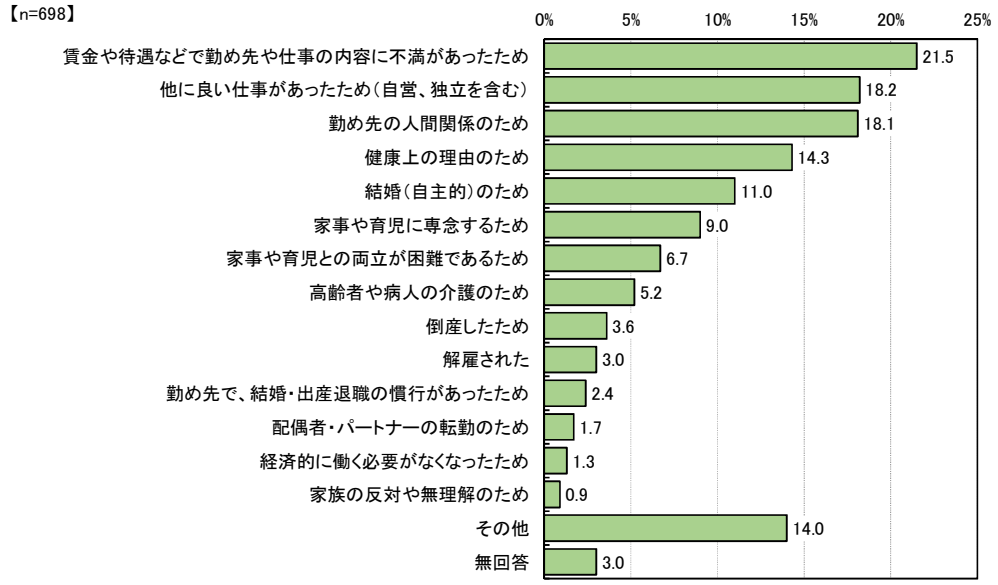
問 21-１　問 21 で「１．ある」とお答えいただいた方にうかがいます。
あなたが最後に仕事を辞めたのはいつですか。（○は１つ）



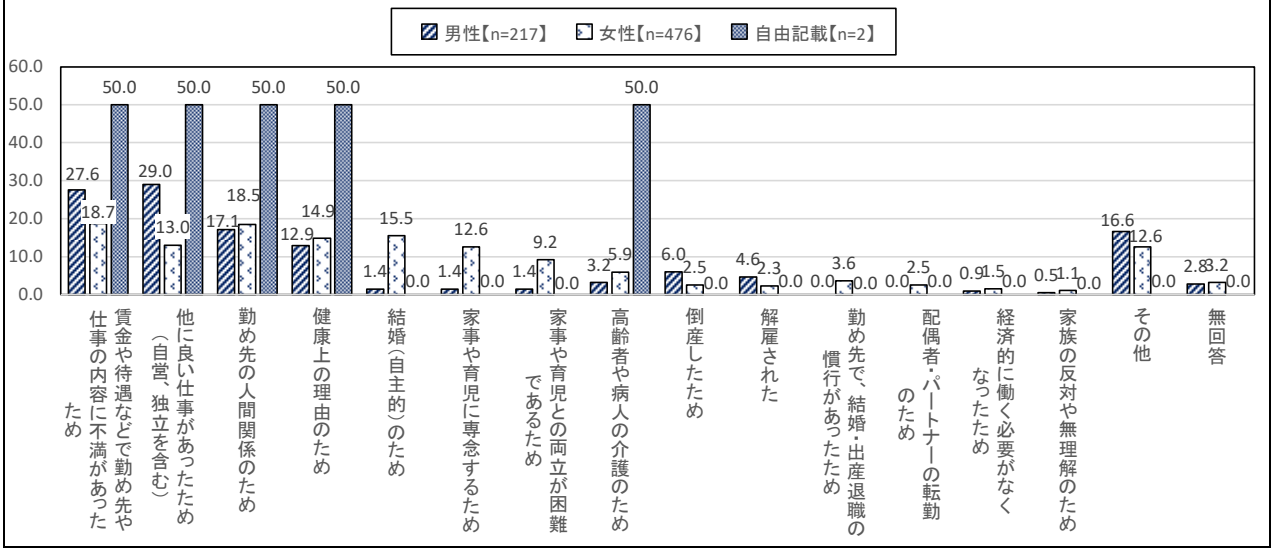

仕事を中途でやめた経験があると回答した人に仕事を辞めた時期について尋ねたところ、全体では、「10 年以上前」（44.3%）が最も多く、次いで、「２～４年前」（24.2%）、「５～９年前」（19.1%）、「１年以内」（11.6%）となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも全体と同じ構成比となっているが、「２～４年前」と「１年以内」の回答割合は、男性よりも女性の方が多くなっている。

問 21-２　問 21 で「１．ある」とお答えいただいた方にうかがいます。
あなたが最後に仕事を辞めた主な理由は何ですか。（○は３つまで）




＜男女別＞



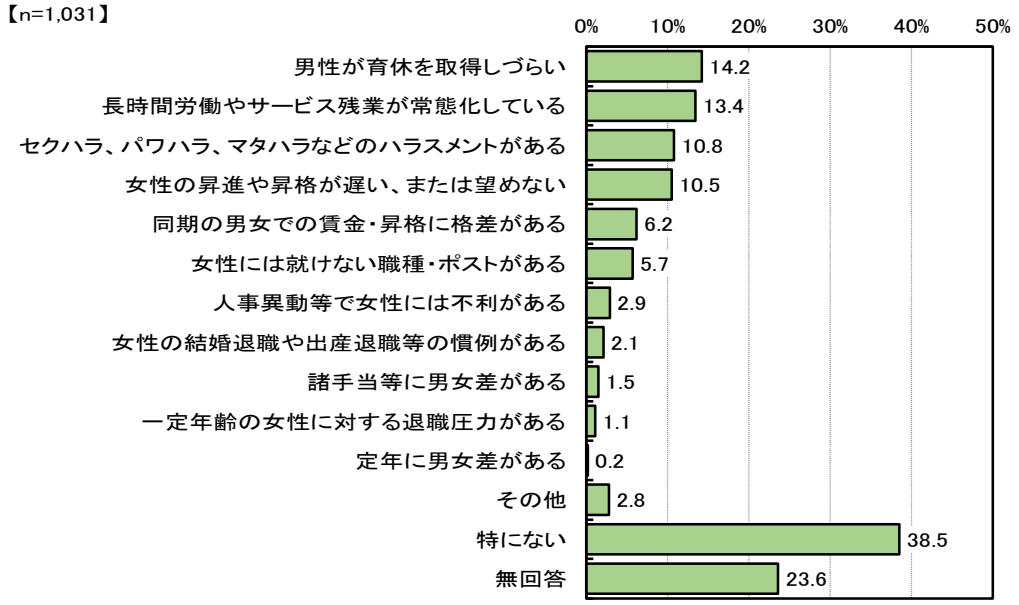

仕事を中途で辞めたことがあると回答した人にその理由を尋ねたところ、「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」（21.5％）、「他に良い仕事があったため（自営、独立を含む）」（18.2％）、「勤め先の人間関係のため」（18.1％）が特に多く挙げられている。以下、「健康上の理由のため」（14.3％）、「結婚（自主的）のため」（11.0％）などの順となっている。

男女別にみると、男性は、「他に良い仕事があったため（自営、独立を含む）」が１位、「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が２位となっている。女性は、「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が僅差で２位の「勤め先の人間関係のため」を上回り１位となったが、回答割合は男性よりも低くなっている。

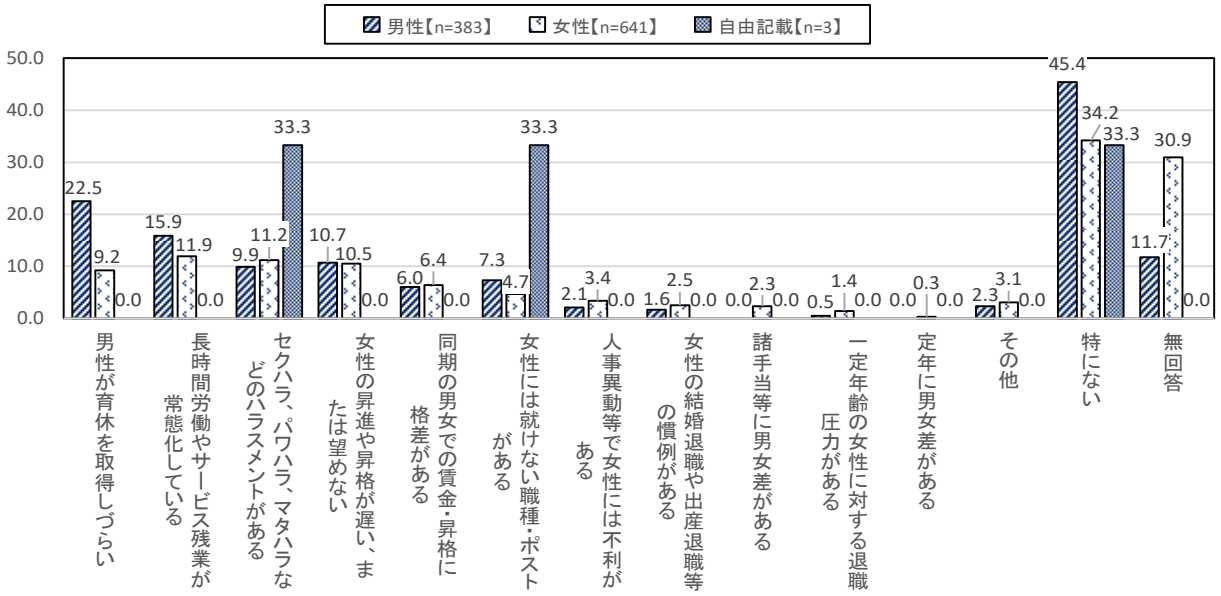
## （６）職場が抱える問題

問 22　現在、仕事をしている方のみお答えください。

あなたの職場では現在、次にあげるような問題がありますか。（○はいくつでも）




＜男女別＞



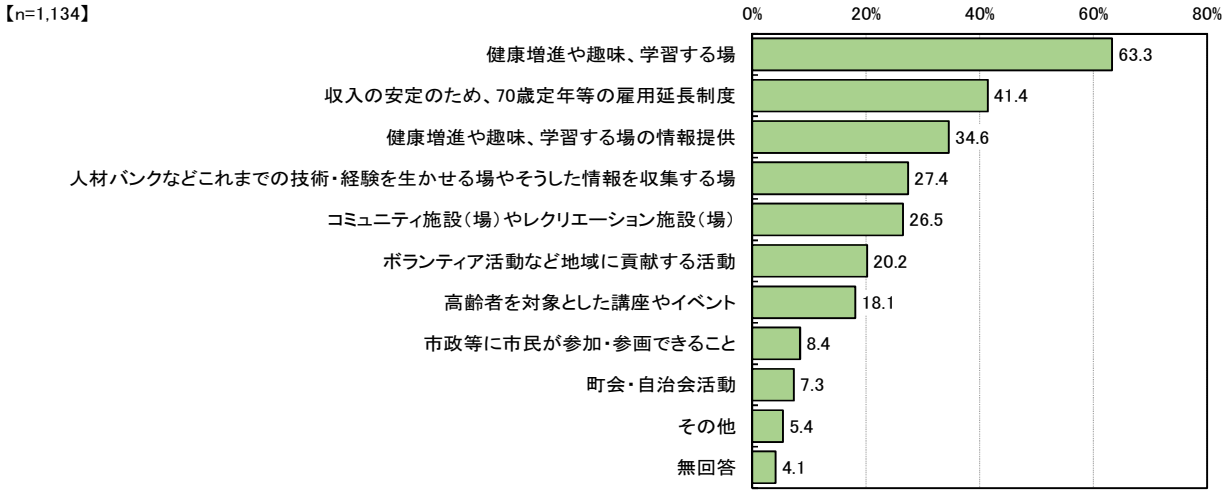

職場が抱える潜在的な問題について尋ねたところ、「男性が育休を取得しづらい」（14.2%）、「長時間労働やサービス残業が常態化している」（13.4%）が特に多く、以下、「セクハラ、パワハラ、マタハラなどのハラスメントがある」（10.8%）、「女性の昇進や昇格が遅い、または望めない」（10.5%）、「同期の男女での賃金・昇格に格差がある」（6.2%）、「女性には就けない職種・ポストがある」（5.7%）などの順となっている。

男女別にみると、男性は「男性が育休を取得しづらい」が１位、「長時間労働やサービス残業が常態化している」が２位となっている。

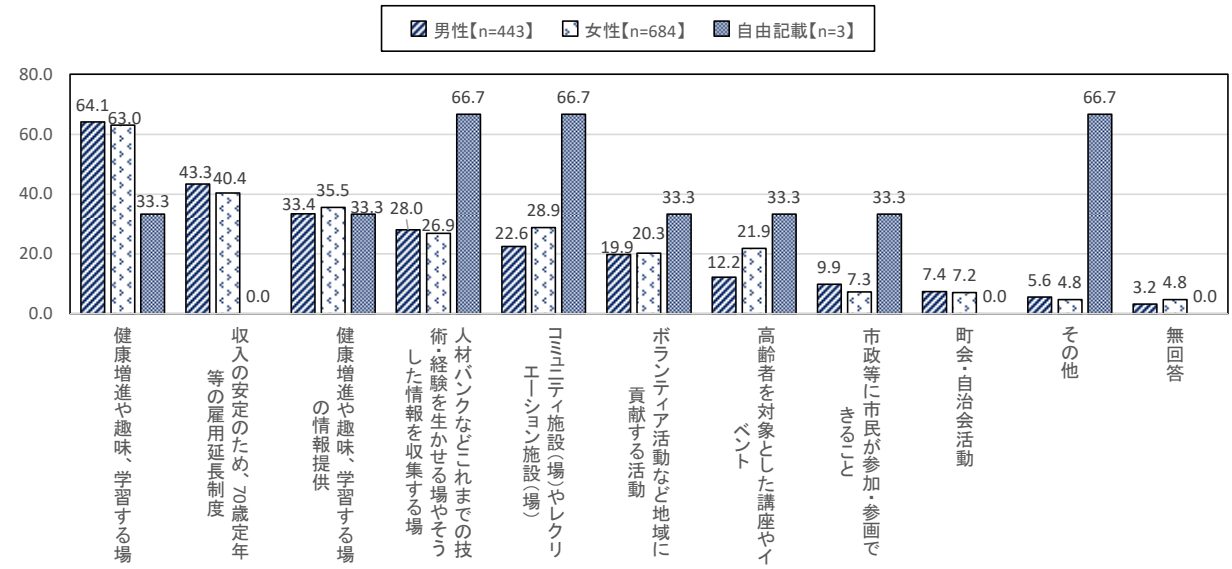
また、女性では「長時間労働やサービス残業が常態化している」が１位、「セクハラ、パワハラ、マタハラなどのハラスメントがある」が２位であった。男性の１位「男性が育休を取得しづらい」は 22.5%と女性の 9.2%と比べて回答比率が多くなっている。

## （７）定年後の人生を豊かに過ごすために必要なこと

問 23　定年後の人生を豊かに過ごすために、必要・有効だと思うことは何ですか。（○はいくつでも）




＜男女別＞




定年後の人生を豊かに過ごすために、必要・有効だと思うことを尋ねたところ、「健康増進や趣味、学習する場」（63.3%）が最も多く、次いで、「収入安定のため、70 歳定年等の雇用延長制度」（41.4%）、「健康増進や趣味、学習する場の情報提供」（34.6%）、「人材バンクなどこれまでの技術・経験を生かせる場やそうした情報を収集する場」（27.4%）、「コミュニティ施設（場）やレクリエーション施設（場）」（26.5%）などの順となっている。

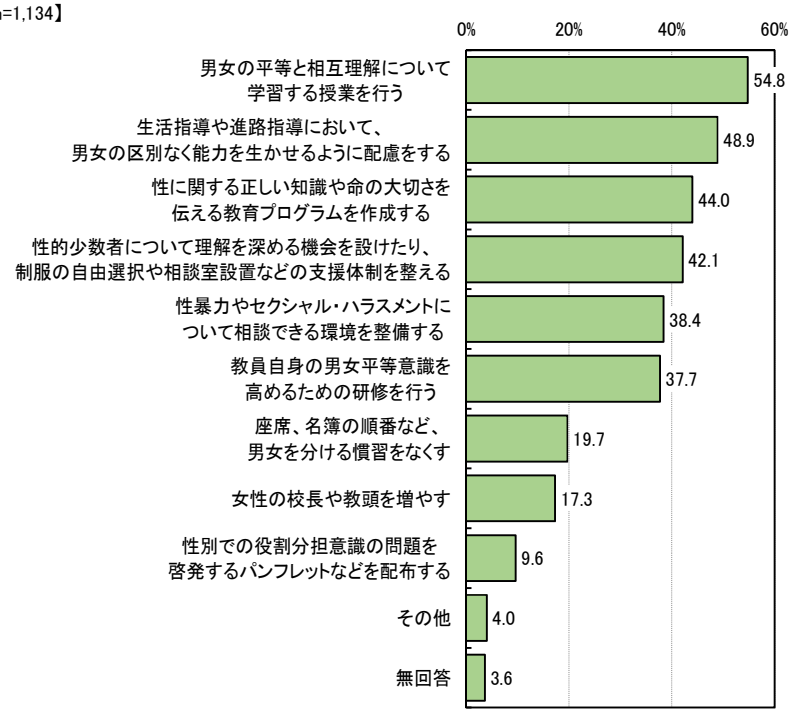
男女別にみると、男性、女性いずれも「健康増進や趣味、学習する場」が１位、「収入安定のため、70 歳定年等の雇用延長制度」が２位、「健康増進や趣味、学習する場の情報提供」が３位と共通している。

## 5　子どもへの男女共同参画教育について

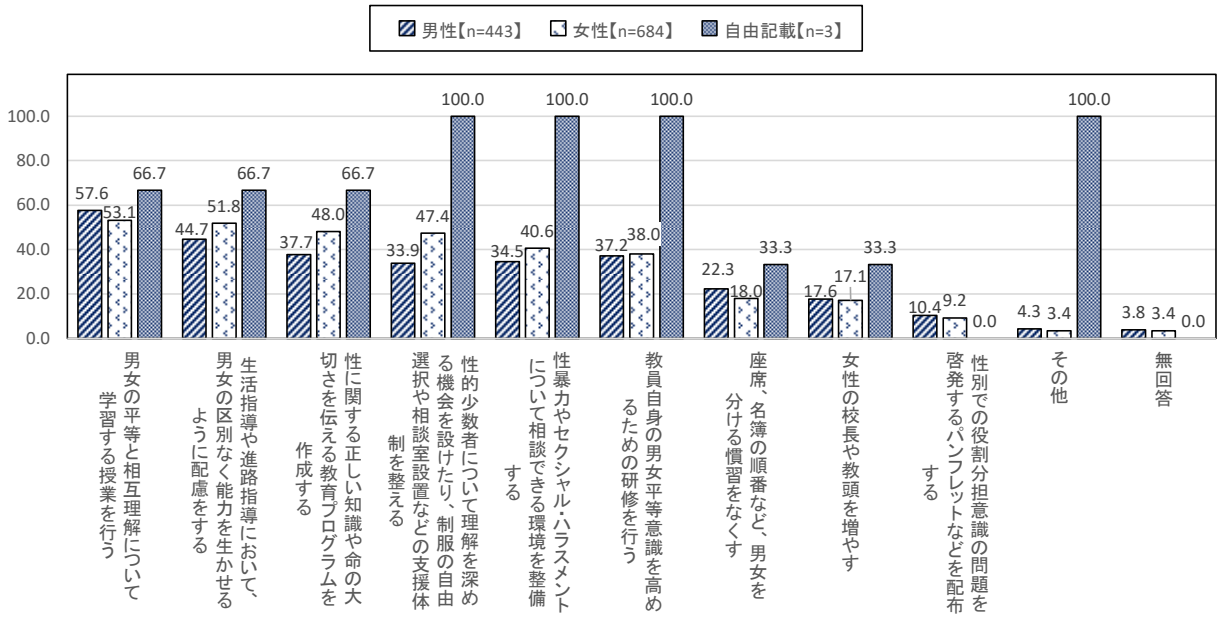
### （1）男女平等推進のために学校教育において重要な取組

問 24　学校教育（小・中学校）の中で男女平等を進めるための取組として、何に力を入れるべきだと思いますか。（○はいくつでも）

【n=1,134】




＜男女別＞

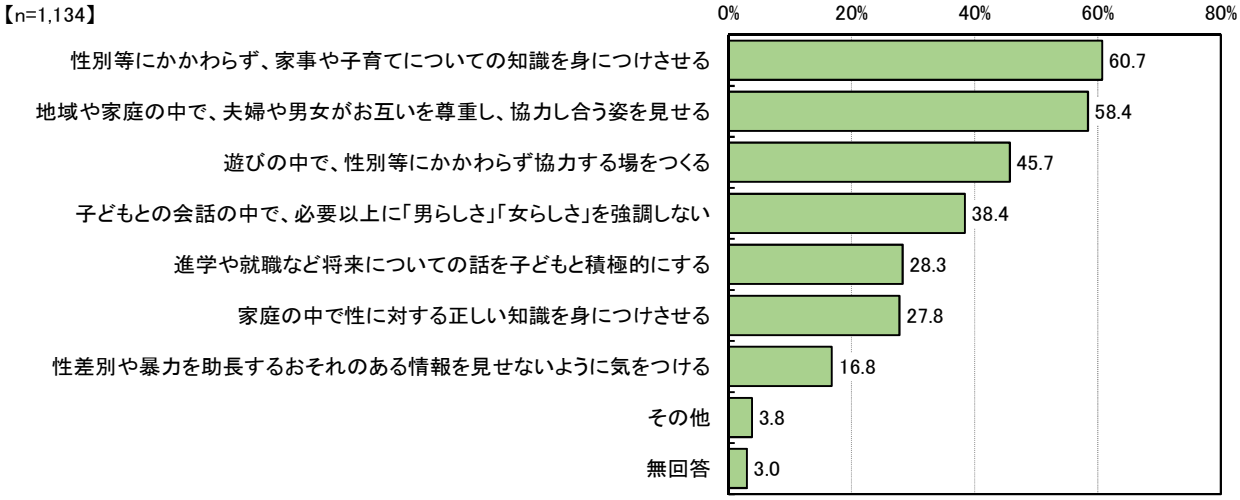



学校教育の中で男女平等を推進するために力を入れるべき取組を尋ねたところ、「男女の平等と相互理解について学習する授業を行う」（54.8%）、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮をする」（48.9%）が特に多く挙げられている。

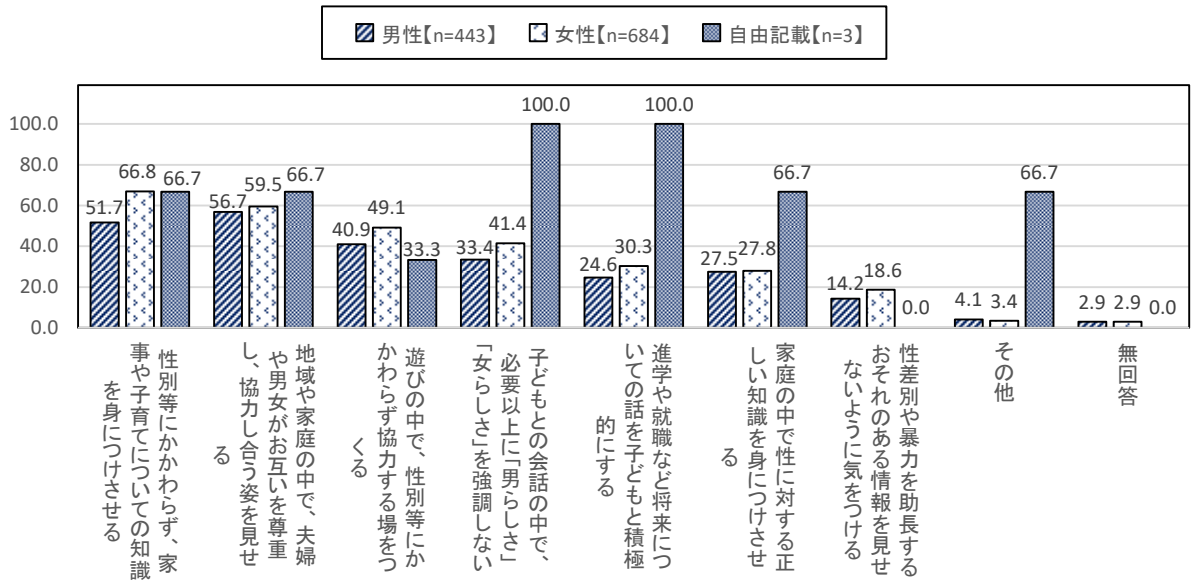
男女別にみると、男性、女性ともに「男女の平等と相互理解について学習する授業を行う」が最も多くなっている。

## （２）子ども達が性別を意識しない人間関係をつくるために大人が心がけるべきこと

問 25　子ども達が性別を意識しない人間関係をつくっていくために、親や大人はどのようなことを心がけるべきだと思いますか。（○はいくつでも）




＜男女別＞



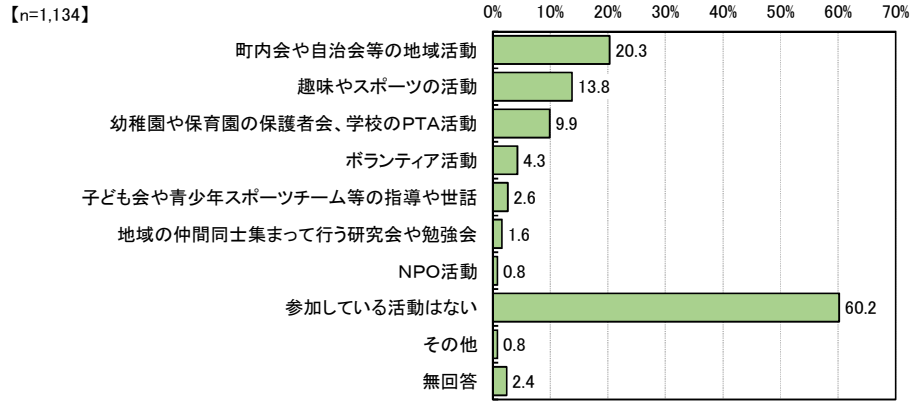

子ども達が性別を意識しない人間関係をつくっていくために、親や大人はどのようなことを心がけるべきか尋ねたところ、「性別等にかかわらず、家事や子育てについての知識を身につけさせる」（60.7%）、「地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力し合う姿を見せる」（58.4%）が特に多く、以下、「遊びの中で、性別等にかかわらず協力する場を作る」（45.7%）、「子どもとの会話の中で、必要以上に『男らしさ』『女らしさ』を強調しない」（38.4%）などの順となっている。

男女別にみると、男性では、「地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力し合う姿を見せる」が１位、「性別等にかかわらず、家事や子育てについての知識を身につけさせる」が２位となっているが、女性では順位が逆転しており、さらに１位の「性別等にかかわらず、家事や子育てについての知識を身につけさせる」の回答割合における差が 15.1 ポイントと開きがある。

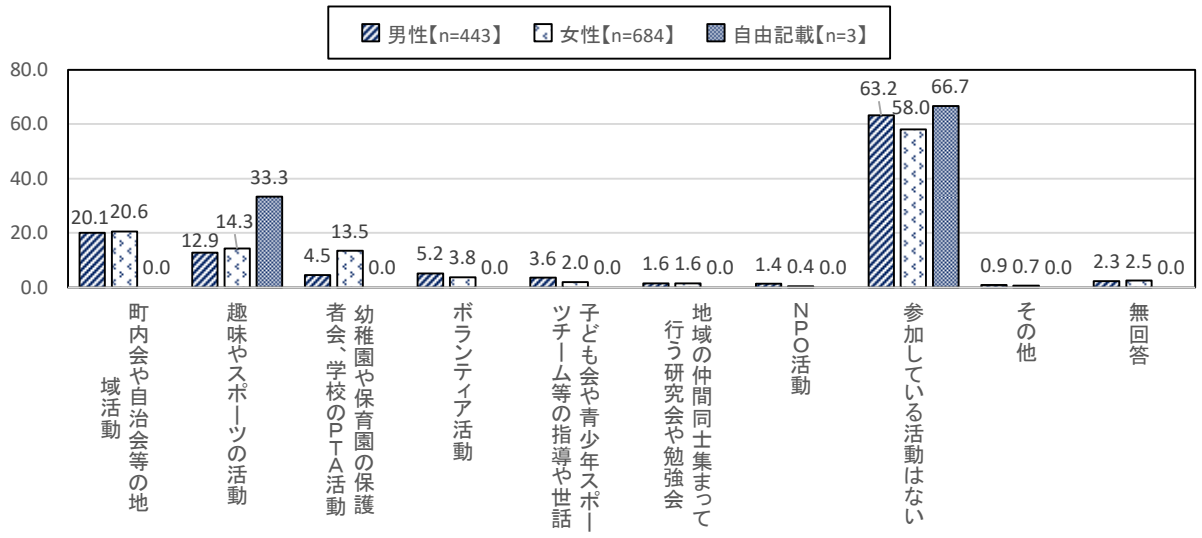
# ６　地域活動、防災・避難について

## （１）現在参加している地域活動

問 26　次にあげる地域活動の中であなたが現在参加しているものを選んでください。
（○はいくつでも）




＜男女別＞

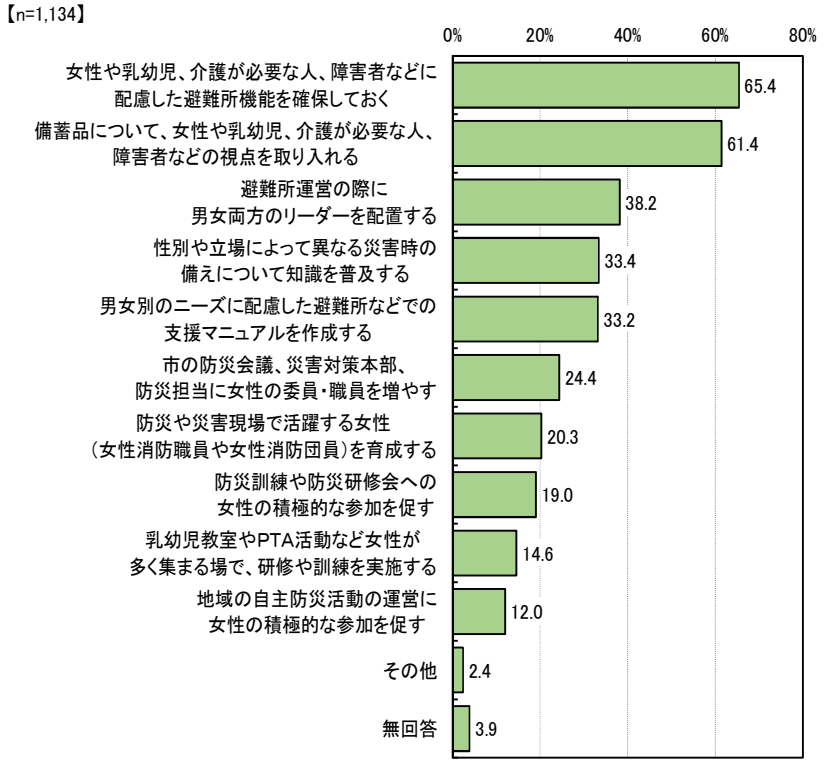



現在参加している地域活動について尋ねたところ、全体では「町内会や自治会等の地域活動」（20.3％）が最も多く、以下、「趣味やスポーツの活動」（13.8％）、「幼稚園や保育園の保護者会、学校のＰＴＡ活動」（9.9％）、「ボランティア活動」（4.3％）などとなっている。

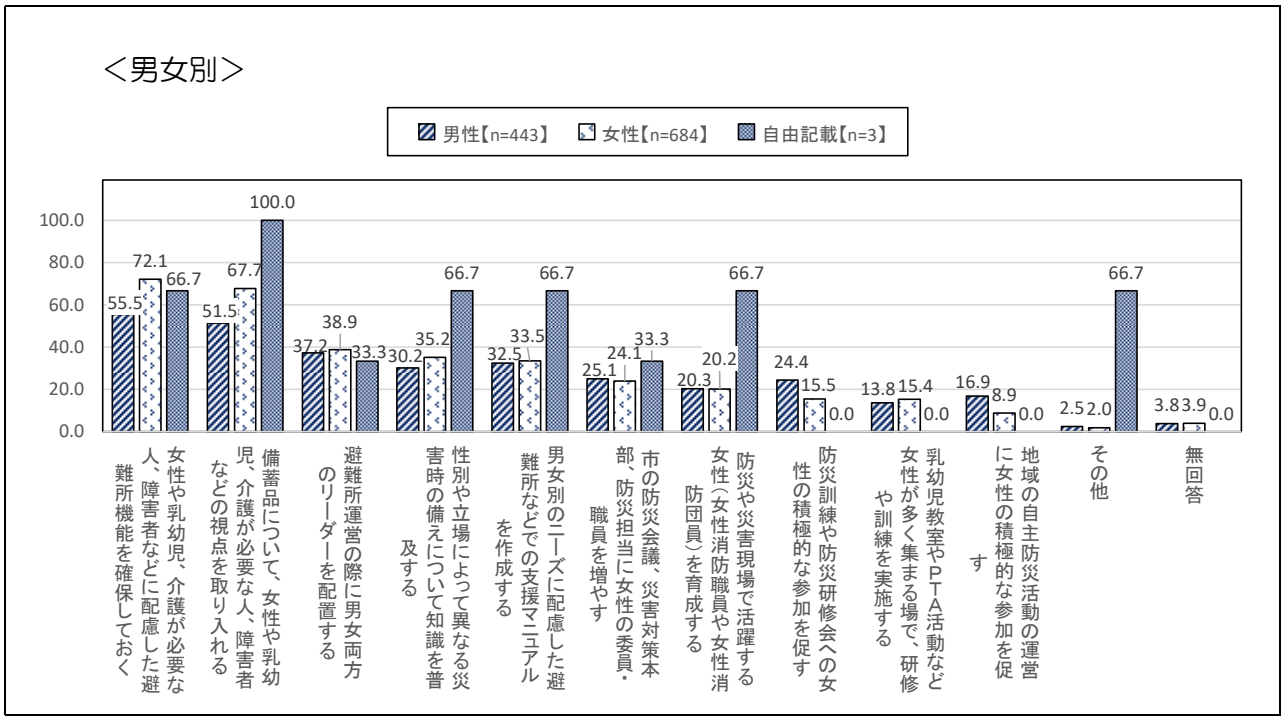
男女別にみると、男性、女性いずれも「町内会や自治会等の地域活動」が１位、「趣味やスポーツの活動」が２位と共通しており、回答割合も大きな差は見られない。そのなかで、女性の３位「幼稚園や保育園の保護者会、学校のＰＴＡ活動」は、13.5％であるのに対し、男性は 4.5％と 9.0 ポイントの差がみられた。

## （２）防災・災害復興対策の中で取り入れるべき男女共同参画の視点

問 27　東日本大震災などの教訓から、災害発生に伴う避難や平時の防災体制について男女共同参画の視点を取り入れることが必要だと指摘されています。そのためには、今後の防災や災害復興対策においてどのような施策が必要だと思いますか。（○はいくつでも）




男女共同参画の視点を取り入れた今後の防災や災害復興対策について、どのような施策が必要か尋ねたところ、全体では「女性や乳幼児、介護が必要な人、障害者などに配慮した避難所機能を確保しておく」（65.4%）、「備蓄品について、女性や乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を取り入れる」（61.4%）が特に多く挙げられている。次いで、「避難所運営の際に男女両方のリーダーを配置する」（38.2%）、「性別や立場によって異なる災害時の備えについて知識を普及する」（33.4%）、「男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルを作成する」（33.2%）などの順となっている。



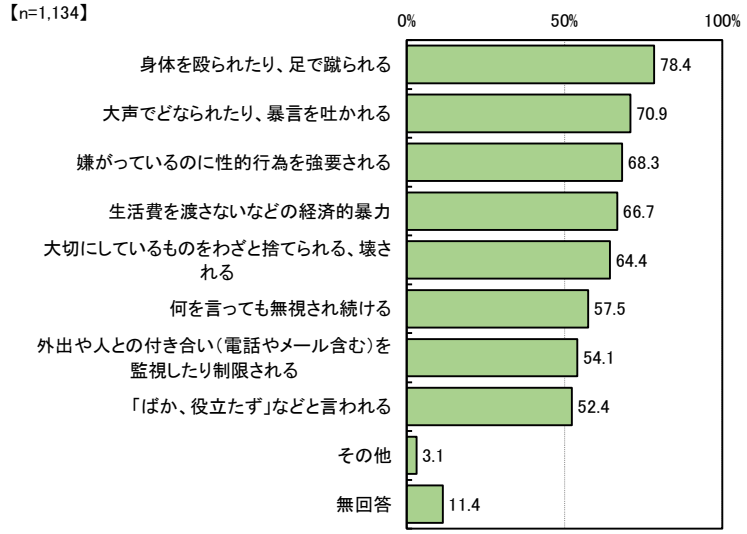

男女別では、男性、女性いずれも上位３位まで共通しているが、１位の「女性や乳幼児、介護が必要な人、障害者などに配慮した避難所機能を確保しておく」、２位の「備蓄品について、女性や乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を取り入れる」について、女性の回答割合がいずれも 16 ポイント以上高くなっており、女性の関心の高さが窺える結果となった。

## 7　配偶者などからの暴力について

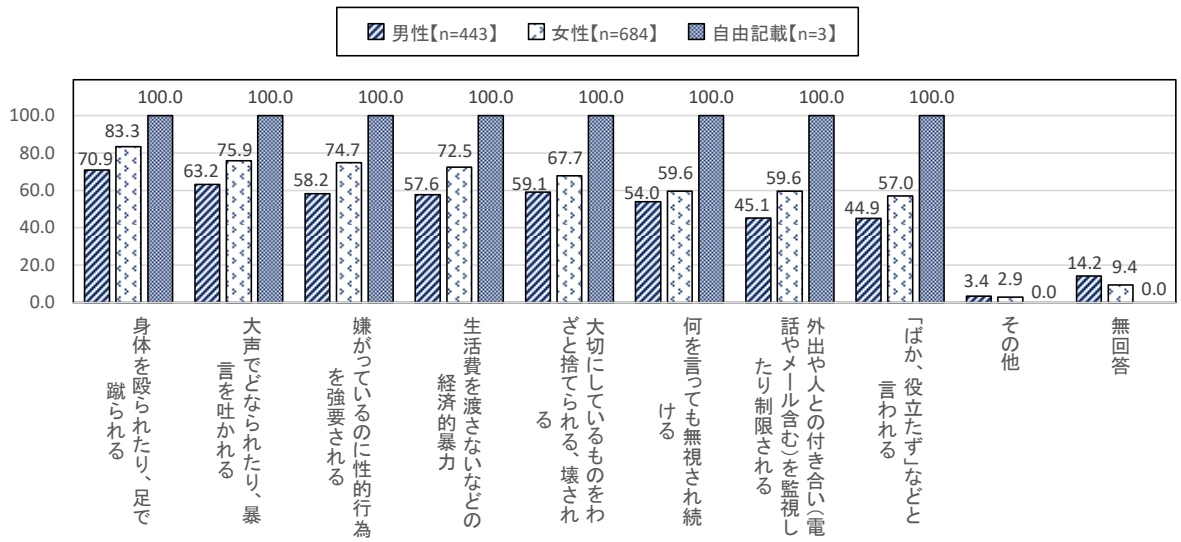
※以下の設問にある「配偶者など」には、婚姻届けを出していない事実婚、別居中の夫婦、元配偶者、交際相手も含みます。

### （1）ＤＶ（ドメスティックバイオレンス）だと感じること

問 28　配偶者などから次のようなことが行われた場合、あなたが暴力だと感じることをお答えください。（○はいくつでも）




＜男女別＞

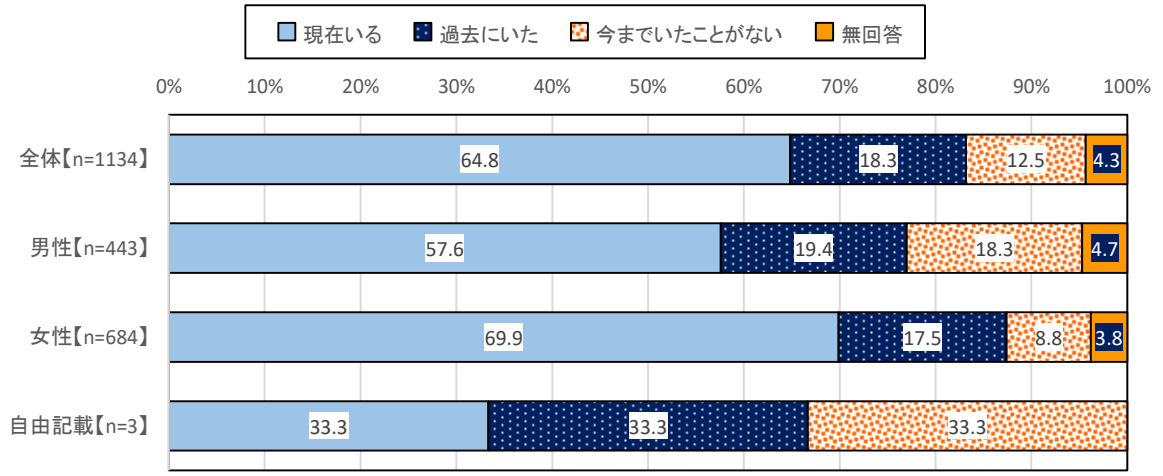



配偶者などからの暴力だと感じることを尋ねたところ、全体では「身体を殴られたり、足で蹴られる」（78.4%）、「大声でどなられたり、暴言を吐かれる」（70.9%）が特に多く挙げられている。以下、「嫌がっているのに性的行為を強要される」（68.3%）、「生活費を渡さないなどの経済的暴力」（66.7%）、「大切にしているものをわざと捨てられる、壊される」（64.4%）などの順となっている。

男女別にみると、すべての選択肢の回答割合について、女性の数値が男性の数値を上回っているほか、「嫌がっているのに性的行為を強要される」の回答割合については男女間の差が 16.5 ポイントと最も大きくなっている。

### （２）配偶者や恋人がいるか・過去にいたか

問 29　あなたに配偶者や恋人がいますか、または過去にいたことがありますか。（○は１つ）

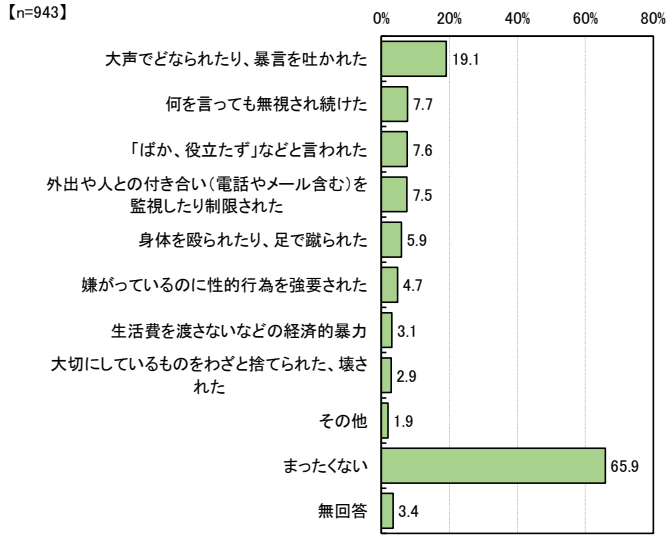



配偶者や恋人について尋ねたところ、全体では「現在いる」が 64.8%、「過去にいた」が 18.3%、「今までいたことがない」が 12.5%となっている。

男女別にみると、「現在いる」が男性では 57.6%、女性では 69.9%、「過去にいた」が男性では 19.4%、女性では 17.5%、「今までいたことがない」が男性では 18.3%、女性では 8.8%となっている。

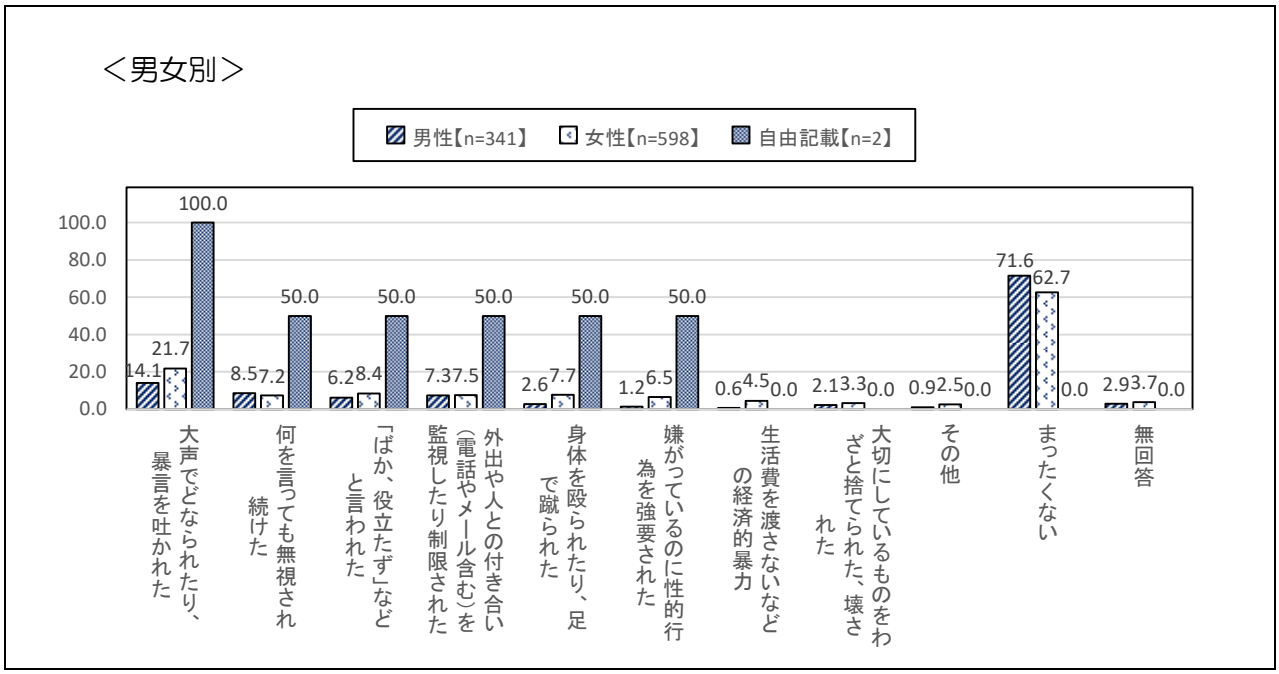
### （３）《配偶者や恋人がいるか・過去にいた人》ＤＶを受けた経験の有無

問 29-１　問 29 で「１．いる」「２．過去にいた」とお答えいただいた方にうかがいます。あなたは配偶者（元配偶者も含む）や交際相手等から次のような行為を受けた経験はありますか。（○はいくつでも）




配偶者や恋人がいるもしくは過去にいたと回答した人に、配偶者（元配偶者も含む）や恋人から受けたハラスメント行為を尋ねたところ、「大声でどなられたり、暴言を吐かれた」（19.1%）が最も多く、以下、「何を言っても無視され続けた」（7.7%）、「『ばか、役立たず』などと言われた」（7.6%）、「外出や人との付き合い（電話やメール含む）を監視したり制限された」（7.5%）などとなっている。また、65.9%は「まったくない」と回答して

いる。

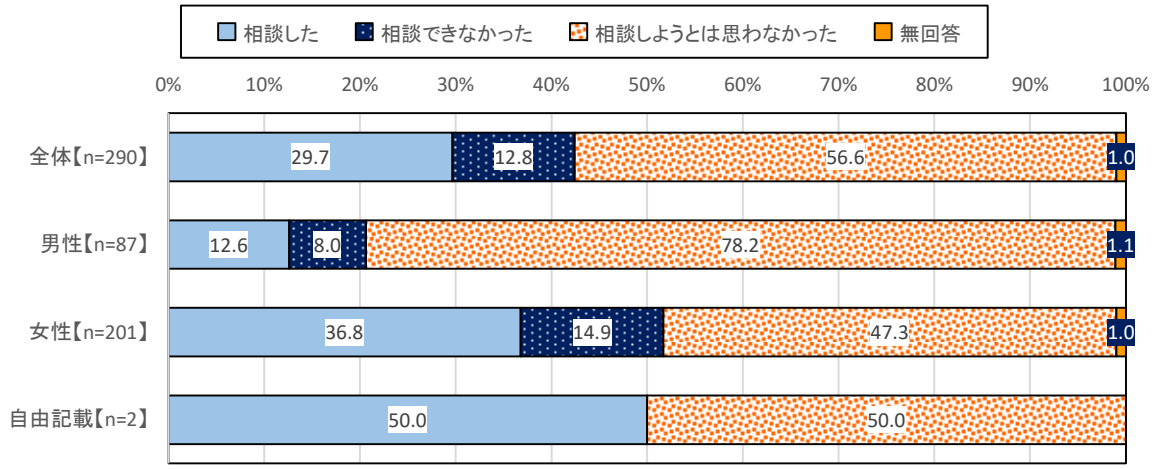



男女別にみると、男性、女性いずれも「大声でどなられたり、暴言を吐かれた」が最も多くなっているが、回答割合は女性が男性を大きく上回っている。また、「嫌がっているのに性的行為を強要された」では 5.3 ポイント、「身体を殴られたり、足で蹴られた」では 5.1 ポイントと回答割合の男女差が大きくなっている。

また、男性の 71.6%、女性の 62.7%が「まったくない」と回答しており、回答割合についても男性、女性間で差がみられた。

### （４）《ＤＶを受けたことがある人》受けたＤＶについて相談したか

問 29-２　問 29-１で「１．」～「９．」とお答えいただいた方にうかがいます。
あなたの受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
（○は１つ）

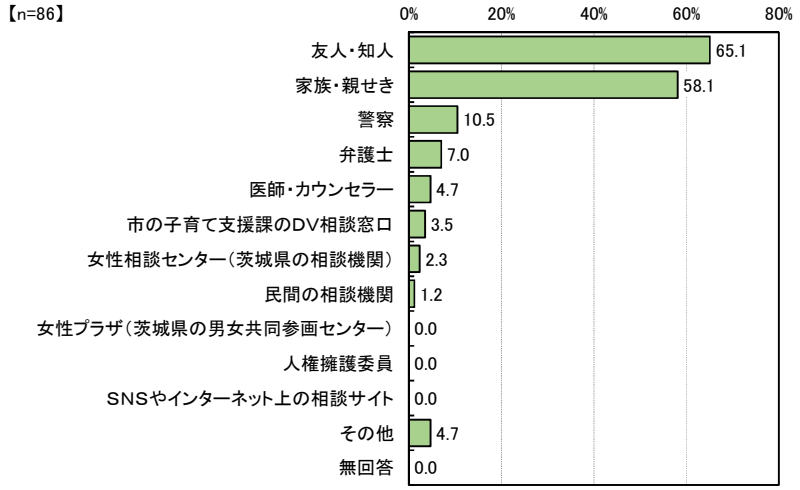



配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けことがあると回答した人に、受けた行為について誰かに相談したか尋ねたところ、全体では「相談した」が 29.7%、「相談しようとは思わなかった」が 56.6%、「相談できなかった」が 12.8%となっている。

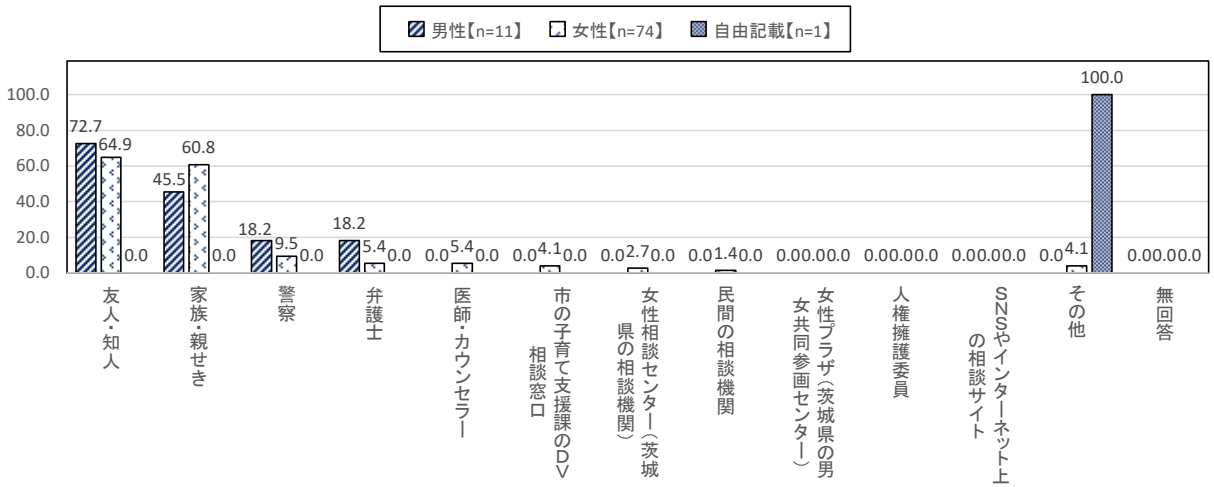
男女別に「相談した」割合をみると、男性では 12.6%、女性では 36.8%となっている。また、男性では「相談しようとは思わなかった」が８割近くを占めている。

### （５）《受けたＤＶについて相談した人》相談した人（場所）について

問 29-３　問 29-２で「１．相談した」とお答えいただいた方にうかがいます。
あなたが相談した人（場所）を教えてください。（○はいくつでも）




＜男女別＞

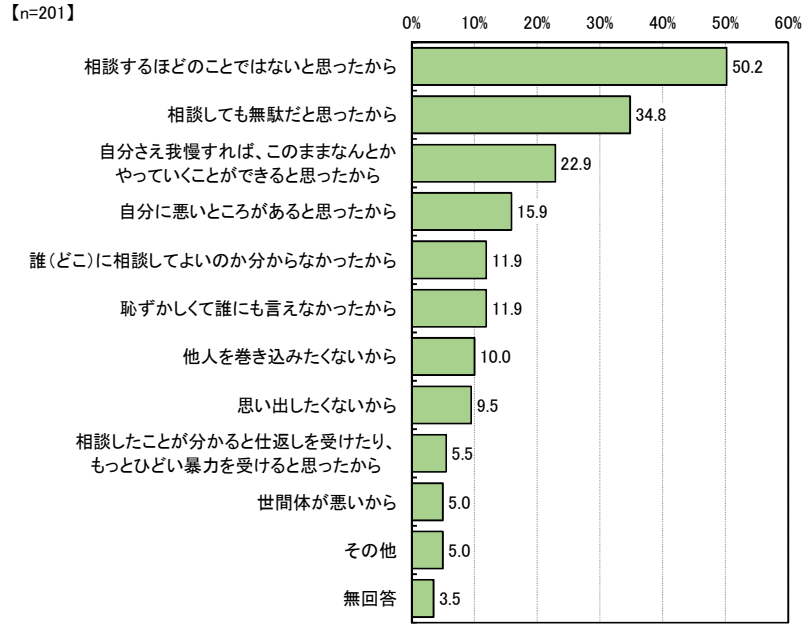



配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けことがあり、受けた行為について誰かに相談したと回答した人に、相談した人（場所）を尋ねたところ、「友人・知人」（65.1％）が最も多く、次いで「家族・親せき」（58.1％）が続いている。以下、「警察」（10.5％）、「弁護士」（7.0％）、「医師・カウンセラー」（4.7％）、「市の子育て支援課のＤＶ相談窓口」（3.5％）などの順となっている。

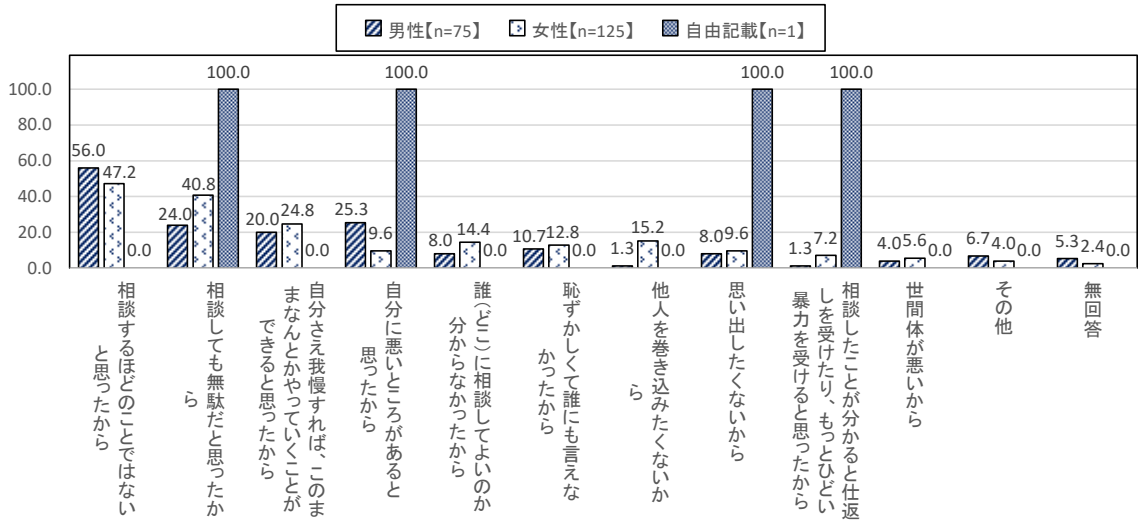
男女別にみると、男性、女性いずれも「友人・知人」が１位、「家族・親せき」が２位と共通しているが、回答割合でみると、「友人・知人」は男性の回答割合が高いのに対し、「家族・親戚」は女性の回答割合が高いうえに、15.3 ポイントの差がみられた。

### （６）《受けたＤＶについて相談できなかった人》相談できなかった理由

問 29-４　問 29-２で「２．相談できなかった」または「３.相談しようとは思わなかった」とお答えいただいた方にうかがいます。
あなたが誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）




＜男女別＞

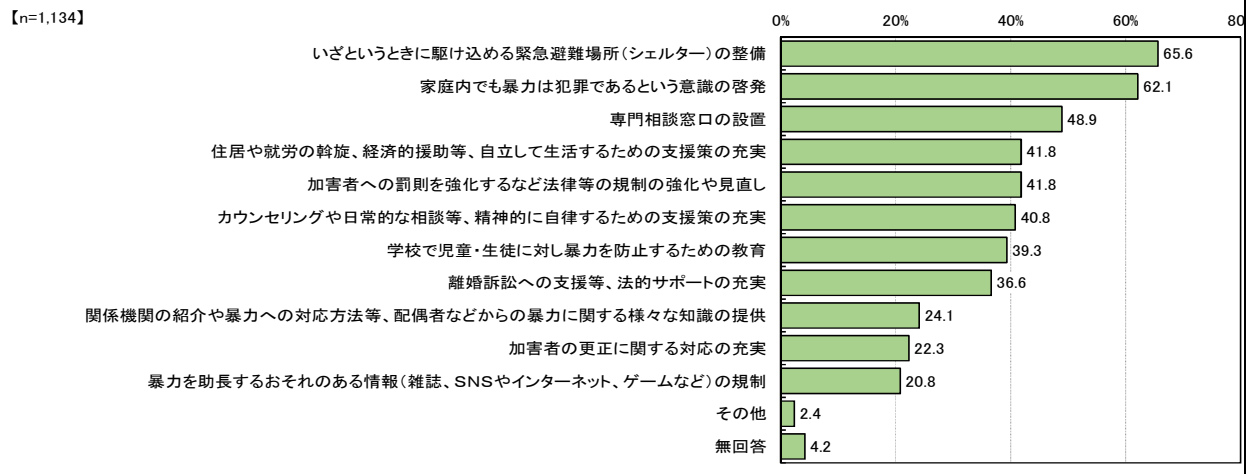



配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けことがあり、受けた行為について誰にも相談できなかった、相談しようと思わなかったと回答した人に、相談できなかった理由を尋ねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」（50.2%）が最も多く、以下、「相談しても無駄だと思ったから」（34.8%）、「自分さえ我慢すればこのまま何とかやっていくことができると思ったから」（22.9%）、「自分に悪いところがあると思ったから」（15.9%）などの順となっている。

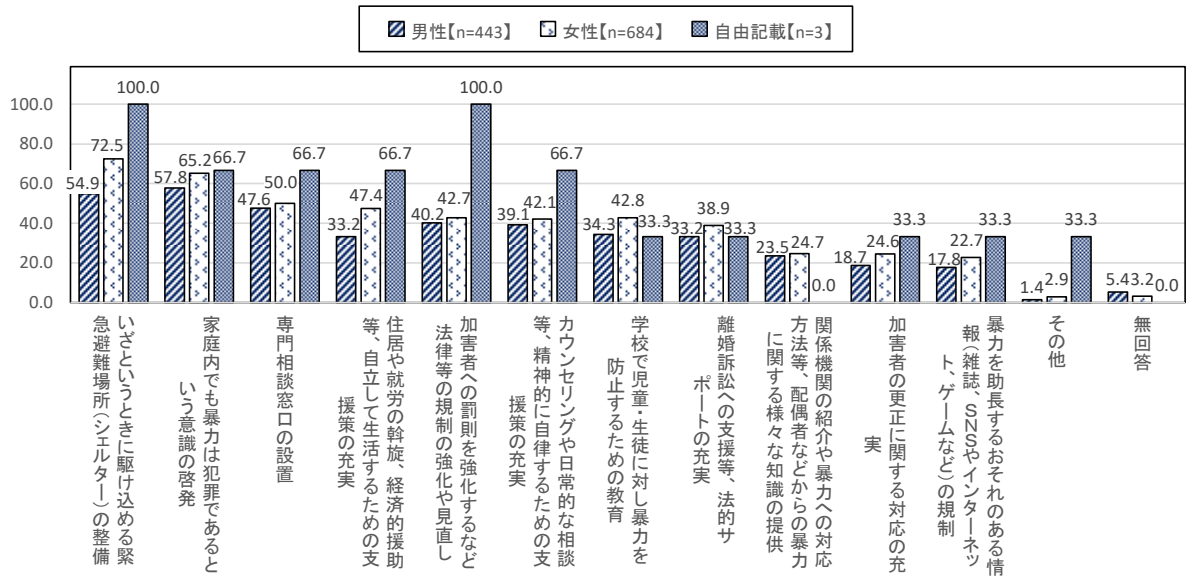
男女別にみると、男性、女性いずれも１位の「相談するほどのことではないと思ったから」は共通しているが、２位以降、男性は「自分に悪いところがあると思ったから」、「相談しても無駄だと思ったから」の順に対し、女性は「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、このままなんとかやっていくことができると思ったから」であった。

## （７）ＤＶの防止や被害者支援のために必要な対策

問 30　配偶者や交際相手等からの暴力の防止や被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。（○はいくつでも）




＜男女別＞




配偶者や交際相手等からの暴力の防止や被害者支援のために必要な施策について尋ねたところ、全体では、「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」（65.6%）、「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」（62.1%）が最も多く挙げられている。

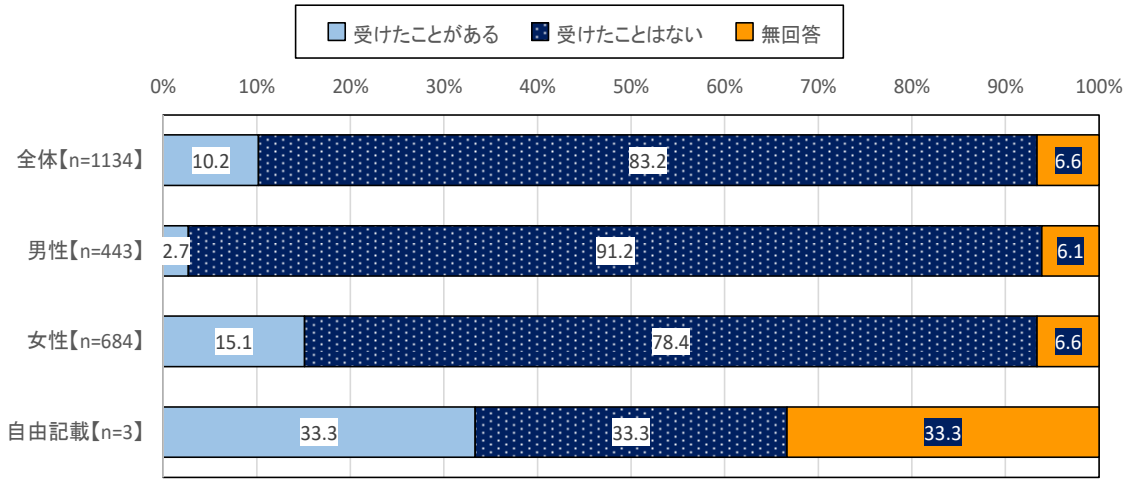
男女別にみると、無回答を除くすべての回答項目において、男性よりも女性の回答割合が高い傾向がみられた。その中でも、全体で１位であった「いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」の回答割合は、男性は 54.9%に対し、女性は 72.5%と 17.6 ポイントの差がみられた。

# 8　人権・性的少数者について

## （1）ハラスメントの経験の有無

問 31　最近３年の間に、職場・学校・地域でハラスメントを受けた、または周囲の方が被害を受けたのを見たり、聞いたりしたことがありますか。（①～④についてそれぞれ該当する選択肢に○を１つ）

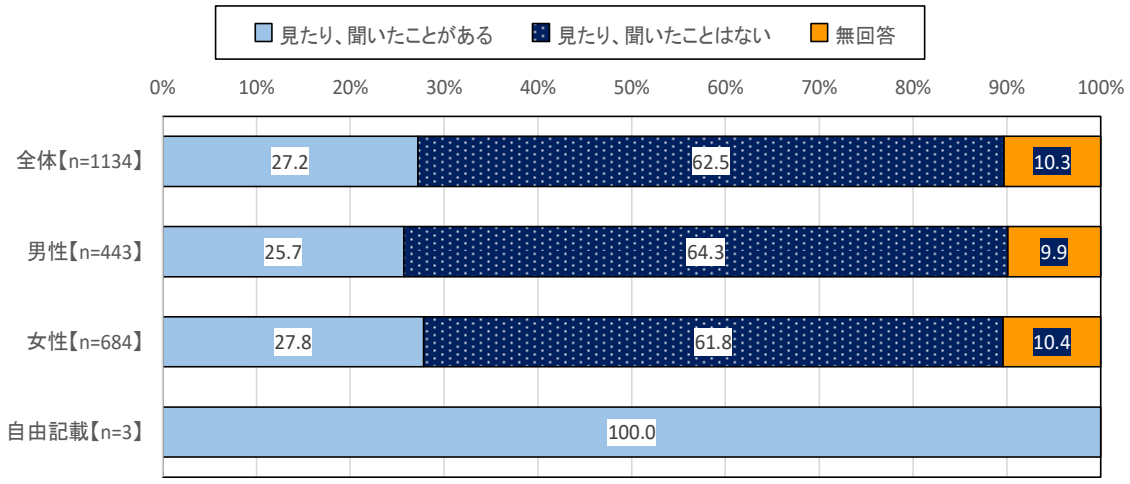
①セクシャル・ハラスメント被害について
（相手の意思に反し不快・不安な状態に追い込む性的な言葉や行為）
＜あなた自身＞




あなた自身が『①セクシャル・ハラスメント』を受けたことがあるか尋ねたところ、全体では「受けたことがある」割合は 10.2%となっている。

男女別にみると、「受けたことがある」割合は、男性では 2.7%、女性では 15.1%となっている。

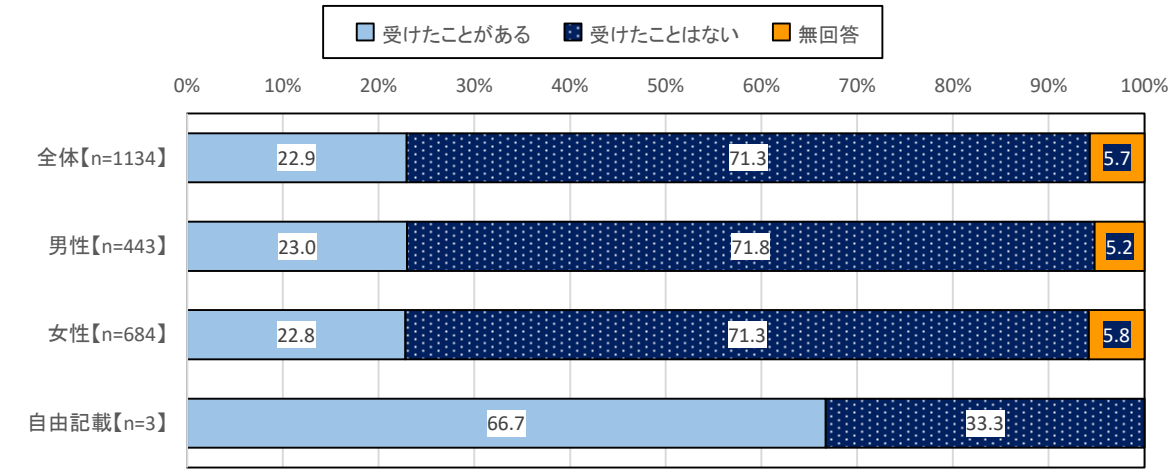
＜あなたの周囲＞




あなたの周囲で『①セクシャル・ハラスメント』を受けるのを見たり、聞いたことがあるか尋ねたところ、全体では「見たり、聞いたことがある」は 27.2%となっている。

男女別にみると、「見たり、聞いたことがある」は、男性では25.7%、女性では27.8%となっている。

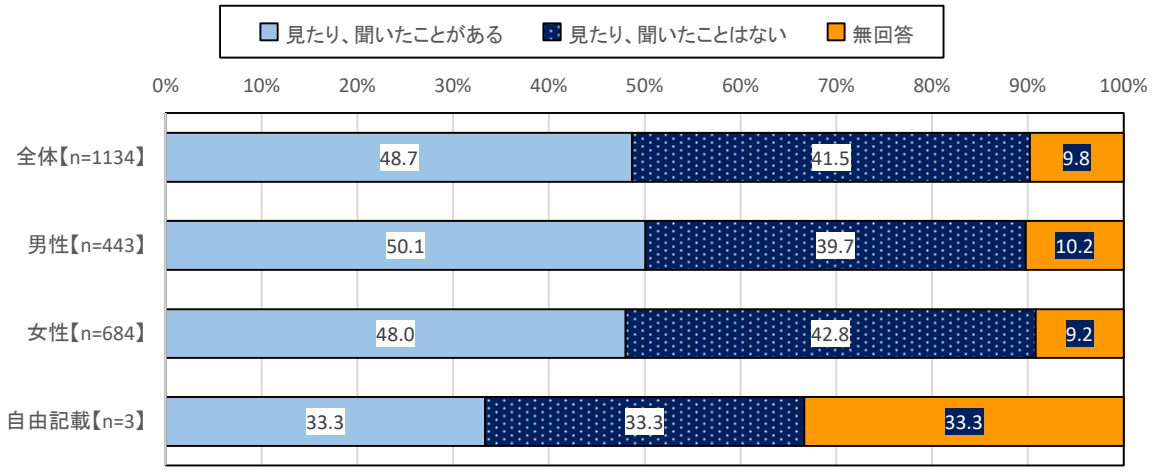
②パワー・ハラスメント被害について
（職場内の優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与える行為）
＜あなた自身＞




あなた自身が『②パワー・ハラスメント』を受けたことがあるか尋ねたところ、全体では「受けたことがある」は 22.9%となっている。

男女別にみると、「受けたことがある」は、男性では 23.0%、女性では 22.8%となっている。

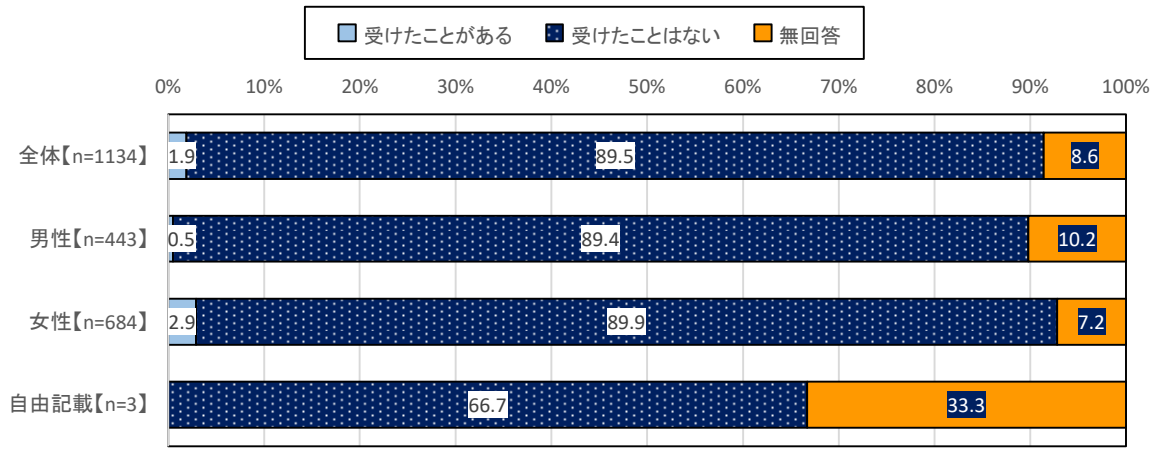
＜あなたの周囲＞




あなたの周囲で『②パワー・ハラスメント』受けるのを見たり、聞いたことがあるか尋ねたところ、全体では「見たり、聞いたことがある」は 48.7%となっている。

男女別にみると、「見たり、聞いたことがある」は、男性では 50.1%、女性では 48.0%となっている。

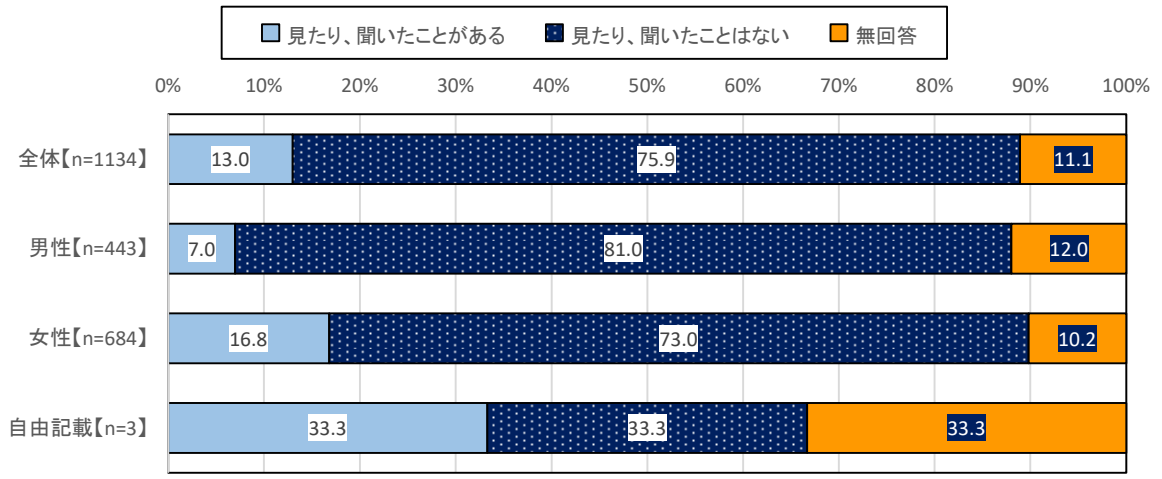
③マタニティ・ハラスメント被害について
（妊娠・出産を理由として、精神的・身体的苦痛を与える行為）
＜あなた自身＞




あなた自身が『③マタニティ・ハラスメント』を受けたことがあるか尋ねたところ、全体では「受けたことがある」は1.9%となっている。

男女別にみると、「受けたことがある」は、男性では0.5%、女性では2.9%となっている。

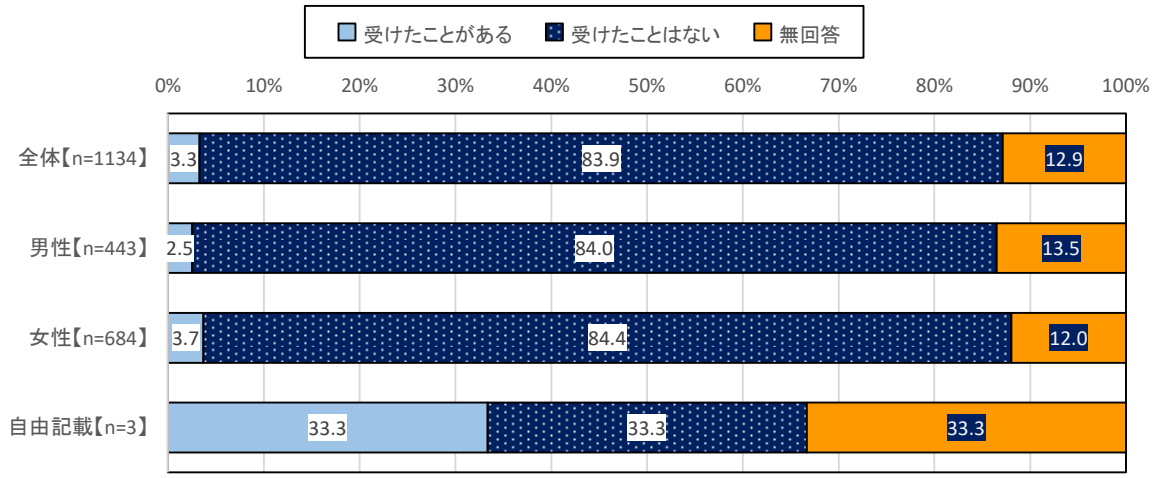
＜あなたの周囲＞




あなたの周囲で『③マタニティ・ハラスメント』を受けるのを見たり、聞いたことがあるか尋ねたところ、全体では「見たり、聞いたことがある」は13.0%となっている。

男女別にみると、「見たり、聞いたことがある」は、男性では7.0%、女性では16.8%となっている。

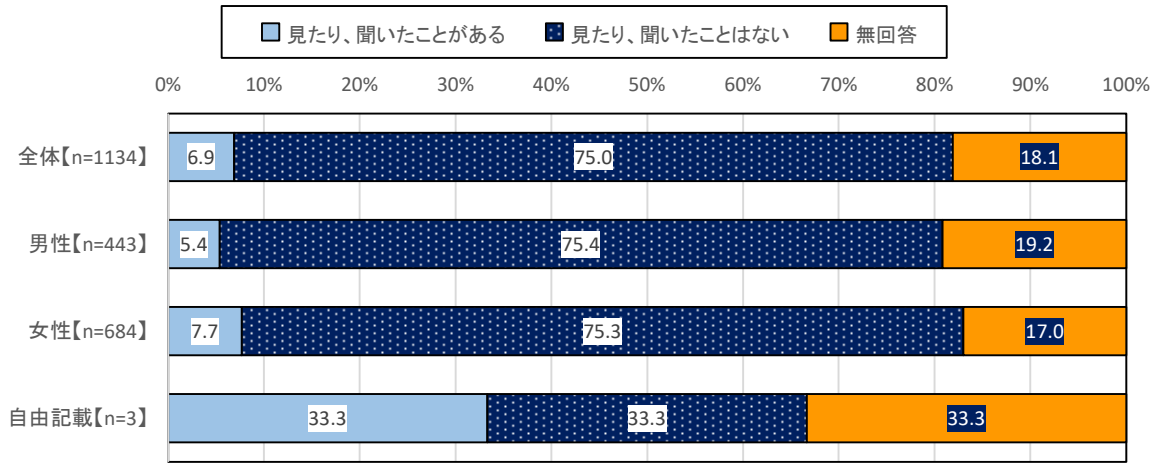
④その他のハラスメント被害について
＜あなた自身＞




あなた自身が『④その他のハラスメント被害』を受けたことがあるか尋ねたところ、全体では「受けたことがある」は3.3%となっている。

男女別にみると、「受けたことがある」は、男性では2.5%、女性では3.7%となっている。

＜あなたの周囲＞



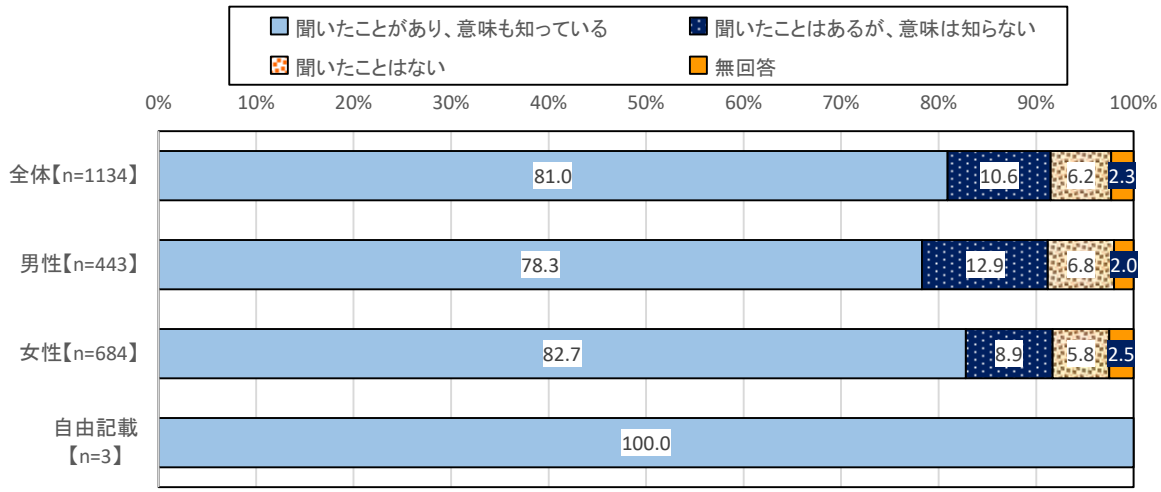

あなたの周囲で『④その他のハラスメント被害』を受けるのを見たり、聞いたことがあるか尋ねたところ、全体では「見たり、聞いたことがある」は6.9%となっている。

男女別にみると、「見たり、聞いたことがある」は、男性では5.4%、女性では7.7%となっている。

## （２）「性的少数者」の認識度

問 32　「性的少数者※（性的マイノリティ、ＬＧＢＴ等）」という言葉を聞いたことがありますか。（○は１つ）

※用語の意味
　性同一性障害など、「身体の性」と自分が認識する「心の性」が一致しない人や、恋愛感情など性的な意識が同性や両性に向う人、身体的な性別が不明瞭な人などのこと）

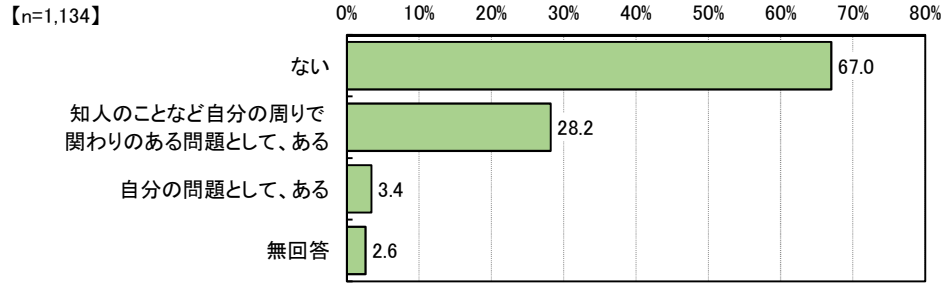



「性的少数者（性的マイノリティ、ＬＧＢＴ等）」という言葉を聞いたことがあるか尋ねたところ、全体では「聞いたことがあり、意味も知っている」は 81.0％となっている。

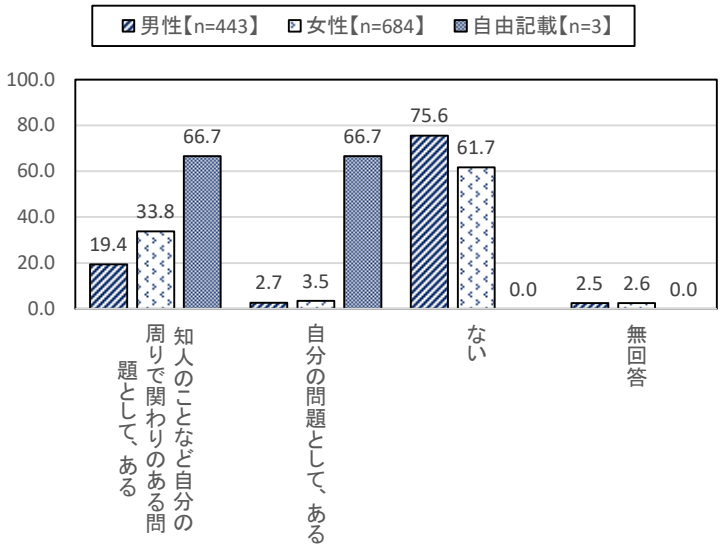
男女別にみると、「聞いたことがあり、意味も知っている」は、男性では 78.3％、女性では 82.7％となっている。また、「聞いたことはあるが、意味は知らない」は、男性では 12.9％、女性では 8.9％、「聞いたことはない」は、男性では 6.8％、女性では 5.8％となっている。

### （３）「性的少数者」に対する意識

問 33　あなたは、「性的少数者」のことを、自分や自分の周りでかかわりのある問題として、意識したり、考えたりしたことはありますか。（○はいくつでも）




＜男女別＞

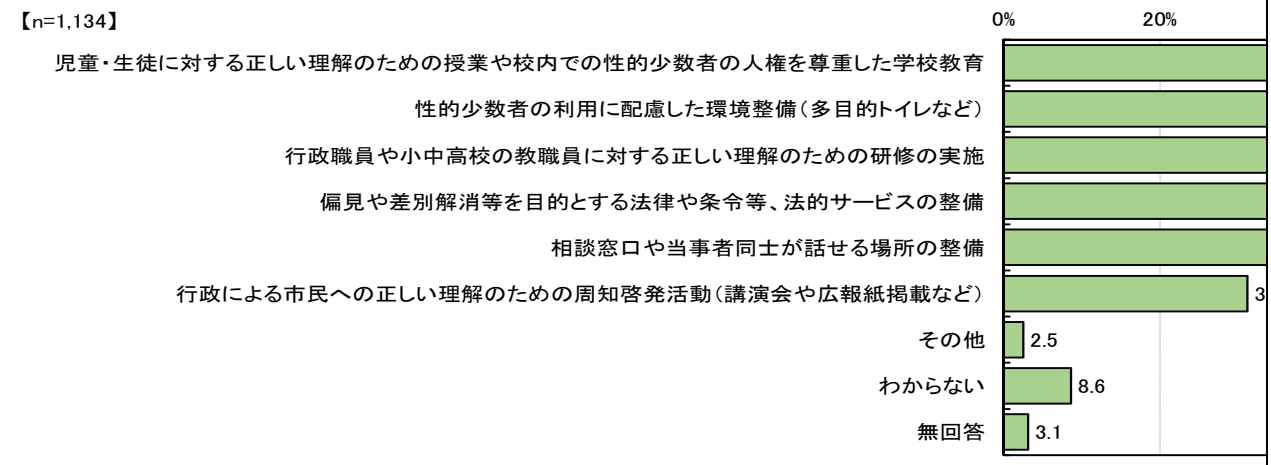



「性的少数者」のことを、自分や自分の周りでかかわりのある問題として、意識したり、考えたりしたことはあるか尋ねたところ、全体では「ない」は 67.0％、「知人のことなど自分の周りで関わりのある問題として、ある」は 28.2％、「自分の問題として、ある」は、3.4％となっている。

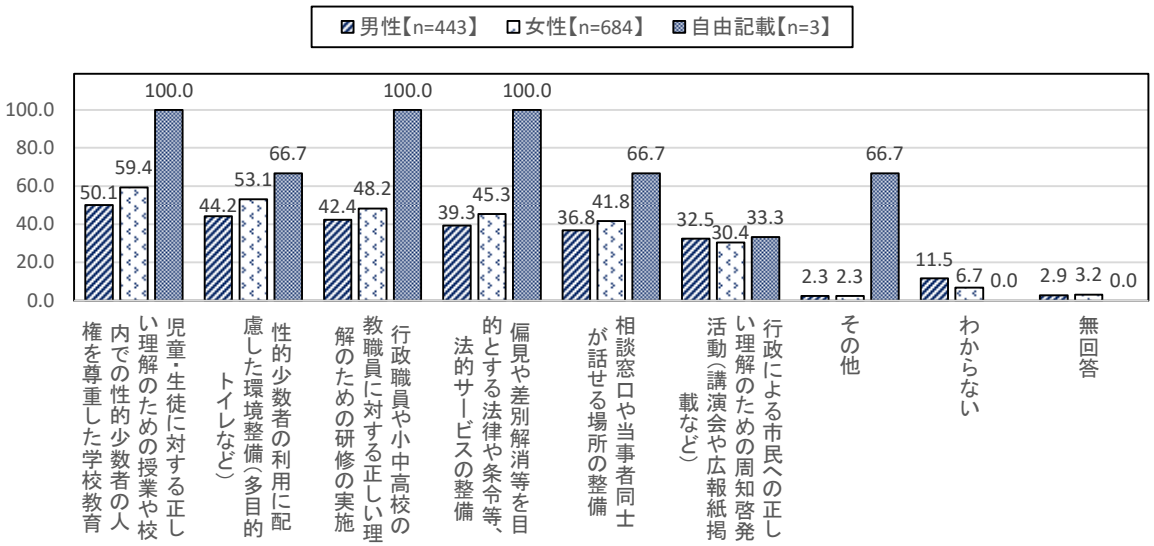
男女別にみると、「知人のことなど自分の周りで関わりのある問題として、ある」は、男性が 19.4％、女性では 33.8％となっている。また、「自分の問題として、ある」は、男性が 2.7％、女性では 3.5％となっている。

## （４）「性的少数者」の人権を守るために必要な取組

問 34　「性的少数者」の人権を守るために、どのような取組が必要だと思いますか。
（○はいくつでも）




＜男女別＞



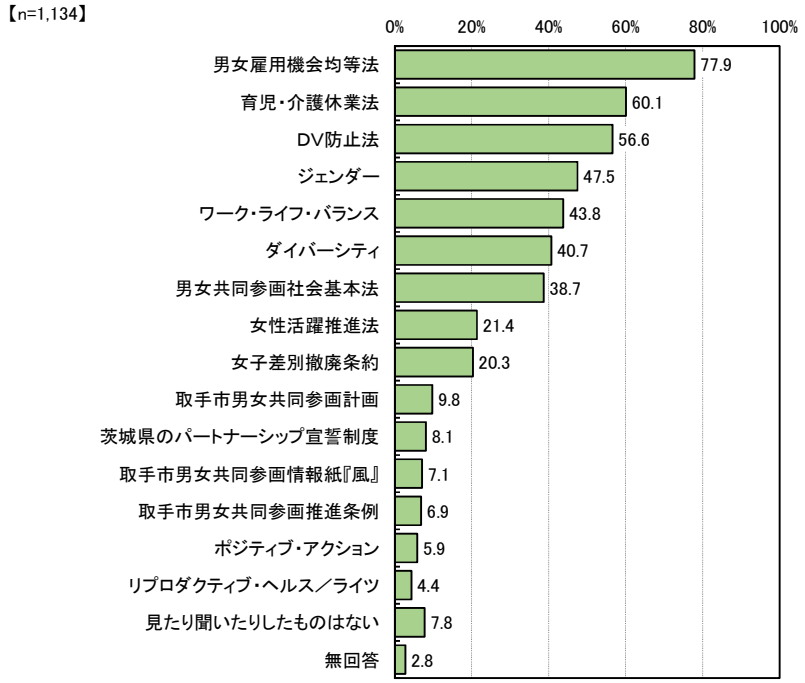

「性的少数者」の人権を守るために、どのような取組が必要か尋ねたところ、全体では「児童・生徒に対する正しい理解のための授業や校内での性的少数者の人権を尊重した学校教育」（55.7％）が最も多く、以下、「性的少数者の利用に配慮した環境整備（多目的トイレなど）」（49.6％）、「行政職員や小中高校の教職員に対する正しい理解のための研修の実施」（46.1％）、「偏見や差別解消等を目的とする法律や条令等、法的サービスの整備」（43.2％）などの順となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「児童・生徒に対する正しい理解のための授業や校内での性的少数者の人権を尊重した学校教育」が１位、「性的少数者の利用に配慮した環境整備（多目的トイレなど）」が２位など共通しているが、男性よりも女性の回答割合が多くなっている。

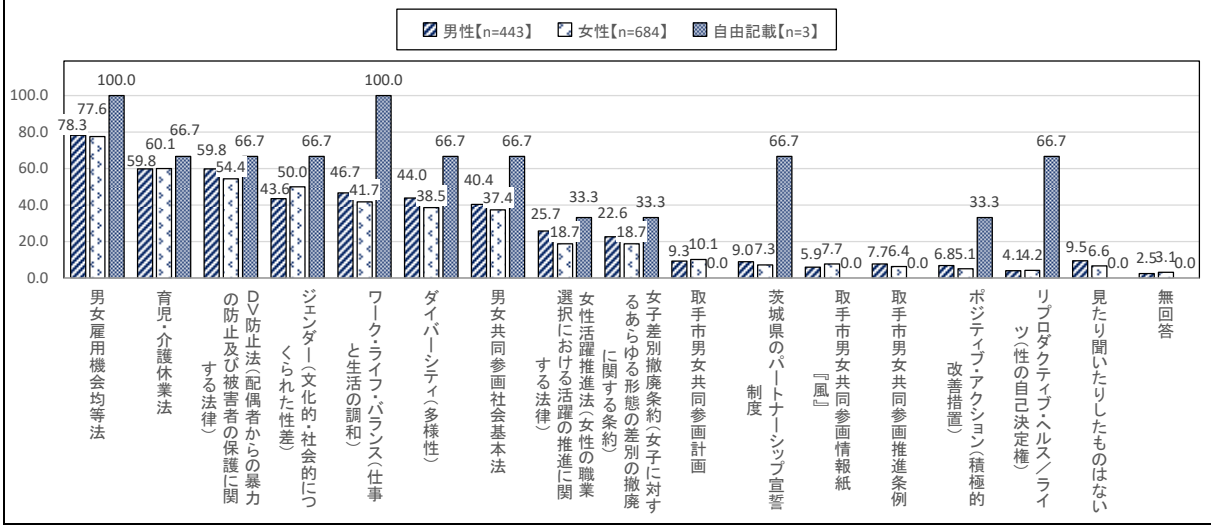
# ９　男女共同参画社会について

## （１）男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度

問 35　以下の言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。
（○はいくつでも）




＜男女別＞



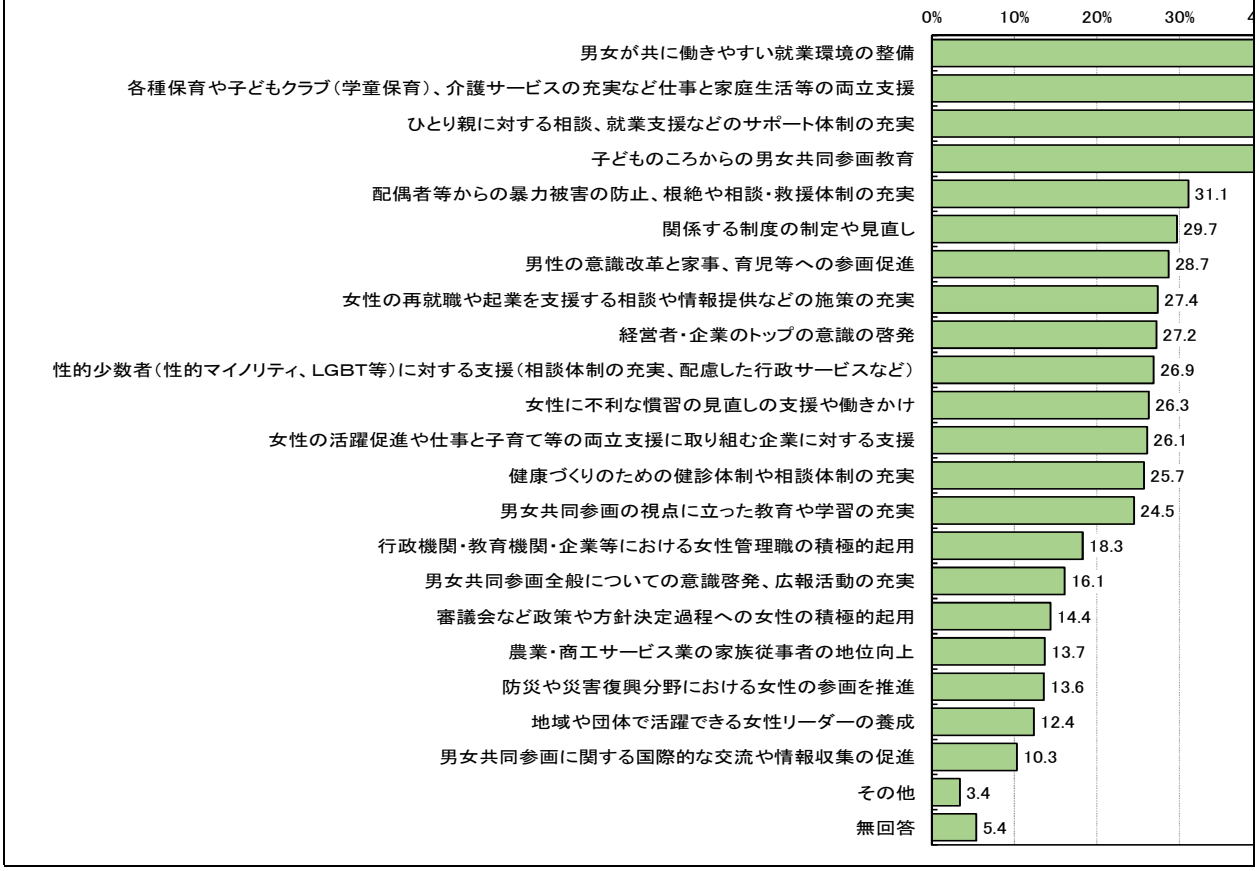

男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度をみると、全体では「男女雇用機会均等法」が 77.9％で最も高く、以下、「育児・介護休業法」（60.1％）、「ＤＶ防止法」（56.6％）、「ジェンダー」（47.5％）、「ワーク・ライフ・バランス」（43.8％）、「ダイバーシティ」（40.7％）などが上位に挙げられている。一方、7.8％は「見たり聞いたりしたものはない」と回答している。

男女別にみると、男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度について、男女差はそれほど大きくない状況がうかがえる。

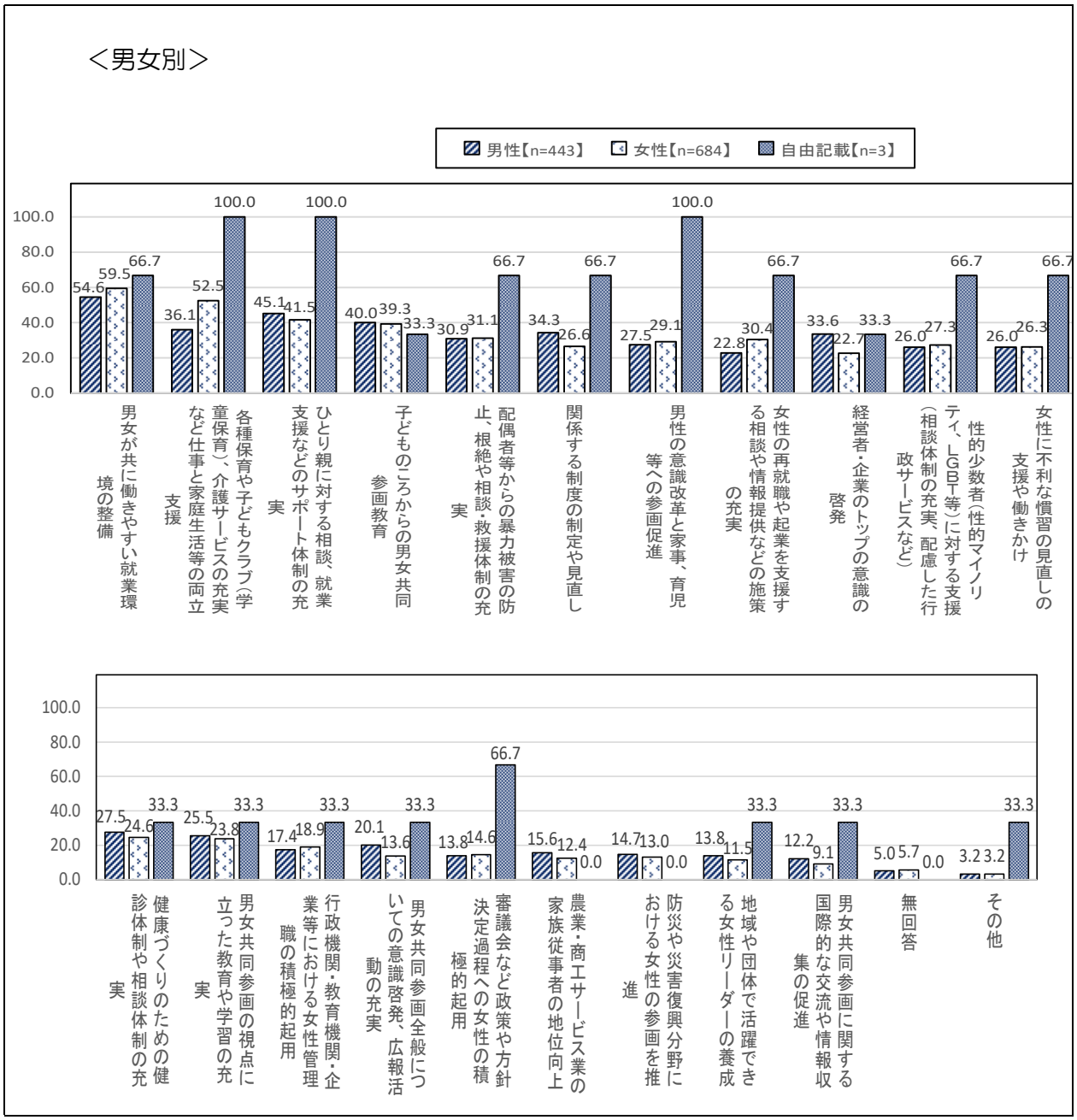
### （２）取手市（行政）が力を入れるべきこと

問 36　「誰もが自分らしく幸せに暮らせるまち取手」を実現するため、取手市（行政）は、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
（○はいくつでも）

【n=1,134】




「誰もが自分らしく幸せに暮らせるまち取手」の実現のために、取手市（行政）が力を入れていくべきことを尋ねたところ、全体では「男女が共に働きやすい就業環境の整備」（57.5%）が特に多く挙げられている。以下、「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」（46.1%）、「ひとり親に対する相談、就業支援などのサポート体制の充実」（43.0%）、「子どものころからの男女共同参画教育」（39.5%）、「配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実」（31.1%）などの順となっている。




男女別にみると、男性、女性ともに「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が多く挙げられている。以下、男性は「ひとり親に対する相談、就業支援などのサポート体制の充実」、「子どものころからの男女共同参画教育」、「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」の順となっている。女性では、「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」、「ひとり親に対する相談、就業支援などのサポート体制の充実」、「子どものころからの男女共同参画教育」の順となっており、その中でも「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」の回答割合は男性よりも 16.4 ポイント高くなっている。

## ●年代別クロス集計（上位回答）

（単位：%）

| | | 男女が共に働きやすい就業環境の整備 | 各種保育や子どもクラブ(学童保育)、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援 | ひとり親に対する相談、就業支援などのサポート体制の充実 | 子どものころからの男女共同参画教育 | 配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実 | 関係する制度の制定や見直し | 男性の意識改革と家事、育児等への参画促進 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年齢 | 18～19歳【n=29】 | 69.0 | 48.3 | 58.6 | 31.0 | 34.5 | 31.0 | 41.4 |
| | 20～24歳【n=89】 | 71.9 | 31.5 | 51.7 | 39.3 | 32.6 | 36.0 | 32.6 |
| | 25～29歳【n=94】 | 70.2 | 43.6 | 48.9 | 43.6 | 39.4 | 29.8 | 34.0 |
| | 30～34歳【n=88】 | 48.9 | 42.0 | 46.6 | 42.0 | 26.1 | 30.7 | 23.9 |
| | 35～39歳【n=131】 | 60.3 | 48.9 | 41.2 | 35.9 | 34.4 | 20.6 | 29.8 |
| | 40～44歳【n=88】 | 48.9 | 50.0 | 42.0 | 38.6 | 29.5 | 27.3 | 19.3 |
| | 45～49歳【n=135】 | 47.4 | 45.2 | 34.1 | 44.4 | 32.6 | 38.5 | 26.7 |
| | 50～54歳【n=145】 | 57.2 | 49.0 | 42.8 | 37.2 | 29.0 | 27.6 | 22.8 |
| | 55～59歳【n=122】 | 59.8 | 45.9 | 43.4 | 41.0 | 32.8 | 29.5 | 33.6 |
| | 60～64歳【n=80】 | 50.0 | 51.3 | 38.8 | 41.3 | 35.0 | 36.3 | 37.5 |
| | 65～69歳【n=130】 | 58.5 | 50.0 | 41.5 | 36.2 | 22.3 | 25.4 | 25.4 |

年代別に上位回答をみると、18～19 歳、20～24 歳、25～29 歳の各年代は、ほかの年代と比べて「男女が共に働きやすい就業環境の整備」の回答割合が多くなっている。30～34 歳では、上位４項目の回答割合に大きな差がみられなかった。35～39 歳、40～44 歳、45～49 歳、50～54 歳、55～59 歳、60～64 歳、65～69 歳の各年代では、若年層と比較して、「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」の回答割合が多くなっている。